GL-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が 100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス･ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

D

E

N

P

S

V

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動後は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（▷127、135 ページ）をご覧ください。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。特に安全に関わる作業について当てはまります。

詳しくは整備手帳をご覧ください。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

点検整備は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込むおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物は左右のウインドウより下の位置に積んでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷45 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ずセカンドシートまたはサードシートに装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロック（▷53 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷131 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P、N 以外の位置にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが P になっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを D、R にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- シフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルなどの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。純正でない、または承認されていない製品を使用すると、エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

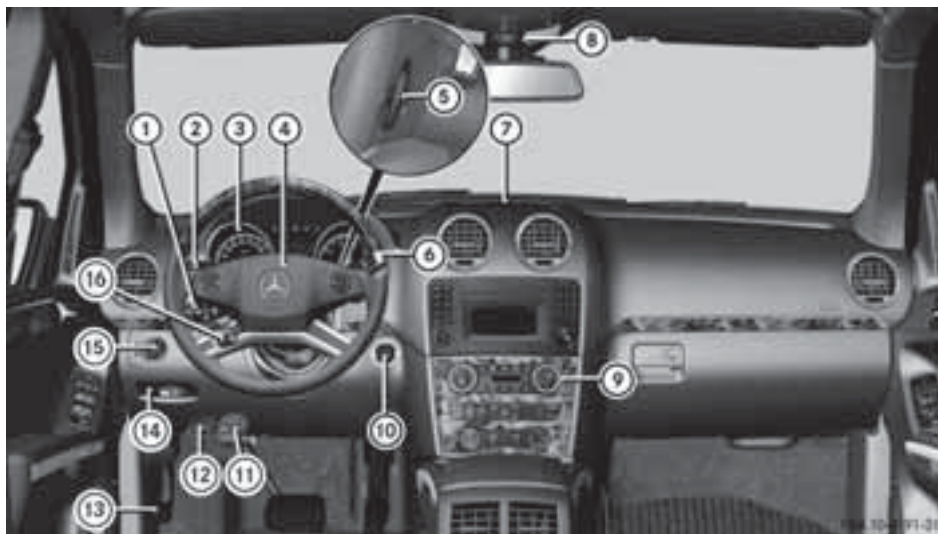
保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル

	名称	ページ
①	コンビネーションレバー	
	方向指示	113
	ヘッドライト	114
	ワイパー	121
	リアワイパー	123
②	操作レバー	
	DSR	180
	クルーズコントロール	189
	可変スピードリミッター	193
③	メーターパネル	149
④	ホーン / 運転席エアバッグ	40
⑤	パドル	144 147
⑥	セレクターレバー	132 141

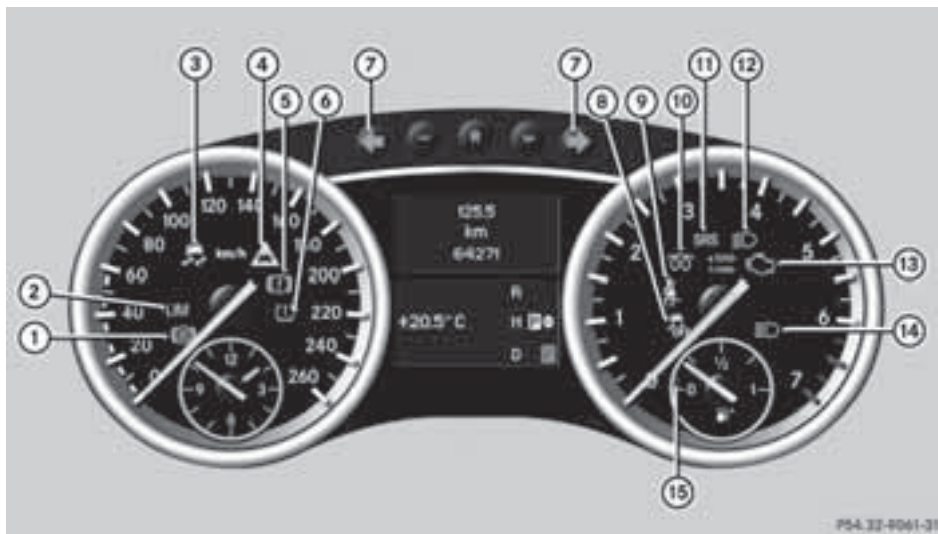
	名称	ページ
⑦	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	206
⑧	前席上方の操作部	30
⑨	エアコンディショナーコントロールパネル	225
⑩	エンジンスイッチ	84
	キーレスゴースイッチ	85
⑪	診断ソケット	
⑫	ボンネットロック解除レバー	270
⑬	パーキングブレーキペダル	137
⑭	パーキングブレーキ解除ハンドル	137
⑮	ライトスイッチ	110
⑯	ステアリング調整レバー	99

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	スピードメーター	149
②	スピードメーター表示単位	163
③	照度調整ボタン（暗）	150
④	リセットボタン	150
⑤	照度調整ボタン（明）	150

	名称	ページ
⑥	タコメーター	149
⑦	燃料計	150
⑧	マルチファンクションディスプレイ	151
⑨	時刻	150

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ABS 警告灯	332 333
②	可変スピードリミッター表示灯	196
③	ESP® / ETS 表示灯	333 334 335
④	日本仕様車では機能しません	
⑤	ブレーキ警告灯	332 333 335
⑥	日本仕様車では装備されません	
⑦	方向指示表示灯	114

	名称	ページ
⑧	ESP® オフ表示灯	333 334 335
⑨	シートベルト警告灯	331
⑩	日本仕様車では装備されません	
⑪	SRS 警告灯	335
⑫	ヘッドライト表示灯	111
⑬	エンジン警告灯	336
⑭	ハイビーム表示灯	114
⑮	燃料残量警告灯	150

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	151
②	COMAND システム	別冊
③	設定スイッチ / 音量スイッチ [+] [−]	152
	通話開始 / 終了スイッチ（電話）	152
	音声認識スイッチ	152

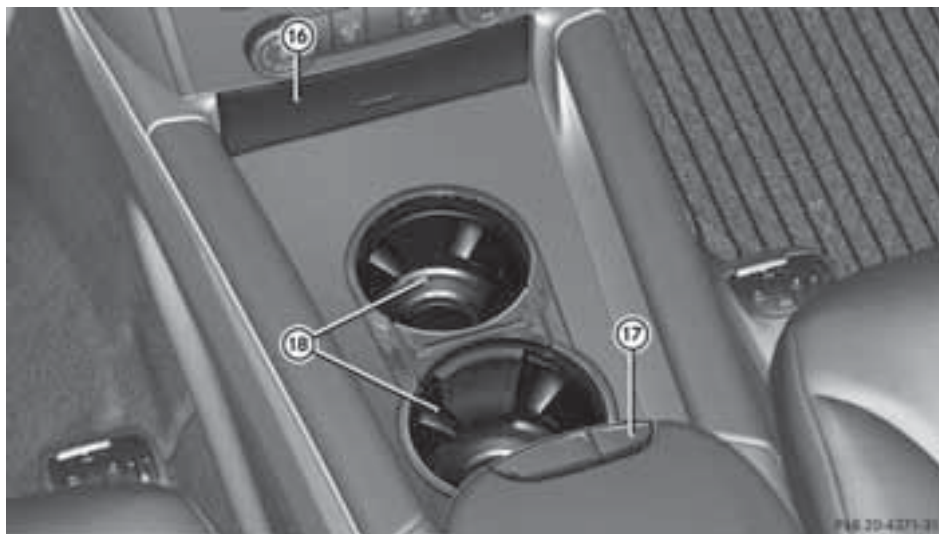
	名称	ページ
④	スクロールスイッチ	152
	表示切り替えスイッチ	152
	音声認識解除スイッチ OFF	152

センターコンソール

センターコンソール上部

	名称	ページ
①	COMAND システム	別冊
	サイドビューカメラ / パーキングアシストリアビューカメラ表示	210 215
②	非常点滅灯スイッチ	115
③	走行モード選択スイッチ	146
④	シートヒータースイッチ	96
⑤	シートベンチレータースイッチ	98
⑥	日本仕様車では装備されません	
⑦	助手席エアバッグオフ表示灯	47

	名称	ページ
⑧	ディファレンシャルロックダイヤル	188
⑨	ローレンジスイッチ	184
⑩	DSR スイッチ	180
⑪	車高調整ダイヤル	198
⑫	盗難防止警報システム表示灯	62
⑬	ESP® オフスイッチ	60
⑭	サスペンションモード選択スイッチ	197
⑮	パークトロニックオフスイッチ	208

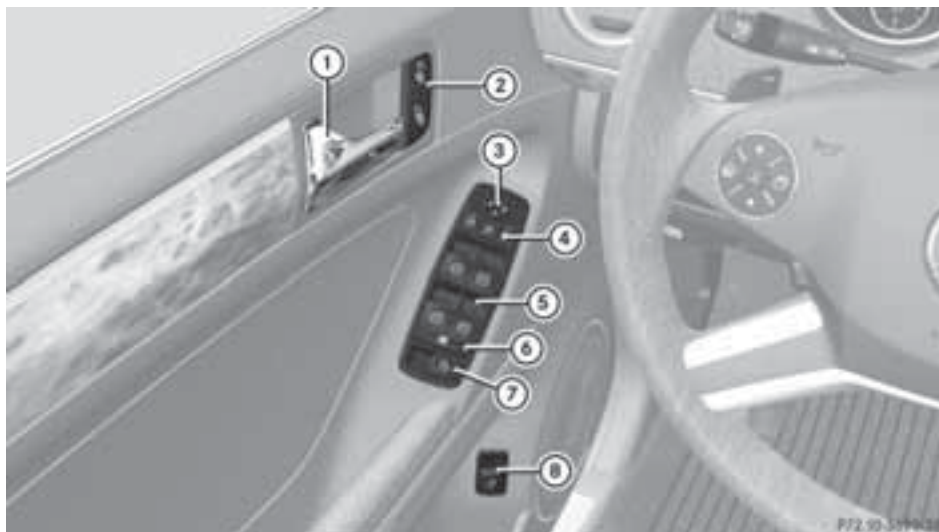
センターコンソール下部

	名称	ページ
⑯	灰皿	258
	ライター	259

	名称	ページ
⑰	フロントアームレストの小物入れ	244
⑱	カップホルダー	245

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	フロント読書灯（左側）スイッチ	117
②	サードシートルームランプスイッチ	117
③	点灯モード選択スイッチ	117
④	フロントルームランプスイッチ	117

	名称	ページ
⑤	フロント読書灯（右側）スイッチ	117
⑥	スライディングルーフスイッチ	239
⑦	ルームミラー	101

ドアの操作部

	名称	ページ
①	ドアレバー	78 79
②	ドアロックスイッチ	79
③	ドアミラー調整スイッチ	101
④	ドアミラー選択スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ	101 102

	名称	ページ
⑤	ドアウインドウスイッチ	126
⑥	リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックスイッチ	54
⑦	ベンチレーションウインドウスイッチ	127
⑧	テールゲートスイッチ	83

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置が適切に機能するため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷87、92 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷105 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷38 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぎます。これにより、けがの危険性を減らすことができます。

したがって、衝突時にエアバッグが作動したときは、エアバッグは正しく着用されたシートベルトの保護機能に加えて効果を発揮します。

⚠ **警 告**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具ならびに設備を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

不適切な作業を行なうと、車両の走行安定性が損なわれる可能性があります。その結果、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、安全装備が正常に作動しなくなり、乗員保護効果が得られないおそれがあります。

⚠ **警 告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。

- シートベルトやベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突時の衝撃の強さが乗員保護装置が作動するレベルに達していても、エアバッグとシートベルトテンショナーが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、絶対に車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ **警 告**

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ⓘ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向、および以下のような事故の種類に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 横転による衝突

ⓘ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

以下のシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

- フロントシート
- 左右セカンドシート
- サードシート

フロントシートには、シートベルトのバックルを下方に引き込む機能があります。

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

左右セカンドシートとサードシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 側面衝突の際に、車両の横方向に急激に一定以上の衝撃を受けたとき
- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

ベルトフォースリミッター

フロントシートと左右セカンドシート、サードシートのシートベルトにはベルトフォースリミッターが装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートベルトのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ **警 告**

シートベルトテンショナーが作動すると、次に事故が発生した場合は乗員保護機能が得られません。そのため、作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス·ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス·ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

⚠ **警 告**

フロントシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトのバックルが下方に引き込まれたときにのみ、正しく機能します。シートベルトのバックルの動きを妨げるようなものがないことを確認してください。また、バックルをつかまないでください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。

エアバッグ

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。これにより、乗員の身体への衝撃を分散・軽減します。

エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ 警 告

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストが目の高さにあり、後頭部が支えられるように調整してください。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

- 助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ダッシュボードの上に足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側のリムの部分を握ってください。ステアリングのパッド部を持つと、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、ペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーを、ドアに取り付けないでください。

- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ **警 告**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のパネル部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロント / セカンドシートのバックレスト側面

⚠ **警 告**

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。

⚠ **警 告**

関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

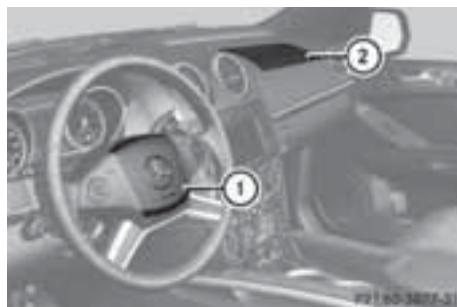
次に事故が発生した場合は、エアバッグによる乗員保護機能が得られません。

⚠ **警 告**

未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
運転席ニーバッグ	運転席足元
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
セカンドシートサイドバッグ	セカンドシートの左右側面
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

運転席エアバッグ①/ 助手席エアバッグ② は、縦方向からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席 / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席エアバッグは、助手席に乗員が乗車しているときにのみ作動します。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換する必要があります。

i 縦方向からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

運転席ニーバッグ

運転席ニーバッグ①は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動し、運転席乗員の膝から下への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグ

⚠ **警告**

フロントシートおよびセカンドシートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のフロントサイドバッグ①/セカンドシートサイドバッグ②が作動し、胸部への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグは、シートベルトの着用や運転席/助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断しない限り、基本的に作動しません。

ウインドウバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ①が作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、助手席の乗員の有無、シートベルトの着用、運転席/助手席エアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、横方向に一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、ウインドウバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ、ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ、ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE®

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- 車が物理的な限界を超えて強いアンダーステア状態やオーバーステア状態など、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE® は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込みます。
- 助手席シートが不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に調整します。
- 車が横滑りすると、ドアウインドウとスライディングルーフが少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が危険な状態から脱すると、引き込まれた前席シートベルトの張力が緩みます。また、助手席シートの位置、ドアウインドウやスライディングルーフの開き具合を再度調整することができます。

前席シートベルトの引き込みが解除されないとき

▶ 停車しているときに、シートベルトの張力が緩むまで、バックレスト角度やシートの前後位置を後方に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

⚠ **警 告**

助手席シートの位置を調整するときは、身体が挟まれないように注意してください。

! シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部や頚部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ **警 告**

フロントシートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷339 ページ）。

リセットをしないと、次に後方からの衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このリセット作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。
チャイルドセーフティシートは後席に装着し、走行している間は、チャイルドセーフティシートにより子供の身体を固定してください。
Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています（▷48 ページ）。

⚠ **警 告**

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大なけがや致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗車させ、確実に身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要になります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に投げ出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供がそのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側のサンバイザーに貼付されています。

- やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着してください。

  また、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 絶対に子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができなくなり、子供が車内の部品に激しくぶつかったり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- チャイルドセーフティシートはセカンドシートまたはサードシートに装着してください。子供の安全性が高くなります。
- セカンドシートまたはサードシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして確実にロックしてください。
- チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接している必要があります。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品と交換してください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

⚠ 警告

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。

⚠ 警告

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い物や硬い物を積むときは、確実に固定してください。荷物を積むときの注意点ついて、詳しくは（▷242、249 ページ）をご覧ください。

助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグオフ表示灯①は、チャイルドセーフティシート検知システム装備車のための表示灯です。日本仕様には設定のない装備のため、表示灯としては機能しません。
イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 13kg 以下	新生児～18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～4 歳位
キッド または キッドフィックス	15 ～ 36kg	3 歳半～12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートをシートベルトで固定するとき、シートベルトが引き出されないようにロックしてチャイルドセーフティシートを確実に固定するシステムです。

セカンドシートとサードシートのシートベルトに装備されています。

※ チャイルドセーフティシート固定機構は本国仕様車の装備であり、日本仕様車では一部のシートに装備されない場合があります。

⚠ 警 告

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートを装着する

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従います。

▶ シートベルトをベルトアンカーからゆっくりと引き出します。

▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込みます。

固定機構を使用する

▶ シートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

固定機構が作動すると、シートベルトが巻き取られているときに、固定機構の作動音が聞こえます。

▶ チャイルドセーフティシートを押し、シートベルトのゆるみを取ります。

! チャイルドセーフティシートを固定後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従います。

▶ シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

! シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右セカンドシートとサードシートに、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

⚠ 警 告

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを車両のシートベルトで装着してください。

⚠ 警 告

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- 安全のため、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートは必ず左右セカンドシートまたはサードシートの固定装置に装着してください。
- 正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ **警 告**

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護効果が得られなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートをセカンドシートに装着するときは、中央の席のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

固定装置を使用する

▶ カバー ① を取り外します。

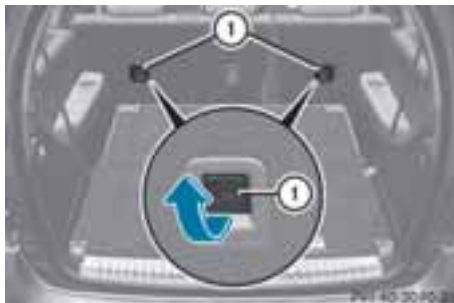
② 固定装置

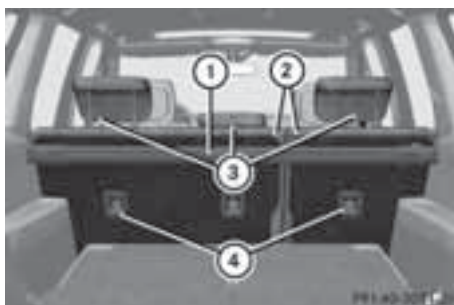
▶ 固定装置 ② にチャイルドセーフティシートを装着します。

テザーアンカー

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のときなどにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

テザーアンカーは、セカンドシートのバックレストの背面にあります。サードシートでは、サードシート後方のラゲッジルームにある荷物固定用リング（▷249 ページ）をテザーアンカーとして使用できます。

テザーフックを取り付ける

▶ カバー ① を取り外します。

▶ 取り外したカバー ① をグローブボックスなどに収納します。

▶ ヘッドレスト ③ を上げます。

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。

▶ ヘッドレスト ③ の 2 本の支柱の間にテザーベルト ⑥ を通します。

▶ テザーベルト ⑥ をバックレスト ② とラゲッジルームカバー収納リール ① の間に通します。

▶ テザーフック ⑤ をテザーアンカー ④ にかけます。

以下を確認してください。

- テザーフック ⑤ がテザーアンカー ④ にかかっている
- テザーベルト ⑥ がねじれていない
- ラゲッジルームカバー収納リール ① を装着しているときは、テザーベルト ⑥ がバックレスト ② とラゲッジルームカバー収納リール ① の間を通っている
- セーフティネットを取り付けているときは、テザーベルト ⑥ がバックレスト ② とセーフティネットの間を通っている

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルト ⑤ を締めます。

▶ 必要であれば、ヘッドレスト ③ を少し下げます。

テザーベルト ⑥ の動きが妨げられていないことを確認してください。

装着できる ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置には、下表のカテゴリーおよびサイズ等級に属している、ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを装着できます。

<table>
<tr><th>カテゴリー（適応体重）</th><th>キャリコット（携帯式ベッド）</th><th>0
（10kg まで）</th><th>0+
（13kg まで）</th><th colspan="2">I
（9 ～ 18kg）</th></tr>
<tr><td>サイズ等級（装着器具タイプ）</td><td>F
（ISO/L1）
G
（ISO/L2）</td><td>E
（ISO/R1）</td><td>C
（ISO/R3）
D
（ISO/R2）
E
（ISO/R1）</td><td>C
（ISO/R3）
D
（ISO/R2）</td><td>A
（ISO/F3）
B
（ISO/F2）
B1
（ISO/F2X）</td></tr>
<tr><td>左右
セカンドシート</td><td rowspan="2">装着することはできません。</td><td colspan="3">ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。</td><td rowspan="2">ユニバーサル（汎用）ISO-FIX 対応であれば、固定装置で装着することができます。</td></tr>
<tr><td>サード
シート</td><td colspan="3">装着することはできません。</td></tr>
</table>

詳しくは、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ チャイルドセーフティシートのカテゴリーやサイズ等級については、チャイルドセーフティシート本体に装着されているステッカーやチャイルドセーフティシートの取扱説明書をご覧ください。

チャイルドプルーフロック

⚠ **警告**

子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

⚠ **警告**

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

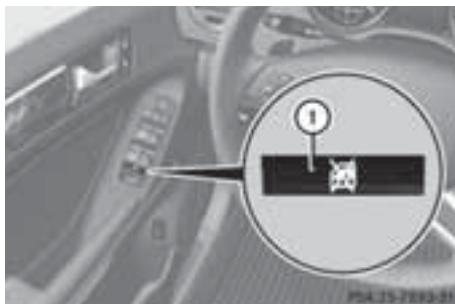
リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ レバーを設定側②に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、ドアが開かないことを確認します。

解除するときは、レバーを解除側①に操作します。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウの開閉ができなくなります。

▶ スイッチ ① を押して、押された状態にします。

リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。

▶ 解除するときは、スイッチ ① を押して、押されていない状態にします。

ℹ チャイルドプルーフロックの設定/解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)
- BAS(ブレーキアシスト)
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)
- EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)

安全上の重要事項

⚠ **警告**

スピードの出しすぎなどの無謀な運転をすると、事故の危険性が非常に高まります。カーブを走行するときや、濡れた路面または滑りやすい路面を走行するとき、先行車との車間距離が短すぎるときなどは、特に危険です。

本書に記載されている走行安全装備は事故の危険性を低減するものではありません。また、各システムの機能には物理的な限界があります。

運転者は、路面や天候の状況に合わせて常に慎重に運転してください。周囲の交通状況に注意しながら、十分な車間距離を確保してください。

ℹ 走行安全装備は、タイヤが路面に十分接地しているときにのみ、十分な効果を発揮します。タイヤに関する情報やタイヤの摩耗については「タイヤとホイール」をご覧ください(▷279 ページ)。

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ 警 告

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

ブレーキ操作をする

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。

ABS が作動したとき

▶ 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なとき

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

⚠ 警 告

ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

オフロード ABS

オフロード ABS は、未舗装路やぬかるみなどの悪路でブレーキを踏んだときにフロントタイヤを強制的にロックさせ、制動力を向上させるオフロード専用のシステムです。

オフロード ABS は、ローレンジ（▷183 ページ）にしたときに、約 30km/h 以下の速度でブレーキを強く踏むと自動的に作動します。

⚠ **警 告**

- オフロード ABS は未舗装路、ぬかるみなどの悪路でのブレーキ時の制動力を高める装備で、無謀な運転から事故を防ぐものではありません。オフロード ABS が適切に作動しても、制動力には限界があります。
- オフロード ABS の作動時は、フロントタイヤがロックするため車両の操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。慎重に運転することを心がけてください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

ABS により、車輪のロックが抑えられます。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 警告

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ℹ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ℹ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個々のタイヤに独立してブレーキを効かせたり、エンジン出力を制御することによって、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したときは、ESP® が作動しています。

この車には、4 輪駆動システムのために専用に開発された 4-ESP® が装備されています。

[ESP] ESP® 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ 警告

ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したときは、以下のようにしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 路面と天候の状況に合わせて運転してください。

車輪が空転したり、車が横滑りするおそれがあります。

⚠ **警告**

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 車輪を上げてけん引されるときは、イグニッション位置を **2** にしないでください。ESP® が作動し、接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP® 表示灯 [ESP] や ESP® オフ表示灯 [ESP OFF]、ABS 警告灯 [ABS] が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

i ABS 警告灯 [ABS] が点灯しているときは、ESP® も作動しません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯 [ESP] が点滅したままになります）。

4ETS

ETS は、ESP® の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

この車には、4 輪駆動システムのために専用に開発された 4ETS が装備されています。

ESP® の機能が解除されている場合でも、ETS の機能は解除されません。

▶ 走行状況に対して適切な場合は、ローレンジ（▷183 ページ）にしてください。

> ⚠ **警 告**
>
> ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
>
> ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

オフロード 4ETS

オフロード 4ETS は、ローレンジ（▷183 ページ）にしたときに、ETS の作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

ESP® の機能の解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

次のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

> ⚠ **警 告**
>
> ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジンの出力制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを検知すると、ESP® 表示灯 [ESP] が点滅しますが、ESP® は作動しません。

⚠ 警 告

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

ESP® の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯します。

⚠ 警 告

エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 [ ] と ESP® オフ表示灯 [OFF] が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。

特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。

路面と天候の状況に合わせて運転してください。

ESP® を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF] が消灯します。

[OFF] ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

オフロード ESP®

オフロード ESP® は、ローレンジ（▷183 ページ）にしたときに、ESP® の作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

悪路でアンダーステアやオーバーステアが起きたときは、ESP® が遅れて作動することにより、駆動力が向上します。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

> ⚠ **警告**
>
> EBD に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

盗難防止システム

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させないようにする機能です。

キーによりイモビライザーを作動させる

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

キーレスゴーによりイモビライザーを作動させる

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

イモビライザーを解除する

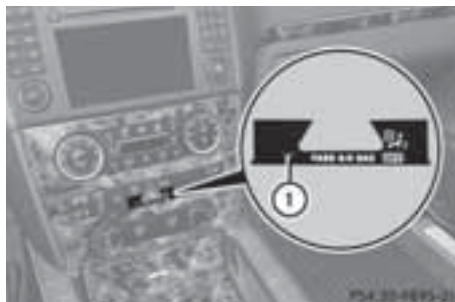
▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプや読書灯なども約 5 分間点灯します。

- ドアが開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、車を施錠した後、エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

システムを解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報を停止する

▶ 以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーのいずれかのボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、キーがある側のドアハンドルに触れるか、テールゲートハンドルを引く
- キーがキーレスゴーのテールゲート側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、テールゲートハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す
- キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

ℹ ドアやテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

ℹ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしても、ボンネットが開けられたときに警報は作動しません。

ℹ システムが待機状態のときに車内のドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

けん引防止機能

盗難防止警報システムが待機状態のとき、車が傾いたことを検知すると、けん引防止機能が作動し、ホーンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

警報を停止する

- キーのいずれかのボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、キーがある側のドアハンドルに触れるか、テールゲートハンドルを引く
- キーがキーレスゴーのテールゲート側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、テールゲートハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す
- キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

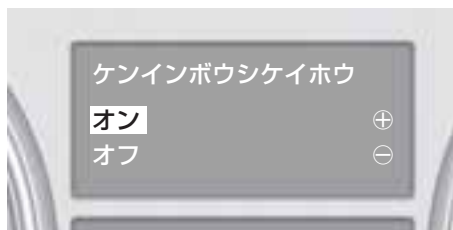
待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

けん引防止機能が自動的に解除されます。

けん引防止警報機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて運搬するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにけん引防止機能の設定を表示させます（▷173 ページ）。

▶ [−] を押し、" オフ " を選択します。

けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

けん引防止機能が解除されます。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにエンジン停止時の表示の設定を表示させます（▷169 ページ）。

▶ + を押し、" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ " を選択します。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾝ " と表示されます。

" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示されたときは、けん引防止機能が解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠してください。

▶ ステアリングの + または − を押します。

マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示され、けん引防止機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を解錠したとき
- ドアを開閉したとき
- 車を施錠したとき

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- ベンチレーションウインドウが完全に閉じていること
- スライディングルーフが完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ すべてのドアとテールゲートが閉じていることを確認します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 40 秒後に待機状態になります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

室内センサーが自動的に解除されます。

警報を停止する

▶ 以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーのいずれかのボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、キーがある側のドアハンドルに触れるか、テールゲートハンドルを引く
- キーがキーレスゴーのテールゲート側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、テールゲートハンドルを引くか、テールゲートのキーレスゴースイッチを押す
- キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- スライディングルーフを少し開いた状態で車から離れるとき

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイに室内センサーの設定を表示させます（▷174 ページ）。

▶ ステアリングの [－] を押し、" オフ " を選択します。

室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

室内センサーが解除されます。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイにエンジン停止時の表示の設定を表示させます（▷169 ページ）。

▶ ステアリングの [＋] を押し、" シツナイセンサ " を選択します。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイに " シツナイセンサ オン " と表示されます。

" シツナイセンサ オフ " と表示されたときは、室内センサーが解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠してください。

▶ ステアリングの [+] または [−] を押します。

マルチファンクションディスプレイに " シツナイセンサ オフ " と表示され、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

室内センサーが解除されます。

室内センサーは、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を解錠したとき
- ドアを開閉したとき
- 車を施錠したとき

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ⓘ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ キーの電池が消耗すると操作時にキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 施錠ボタン
② テールゲート開閉ボタン
③ 解錠ボタン

イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- テールゲートの開閉
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷128 ページ）。

操作時にキーの表示灯が 1 回点滅します。

ℹ 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

解錠する

▶ 解錠ボタン ③ を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷61 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * が作動します（▷75 ページ）。

施錠する

▶ 施錠ボタン ① を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷61 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * が作動します（▷75 ページ）。

❗ 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

テールゲートを開く

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲート開閉ボタン ② を押し続けます。

確認音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

❗ リモコン操作でテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

車両の操作

* 仕様により、異なる装備です。

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲート開閉ボタン ② を押し続けます。

確認音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

! リモコン操作でテールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

i 車が施錠されているときにテールゲート開閉ボタン ② を押すと、テールゲートだけが解錠されて開きます。その状態でテールゲート開閉ボタン ② を押すと、テールゲートが閉じ、施錠されます。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定できます。

▶ 施錠ボタン ① と解錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では、以下のように作動します。

- 解錠ボタン ③ を押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、盗難防止警報システム（▷61 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * が作動します（▷75 ページ）。

- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン ③ を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * が作動します（▷75 ページ）。

i 車両の近くでリモコン機能の切り替えを行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

i リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

* 仕様により、異なる装備です。

ロケイターライティング

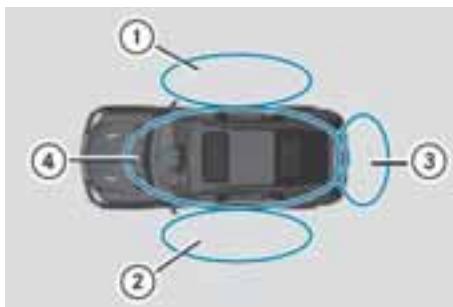
周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドライト
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト

点灯したライトは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーが車室内にあるときに、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押したとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷167 ページ）をご覧ください。

キーレスゴー

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ テールゲート側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。

キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときは、キーとドアハンドルまたはテールゲートとの距離は約 1m 以内にしてください。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴー操作はできません。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲①② にあるとき

- キーがある側のドアハンドルに触れると車の解錠ができます。
- キーがある側のドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すと車の施錠ができます。
- テールゲートハンドルを引くと、テールゲートのみを解錠して開くことができます。
- テールゲートのキーレスゴースイッチを押して、車を施錠することができます。

i キーの位置によっては、キーが検知範囲にない側のドアハンドルに触れたり、キーレスゴースイッチを押すことで、車が解錠 / 施錠されることがあります。

キーがテールゲート側アンテナの検知範囲③にあるとき

- テールゲートハンドルを引くと、テールゲートのみを解錠して開くことができます。
- テールゲートのキーレスゴースイッチを押して、車を施錠することができます。

i キーの位置によっては、キーが検知範囲にないときも、テールゲートハンドルを引くことでテールゲートのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲 ④ にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷85 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷86、133 ページ）。

i キーの位置によっては、キーがドア付近やルーフ上、ボンネット上などの車外にあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

⚠ 警告

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内にあるときや、キーの位置によっては、車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動するなど、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

! キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

i キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

i 車を長期間使用しなかったときは、キーレスゴーの機能が自動的に解除されます。このときは、ドアハンドルを引き、エンジンスイッチにキーを差し込んで **2** の位置にしてください。

i キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動できます。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルに触れます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷61 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * が作動します（▷75 ページ）。

i 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
* 仕様により、異なる装備です。

解錠時の設定の切り替え

① 施錠ボタン
② 解錠ボタン

運転席ドアハンドルに触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 施錠ボタン ① と解錠ボタン ② を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルに触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷61 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

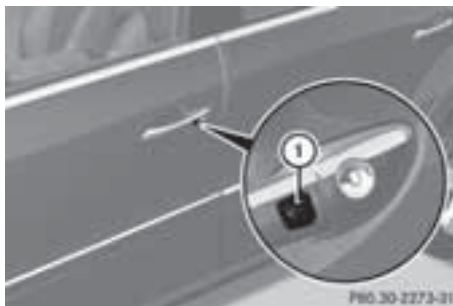
また、アンサーバック機能 * が作動します（▷75 ページ）。

ⓘ 車両の近くで解錠時の設定の切り替えを行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

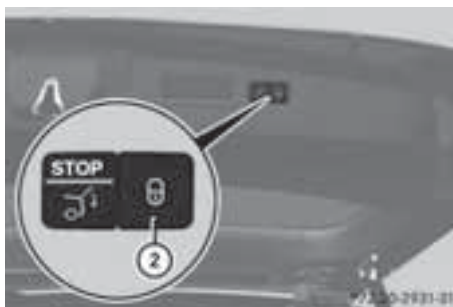
初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン①と解錠ボタン②を同時に押し続けます。

ⓘ 設定を切り替えたときも、運転席ドア以外のドアハンドルに触れることで、すべてのドアとテールゲート、燃料給油フラップを解錠することができます。

施錠する

左フロントドア

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ ① を押します。

または

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ ② を押します。

テールゲートが閉じます。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
* 仕様により、異なる装備です。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷61 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能 * が作動します（▷75 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

i キーが車室内にあるときは、ドアハンドルやテールゲートのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｶﾞ ｼｬﾅｲﾆ ｱﾘﾏｽ！" または "ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されることがあります。

ただし、1 本のキーが車室内にあり、もう 1 本のキーが左右側アンテナの検知範囲にあるときにキーがある側のドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すことで、また、もう 1 本のキーがテールゲートの検知範囲にあるときにテールゲートのキーレスゴースイッチを押すことで、施錠できます。

i いずれかのドアが開いているときに、閉じているドアのドアハンドルまたはテールゲートのキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱ ｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

テールゲートを解錠して開く

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されて自動で開きます。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

アンサーバック機能 *

リモコン機能またはキーレスゴーで車両を施錠したときに、確認音が 1 回鳴ります。

仕様により、車両を解錠したときに確認音が 1 回鳴り、車両を施錠したときに確認音が 3 回鳴る場合があります。

この機能の設定と解除については（▷171 ページ）をご覧ください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
* 仕様により、異なる装備です。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷337 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ 非常時の解錠 / 施錠（▷337 ページ）に記載されている方法で車両を施錠するか、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で解錠 / 施錠できない。	長い時間キーレスゴーで解錠しなかったため、キーレスゴーの機能が停止している。 ▶ ドアハンドルを 2 回引いて、キーをエンジンスイッチに差し込んでください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷340 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンスイッチがまわらないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷364 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	ステアリングロックが効いている。 ▶ ステアリングを軽く左右にまわしながら、エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。
キーが車内にある状態で、キーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

⚠ **警告**

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じ方が不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

車外からのドアの開閉

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー ② を引きます。

ドアが施錠されているときはロックノブ ④ が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ず車を施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ℹ 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷328 ページ）。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ 警告

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

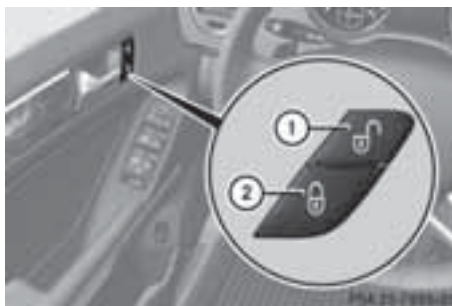
解錠する

▶ ドアレバー ② を引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を押し込みます。

ドアロックスイッチでの解錠 / 施錠

運転席ドアのスイッチ

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠できます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ 解錠スイッチ ① を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ ② を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ℹ ドアロックスイッチで施錠しても、燃料給油フラップは施錠されません。

ℹ ドアロックスイッチにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

ⓘ 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチで解錠 / 施錠すると、他のドアとテールゲートが解錠 / 施錠されます。

車速感応ドアロック

速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については (▷170 ページ) をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を移動したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターで車を検査するときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

ⓘ 車速感応ドアロックにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

テールゲート

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **警 告**

- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

⚠ **警告**

- テールゲートが開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったり、接触しそうになったときは、ただちに以下のいずれかの操作を行なってください。テールゲートの作動が停止します。
  - ◇テールゲートハンドルを引く
  - ◇キーのテールゲートオープナーボタンを押す
  - ◇運転席ドアのテールゲートスイッチを押す
  - ◇テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
  - ◇テールゲートのキーレスゴースイッチを押す
- ラゲッジルームに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

  子供などがラゲッジルームに閉じ込められないように注意してください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作やキーレスゴー操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! ラゲッジルームには乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

i テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

i 完全に停車していないときは、テールゲートのクローザースイッチや運転席ドアのテールゲートスイッチでテールゲートを操作できません。

i テールゲートが自動で開いているときに障害物との接触を感知すると、テールゲートはその位置で停止します。

i テールゲートが自動で閉じているときに挟み込みを感知すると、テールゲートは停止し、その位置から少し開きます。

車外からのテールゲートの開閉

テールゲートを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル ① を手前に引きます。

テールゲートが自動で開きます。

または

▶ テールゲートが開き始めるまで、キーのテールゲート開閉ボタンを押し続けます。

確認音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートクローザースイッチ ① を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

または

▶ テールゲートがいっぱいまで開いているときに、テールゲートが閉じ始めるまでキーのテールゲート開閉ボタンを押し続けます。

確認音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

▶ 必要であれば、リモコン操作またはキーレスゴー操作により車を施錠します。

テールゲートを閉じて車を施錠する

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ ② を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷61 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

ℹ ラゲッジルームにキーが置いてあることを検知したときは、テールゲートを閉じることはできません。

ℹ キーがテールゲート側アンテナの検知範囲にないときに、テールゲートのキーレスゴースイッチ ② を押すと、テールゲートが少し閉じた後に停止します。また、完全に閉じても施錠されません。

ℹ テールゲートのキーレスゴースイッチで車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

ⓘ いずれかのドアが開いているときにキーレスゴースイッチ ② を押すと、テールゲートは少し閉じた後停止します。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

車内からのテールゲートの開閉

解錠された状態で停車しているときは、運転席ドアのスイッチでテールゲートを開閉することができます。

テールゲートを開く

▶ テールゲートスイッチ ① を引きます。

確認音が鳴り、テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、テールゲートスイッチ ① を押します。

確認音が鳴り、テールゲートが自動で閉じます。

テールゲート内側のレバーでの解錠

テールゲート内側のレバーで、テールゲートを解錠して開くことができます。

テールゲートを開く

▶ レバー ① を矢印 ② の方向に押しながら、矢印 ③ の方向に引き上げます。

テールゲートのロックが解除されます。

▶ レバー ① を引き上げたまま、テールゲートを後方へ押し上げます。

ⓘ テールゲートを解錠した後にテールゲートを開かなかったときは、テールゲートは自動的に施錠されます。

ⓘ レバーでテールゲートを解錠して開いても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

ⓘ レバーで解錠して開いた後に、テールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

テールゲートの開口角度設定

上方に十分な空間がないところなどでテールゲートを開くときのために、テールゲートの開口角度を設定できます。

開口角度を設定する

▶ テールゲートが開閉しているときに、以下のいずれかの操作を行なって、設定したい角度でテールゲートを停止させます。

- テールゲートハンドルを引く
- キーのテールゲート開閉ボタンを押す
- 運転席ドアのテールゲートスイッチを操作する
- テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートのキーレスゴースイッチを押す

▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。

次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

開口角度の設定を解除する

▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度の設定が解除されます。

ℹ テールゲートの角度によっては、その開口角度に設定できないことがあります。

イグニッション位置

⚠ 警 告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

キーによるイグニッション位置の選択

イグニッション位置を選択する

▶ エンジンスイッチに差し込んだキーをまわすと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
⓪	0：キーを差し込む / 抜く位置
①	1：イグニッション位置が 1 になります。
②	2：イグニッション位置が 2 になります。
③	3：エンジンが始動します。

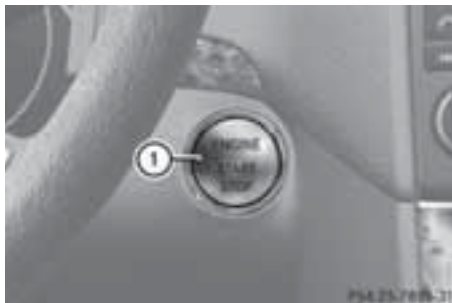
ⓘ エンジンスイッチからキーを抜かずに **0** の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。

ⓘ キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

ⓘ 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがありますが、イグニッション位置の選択や、エンジンの始動はできません。

タッチスタート

エンジンスイッチを ③ の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ ① を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ ① を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ ① を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

ⓘ エンジンを停止してイグニッション位置が **1** になったときに運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ ① を押します。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ℹ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに " ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ " と表示されます。

キーレスゴースイッチの取り外し

キーレスゴースイッチ ① を取り外し、エンジンスイッチ ② にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置の選択やエンジンの始動ができます。

ℹ キーレスゴースイッチは、通常は駐車時でも取り外す必要はありません。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ℹ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けてから約 2 秒間は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができません。

シート

⚠ 警告

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

運転席シートは、必ず停車しているときに調整してください。走行中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。

- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

⚠ 警告

シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。また、エアバッグに関する注意もご覧ください。

子供を乗せるときは、（▷45 ページ）をご覧ください。

⚠ 警告

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストの中央部に支えられていることを確認してください。後頭部がヘッドレストに正しく支えられていないと、事故などのときに、首に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが正しい位置に調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ 警告

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い状態で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートは定期的に清掃することをお勧めします。「日常の手入れ」をご覧ください（▷304 ページ）。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフや工具などの鋭利な物を置かないでください。

  シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートを調整するときは、足元やシートの下などに物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

! セカンドシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

! バックレストの角度やヘッドレストの高さを調整するときは、サンバイザーを収納してください。ヘッドレストが最も高い位置にあるときは、サンバイザーとヘッドレストが接触するおそれがあります。

i 仕様により、シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストの高さも連動して上下します。

フロントシートの調整

運転席シートのスイッチ

矢印の方向	調整内容
①	ヘッドレストの高さ ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。
②	バックレストの角度
③	シートの前後位置
④	シートクッションの角度
⑤	シートの高さ

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印 ① ～ ⑤ の方向に操作します。

ヘッドレストのサイドクッションおよび前後位置の調整

⚠ 警告

サイドクッションを広げるときは、サイドクッション後端部に指をかけないでください。指を挟むおそれがあります。

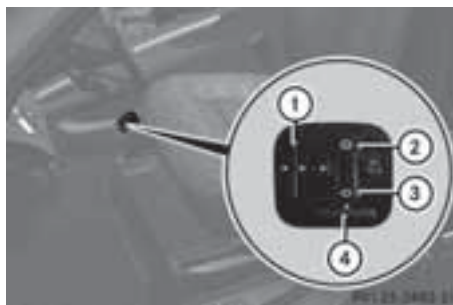
サイドクッションの位置を調整する

▶ サイドクッションを矢印 ① の方向に動かします。

左右のサイドクッションを独立して調整できます。

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストのクッション部を矢印 ② の方向に動かします。

マルチコントロールシートバック

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

シートクッション前部のサポートを整する

▶ スイッチ ④ を前方または後方に操作します。

ランバーサポートを調整する

腰部のサポートを調整できます。

▶ スイッチ ② または ③ を押して、サポートの位置を調整します。

▶ スイッチの ＋ または － を押して、サポートの強さを調整します。

バックレスト横方向のサポートを調整する

▶ スイッチ ① を左右に操作します。

ⓘ スイッチを操作しても調整できないときは、エアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

セカンドシート / サードシートの調整

セカンドシートの折りたたみについては（▷246 ページ）をご覧ください。

セカンドシートのバックレストの角度を調整する

▶ ロック解除レバー ② を矢印の方向に引き上げます。

▶ バックレスト ① を好みの角度にして、ロック解除レバー ② から手を放します。

サードシートの収納 / 展開（スイッチによる操作）

右側リアドア開口部の車体側およびラゲッジルーム右側にあるサードシート収納 / 展開スイッチで、サードシートを折りたたみ、ラゲッジルームフロアに収納することができます。

右側リアドアまたはテールゲートが開いているときに操作できます。

⚠ 警 告

サードシートを収納 / 展開するときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

! サードシートを収納 / 展開しているときは、物が挟まれないように注意してください。

! サードシートを収納するときは、サードシートのシートクッションに物が載っていないことを確認してください。また、サードシートの周囲に作動の妨げとなる物がないことを確認してください。

サードシートや物を損傷するおそれがあります。

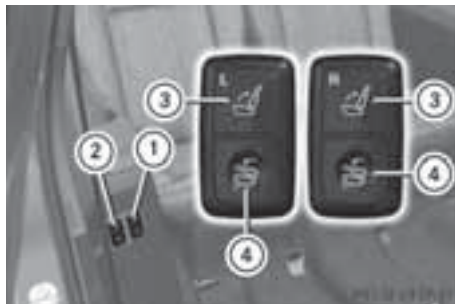
! サードシートを収納するときは、必ずヘッドレストをいっぱいまで下げてください。シートやヘッドレストを損傷するおそれがあります。

! サードシートを展開するときは、収納されているサードシートの上に物が載っていないことを確認してください。また、ラゲッジルームに物がないことを確認してください。

サードシートや物を損傷するおそれがあります。

! サードシートは、完全に収納または展開した状態で使用してください。

ⓘ サードシートが完全に収納されていないときや、完全に展開されていないときにイグニッション位置を **1** か **2** にすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

右側リアドア開口部車体側のスイッチ

① 運転席側サードシートスイッチ
② 助手席側サードシートスイッチ
③ サードシート展開スイッチ
④ サードシート収納スイッチ

"R" の表記があるスイッチは、向かって右側のサードシート（運転席側サードシート）のスイッチです。

"L" の表記があるスイッチは、向かって左側のサードシート（助手席側サードシート）のスイッチです。

ラゲッジルーム右側のスイッチ

① 助手席側サードシートスイッチ
② 運転席側サードシートスイッチ
③ サードシート展開スイッチ
④ サードシート収納スイッチ

"R" の表記があるスイッチは、向かって右側のサードシート（助手席側サードシート）のスイッチです。

"L" の表記があるスイッチは、向かって左側のサードシート（運転席側サードシート）のスイッチです。

サードシートを収納する

▶ サードシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ サードシート収納スイッチ ④ を押します。

サードシートのバックレストが前方に倒れ、サードシート全体が下方に移動します。

サードシートを展開する

▶ サードシート展開スイッチ ③ を押します。

収納されているサードシート全体が上方に移動し、バックレストが後方に起き上がります。

サードシートアンダーパネルの脱着

サードシートの下に物などを落としてしまったときは、サードシートのアンダーパネルを取り外して、物を取り除いてください。

! アンダーパネルの取り外し / 取り付けをしているときは、サードシートを収納 / 展開しないでください。

! サードシートの下に物などが入っているときは、サードシートを収納 / 展開しないでください。サードシートや物を損傷するおそれがあります。

! 走行するときは、アンダーパネルが確実に固定されていることを確認してください。

アンダーパネルを取り外す

▶ サードシートを収納 / 展開の中間位置にします。

▶ アンダーパネル下部を持ち、矢印の方向に引き上げます。

アンダーパネルが外れます。

▶ サードシート下に落ちた物などを取り除いてください。

アンダーパネルを取り付ける

▶ サードシートが収納 / 展開の中間位置になっていることを確認します。

▶ ガイドピンの位置を合わせて、アンダーパネルを取り付け、下方に押し込みます。

▶ サードシートを収納 / 展開させて、アンダーパネルが確実に固定されていることを確認します。

セカンド / サードシートのヘッドレスト

ヘッドレストの高さを調整する

⚠ 警 告

乗車するときは、必ずヘッドレストの中央が目の高さになっていることを確認してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

セカンドシート

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

▶ ロック解除ノブ ① を押しながら、押し下げます。

ヘッドレストの角度を調整する

セカンドシート

左右セカンドシート、サードシートのヘッドレストは角度を調整できます。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を矢印の方向に動かします。

ヘッドレストの脱着

⚠ 警告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

ヘッドレストを取り外す

▶ バックレストを前方に倒します（▷90 ページ）。

▶ ロック解除ボタン ① を押しながらヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストを前方に倒します（▷90 ページ）。

▶ ロック解除ボタンがある取り付け穴に切り欠きのある支柱が入るようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

サードシートへの乗降

サードシートに乗降するときは、右側セカンドシートを前方に倒します。

右側セカンドシート脇のロック解除レバーまたは右側セカンドシート背面のストラップにより操作できます。

⚠ 警告

右側リアドアを開くときや右側リアドアから乗降するときは、乗降者および運転者ともに、周囲の状況に危険がないことや後方から車両が来ないことを確認してください。

セカンドシートを前方に倒すときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

! セカンドシートを前方に倒すときは、物が挟まれないように注意してください。

! セカンドシートを前方に倒すときは、フロントシートが前方にあり、バックレストが後方に傾きすぎていないことを確認してください。

セカンドシートとフロントシートが接触して、シートを損傷するおそれがあります。

ⓘ 左側セカンドシートはバックレストのみを前方に倒すことができます(▷95 ページ)。

ⓘ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、右側セカンドシートのロック解除レバーを引き上げて右側セカンドシートを引き起こすと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "2 ﾚﾂﾒﾉﾐｷﾞ ｼｰﾄ ﾛｯｸ ｻﾚﾃｲﾏｾﾝ " と表示されます。

ロック解除レバーでの操作

▶ 右側セカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ ロック解除レバー ① を引き上げて、右側セカンドシートのバックレスト ② を前方に倒します。

ⓘ 助手席シートが後方の位置にあるときは、ロック解除レバーを引き上げたまま保持すると、助手席シートが自動的に前方に動き、バックレストも起きます。レバーから手を放すと助手席シートの作動が停止します。

▶ 再度、ロック解除レバー ① をいっぱいまで引き上げながら、右側セカンドシート全体を前方に引き起こします。

ストラップでの操作

① ストラップ

▶ 右側セカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ 右側セカンドシートのバックレストを手で押さえながら、ストラップ ① を後方に引いてロックを解除します。

▶ ストラップから手を放し、バックレストをゆっくりと前方に倒します。

⚠ 警告

バックレストを前方に倒すときは、必ず手で押さえながら行なってください。ストラップだけを引いてバックレストを倒すと、指などに当たり、けがをするおそれがあります

▶ 再度、ストラップ①を後方に引いてロックを解除し、右側セカンドシート全体を前方に引き起こします。

右側セカンドシートを元に戻す

▶ 前方に倒した右側セカンドシート全体を、後方に引き下ろします。

⚠ 警告

セカンドシートを後方に引き下ろすときは、リンケージやヒンジ（図中の×印のところなど）に身体などを挟まないように注意してください。

① 右側セカンドシートのバックレスト

▶ 右側セカンドシートのバックレスト①を引き上げて、確実にロックします。

ℹ 右側セカンドシートが確実にロックされていないときにイグニッション位置を **1** か **2** にすると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

左側セカンドシートを前方に倒す

事故などにより、右側セカンドシートを前方に倒して車外に出ることができないときは、左側セカンドシートのバックレストを前方に倒して、左側のリアドアを開くことができます。

⚠ 警告

左側リアドアを開くときや左側リアドアから乗降するときは、乗降者および運転者ともに、周囲の状況に危険がないことや後方から車両が来ないことを確認してください。

セカンドシートを前方に倒すときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

▶ 左側セカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

▶ 左側セカンドシート背面の左下方にあるストラップ ① をいっぱいまで引き上げます。

左側セカンドシートのバックレストを前方に押して倒します。

シートヒーター

シートヒーターの作動を 3 段階に調整できます。

ℹ バッテリーの電圧が低下すると、シートヒーターが停止することがあります。

フロントシートのスイッチ

セカンドシートのスイッチ

フロントシートおよび左右のセカンドシートにシートヒーターを装備しています。

シートヒーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチを押すごとにスイッチの表示灯の点灯数が変わり、シートヒーターの作動内容が切り替わります。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

表示灯の点灯数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

⚠ **警 告**

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

シートヒーターのトラブル

シートヒータースイッチの表示灯が点滅したときは、シートヒーターが自動的に停止します。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動します。

シートベンチレーター

シートベンチレーターの作動を 3 段階に調整できます。

ℹ バッテリーの電圧が低下すると、シートベンチレーターが停止することがあります。

シートベンチレーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとにスイッチの表示灯の点灯数が変わり、シートベンチレーターの作動内容が切り替わります。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

表示灯の点灯数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

ℹ リモコン操作でドアウインドウなどを開くと、運転席のシートベンチレーターが強で作動します。

シートベンチレーターのトラブル

シートベンチレータースイッチの表示灯が点滅したときは、シートベンチレーターが自動的に停止します。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

電圧が回復すると、シートベンチレーターは自動的に作動します。

ステアリング

⚠ 警告

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもステアリング位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作してステアリングに挟まれるおそれがあります。

⚠ 警告

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジやステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいまでまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリングの調整

① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

ⓘ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶（▷104 ページ）させることができます。

イージーエントリー

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にする

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて、**2** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷171 ページ）をご覧ください。

警 告

イージーエントリー機能が作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

身体が挟まれそうになったときは、以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーを操作する
- 運転席ドアのいずれかのポジションスイッチ（▷105 ページ）を押す

運転席ドアのポジションスイッチを押したときは、スイッチを押し続けないでください。メモリー機能が作動してシートやステアリングが動き出すおそれがあります。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転席ドアを開いたときなどにイージーエントリー機能が作動して、ステアリングに身体が挟まれるおそれがあります。

ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

クラッシュセンサー連動機能

事故などのときに、クラッシュセンサーに連動してイージーエントリー機能が作動します。イグニッション位置に関わらず、事故などのときに運転席ドアを開くと、ステアリングが上方に移動して、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定しているときにのみ作動します。

ミラー

⚠ **警告**

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーでも後方を確認してください。また、必ず肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

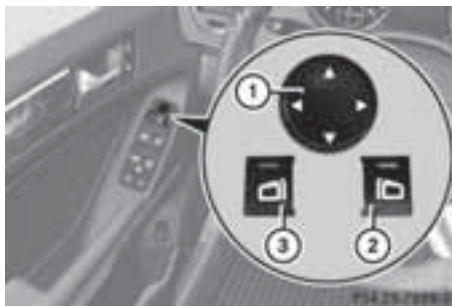
⚠ **警告**

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ℹ ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が低いときにリアデフォッガーを使用したときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ℹ ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷104ページ）。

ドアミラーの角度調整

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ② または ③ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

何も操作を行なわないと、表示灯は約 15 秒後に消灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ① を操作してドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの格納 / 展開

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

! ドアミラーは手で格納 / 展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーが完全に展開されていることを確認してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ ① を押します。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠すると、ドアミラーも併せて格納します。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと元の位置に戻ります。

この機能の設定と解除については (▷172 ページ) をご覧ください。

i ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

ドアミラーが無理に外側に曲げられたとき

ドアミラーが無理に外側に曲げられたときは、以下のようにしてください。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷102 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

ドアミラーユニットのギアが噛み合うと、通常通りドアミラーを格納 / 展開できるようになります。

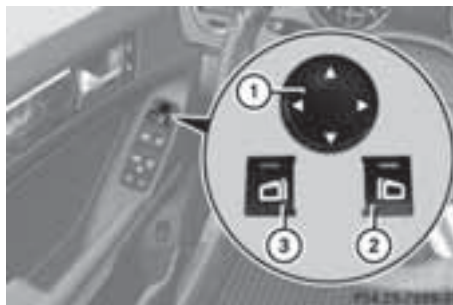
自動防眩機能

⚠ **警 告**

車内に高さのある荷物を積んでいるときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが照射されないときは自動防眩機能が作動しないことがあるため、眩惑により事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でルームミラーの角度を調整してください。

周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

ℹ シフトポジションが **R** のときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

パーキングヘルプ機能

後退時のドアミラー角度を記憶させる

シフトポジションを **R** にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ シフトポジションを **R** にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

ℹ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択スイッチ ② の表示灯が点灯したままになります。

▶ ドアミラー調整スイッチ ① で、助手席側ドアミラーを後退時に後方が確認しやすい角度に調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

ℹ シフトポジションを **R** から他の位置にすると、助手席側ドアミラーは走行時の角度に戻ります。

記憶させた助手席側ドアミラー角度の呼び出し

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- シフトポジションを R から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ③ を押したとき

メモリー機能

シート位置の記憶

メモリー機能では、例えば 3 人の異なる運転者のために 3 つの位置を記憶させることができます。

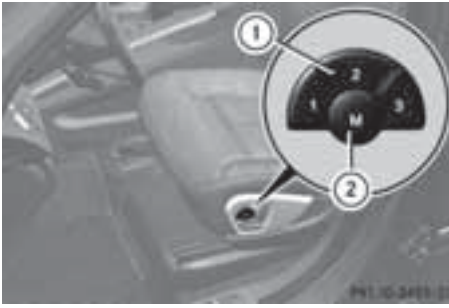
以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置
- 運転席側は、ステアリングの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの角度

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は作動するため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートやステアリングが動き出し、身体が挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

運転席シートのスイッチ

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

▶ メモリースイッチ ② を押します。

▶ 約 3 秒以内にポジションスイッチ ① の 1 ～ 3 のいずれかを押します。

" ピッ " という確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

シート位置の呼び出し

▶ 呼び出したいポジションスイッチ ① の 1 ～ 3 のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから手を放すとシートなどは停止します。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ 警 告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。

- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。

- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバックなどを挟み込まないでください。
- シートベルトをドアに挟んだり、鋭利な部分に当てないでください。
- シートベルトにたばこの火など、熱いものを近付けないでください。
- バックル部分に異物を入れないでください。
- シートベルトを分解したり、改造しないでください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時やブレーキ時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷45 ージ）をご覧ください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。
- 乗員が装着しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ 警告

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- 汚れていたり損傷しているシートベルトや、事故で衝撃を受けたシートベルト、改造を受けたシートベルトは、適切な保護性能を発揮することができません。事故などのときに致命的なけがをするおそれがあります。

  シートベルトに汚れや損傷がないことを定期的に確認してください。

  損傷しているシートベルトや事故などで衝撃を受けたシートベルトは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検し、必要であれば交換してください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトを着用する

▶ フロントシートおよびセカンドシートは、シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

テンション自動調整機能を設定しているときは、フロントシートのテンション自動調整機能が作動します。

▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については（▷172 ページ）をご覧ください。

シートベルトの高さ調整

フロントシートベルトは、高さを調整することができます。

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは 4 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、ベルトアンカー②をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン①を押しながらベルトアンカー②を下げます。

調整後はベルトアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート②を持ち、バックル③の解除ボタン④を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにイグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。

ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

i 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

正しい運転姿勢

⚠ 警 告

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置およびステアリング位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や事故のときなどに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

! シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

シートに関する注意については（▷87ページ）もご覧ください。

▶ 以下のことに注意して、シート③とヘッドレストを調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- 正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- バックレストをできるだけ垂直に調整している
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める

ヘッドレストに関する注意については
（▷87 ページ）もご覧ください。

▶ 以下のことに注意してヘッドレストを調整します。

- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

ステアリングに関する注意については
（▷99 ページ）もご覧ください。

▶ 以下のことに注意して、ステアリング ① を調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

シートベルトに関する注意については（▷105 ページ）もご覧ください。

▶ 以下のことに注意して、シートベルト②を着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

▶ メモリー機能でシートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

ライト

ライトスイッチ

① ライトスイッチ

	位置	作動内容
②	0	すべてのライトが消灯
③	AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
④	車幅灯	車幅灯、テールランプ、ライセンスライトやスイッチなどの照明が点灯し、表示灯⑦が点灯
⑤	ヘッドライト	ヘッドライト / LED ドライビングライトが点灯
⑥	←P	左側パーキングライトが点灯
	P→	右側パーキングライトが点灯
⑦	車幅灯	車幅灯表示灯
⑧	リアフォグ	リアフォグランプ表示灯

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ライトスイッチを [車幅灯] の位置にします。

ライトスイッチ横の車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。

ヘッドライト /LED ドライビングライト

ヘッドライトと LED ドライビングライトは手動または自動で点灯 / 消灯できます。

ヘッドライト / LED ドライビングライトを手動で点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ライトスイッチ ① を [ヘッドライト] の位置にします。

ヘッドライト / LED ドライビングライトが点灯し、メーターパネルのヘッドライト表示灯 [ヘッドライト] が点灯します。

オートモード

周囲が暗いとき、車外ライトが自動的に点灯します。

⚠ 警告

霧の中を走行するときにオートモードにしていると、ライトが自動的に点灯しなかったり点灯していたライトが消灯することがあるため、事故を起こすおそれがあります。霧の中を走行するときはライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてください。

ライトのオートモードは運転者を支援する機能です。ライトの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。

⚠ 警告

ライトスイッチを [AUTO] から [ヘッドライト] の位置にするときは、必ず停車してください。ライトが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

オートモードにする

▶ ライトスイッチ ① を [AUTO] の位置にします。

イグニッション位置を **1** にすると、周囲の明るさに応じて、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトが自動的に点灯し、車幅灯表示灯 ⑦ が点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドライト / LED ドライビングライトも自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドライト表示灯 [ヘッドライト] が点灯します。

! 車から離れるときはライトを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! エンジンを停止した状態で、ライトを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! ライトスイッチを [パーキング] の位置にしたまま、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態やキーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にしている状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。

このときはライトを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ⓘ ヘッドライト / LED ドライビングライトが点灯しているときに、イグニッション位置を **2** 以外にすると、ヘッドライト / LED ドライビングライトが消灯します。さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサー（▷123 ページ）と同じ位置にあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

リアフォグランプ

リアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ライトスイッチが [ヘッドライト] の位置のときに、ライトスイッチを引きます。

リアフォグランプが点灯し、リアフォグランプ表示灯 ⑧ が点灯します。また、LED ドライビングライトが消灯します。

> ⚠ **警告**
>
> ライトスイッチが [AUTO] または [パーキング] の位置のときは、リアフォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてヘッドライトを点灯してください。

! リアフォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。後続車の迷惑になります。

パーキングライト

パーキングライトは、暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、片側の車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングライトを点灯する

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに点灯させることができます。

▶ ライトスイッチを [P≡→] または [←P≡] の位置にします。

位置	作動内容
P⩽→	右側のパーキングライトが点灯
←P⩽	左側のパーキングライトが点灯

車外ライト消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドライト
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト

点灯した車外ライトは、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒経過すると消灯します。

この機能の設定と解除については（▷168 ページ）をご覧ください。

車外ライト消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

ℹ ライトが消灯するまでの時間は、ドアやテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ライトは消灯します。

ヘッドライトウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドライトが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 10 回操作すると、ヘッドライトウォッシャーが自動的に作動します。

! ヘッドライトは樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

ℹ エンジンを停止するか、ヘッドライトを消灯させると、フロントウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

ℹ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

コンビネーションスイッチ

方向指示

① ヘッドライト（上向き）
② 方向指示（右側）
③ パッシング
④ 方向指示（左側）

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

方向指示灯を短時間点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に軽く操作します。

操作した側の方向指示灯が 3 回点滅します。

方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に操作します。

操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ℹ 方向指示灯を点滅させているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ヘッドライトの下向き / 上向きの切り替え

ヘッドライトを上向きにする

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドライトを上向きで点灯しないでください。

ヘッドライトを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを元の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が消灯します。

パッシング

▶ イグニッション位置を **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間、ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [ハイビーム] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと元の位置に戻ります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯は、イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときも点滅させることができます。

また、以下のときに自動的に点滅します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停車したとき

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチとメーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

ⓘ 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

ⓘ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ⓘ 約 70km/h 以上で走行しているときに急ブレーキを効かせて停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると消灯します。

インテリジェントライトシステム

インテリジェントライトシステムは以下のものから構成されます。

- アクティブライトシステム
- ハイウェイモード
- フォグランプ強化機能

インテリジェントライトシステムは、周囲が暗いときに作動します。

この機能の設定と解除については （▷166 ページ）をご覧ください。

アクティブライトシステム

ヘッドライトが点灯しているとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドライトの向きが変わります。

ⓘ ヘッドライトの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ⓘ 変化するヘッドライトの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

ハイウェイモード

以下のときに、ヘッドライトの照度や照射範囲を自動的に調整します。

- 約 110km/h 以上の走行速度で、ステアリングを大きく操作することなく約 1km 走行したとき
- 走行速度が約 130km/h 以上になったとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ⓘ ヘッドライトの照度は、走行速度が約 80km/h 以上になったときに上がります。

フォグランプ強化機能

ヘッドライトが道路の脇を照射することで視界を確保し、眩しさを軽減します。
走行速度が約 70km/h 以下のときにリアフォグランプを点灯すると作動します。

ⓘ 走行速度が約 100km/h を超えると、フォグランプ強化機能は停止します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

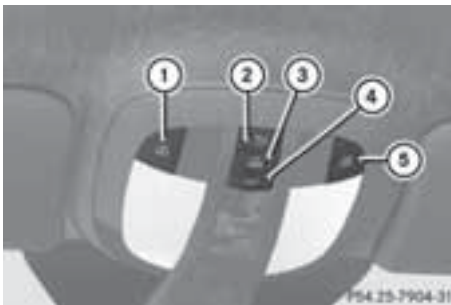
ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇りは取れます。

▶ ヘッドライト内側の曇りが取れない場合は、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② サードシートルームランプスイッチ
③ 点灯モード選択スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ ③ を押して、スイッチが押されていない状態にします。

自動点灯モードになり、以下のときにフロントルームランプ、セカンドシートルームランプ、サードシートルームランプ、ラゲッジルームランプ、テールゲート裏側のランプが点灯 / 消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠したとき

  点灯したルームランプは、約 30 秒後に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

  点灯したルームランプは、約 10 秒後に消灯します。

  この機能の設定 / 解除については（▷168 ページ）をご覧ください。

- いずれかのドアまたはテールゲートを開いたとき

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアやテールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  ドアやテールゲートが開いたままのときは、消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアやテールゲートを閉じると約 7 秒後に消灯します。

  ドアやテールゲートが開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ⓘ 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠すると数秒後に自動的に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプなどが消灯することを確認してください。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ ③ が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプなどは点灯しません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠する
- エンジンスイッチからキーを抜く
- ドアを開く
- テールゲートを開く

フロントルームランプの点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ フロントルームランプスイッチ ④ を押します。

フロントルームランプが点灯 / 消灯します。

フロント読書灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ フロント読書灯スイッチ ①⑤ を押します。

フロント読書灯が点灯 / 消灯します。

セカンドシートルームランプの点灯 / 消灯

① セカンドシートルームランプ（右側）

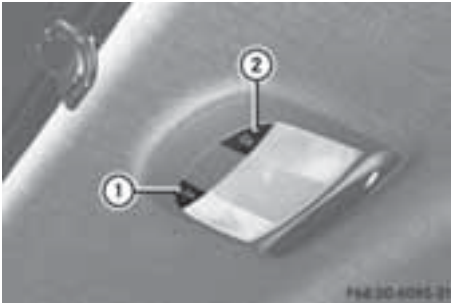
セカンドシートルームランプはリアドアウインドウの上方にあります。

セカンドシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ セカンドシートルームランプ ① の前部（矢印の部分）を押します。

セカンドシートルームランプが点灯 / 消灯します。

! セカンドシートルームランプを長時間点灯すると、セカンドシートルームランプが熱くなります。火傷をするおそれがありますので、操作するときなどは注意してください。

サードシートルームランプおよびサードシート読書灯の点灯 / 消灯

① サードシート読書灯スイッチ（左側）
② サードシート読書灯スイッチ（右側）

サードシートルームランプはサードシートの上方にあります。

サードシートルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ サードシートルームランプスイッチ（▷117 ページ）を押します。

サードシートルームランプが点灯 / 消灯します。

ℹ サードシートルームランプを点灯 / 消灯すると、ラゲッジルームランプとテールゲート裏側のランプも点灯 / 消灯します。

サードシート読書灯を点灯 / 消灯する

▶ サードシート読書灯スイッチ ①② を押します。

サードシート読書灯が点灯 / 消灯します。

フットウェルライト

フロントシートおよびセカンドシートの足元に乗降用のライトがあります。

フロントルームランプまたはサードシートルームランプを点灯させると、明るく点灯します。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- イグニッション位置が **2** のときは低い照度で点灯し、**2** 以外の位置にすると約 7 秒後に消灯します。
- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると減光します。

  ◇イグニッション位置が **2** 以外の位置のときは、ドアを閉じると減光し、約 7 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

センターコンソールライト

ルームミラーの下部にあります。

ライトスイッチでの車幅灯の点灯 / 消灯に連動して、点灯 / 消灯します。

ドア下部のライト

ドア下部に乗降用のライトがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外でドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ドアミラー下部のライト

ドアミラー下部に乗降用のライトがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- いずれかのドアを開くと点灯し、ドアを閉じると約 7 秒後に消灯します。
- ドアを開いたままのときは、約 30 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると、約 30 秒間点灯します。

アンビエントライト

ドアのインナーグリップ下部やグローブボックス開口部のダッシュボード下端部などにアンビエントライトを装備しています。

ライトスイッチでの車幅灯の点灯に連動して、点灯します。車幅灯が消灯すると、イグニッション位置が **2** のときはすぐに、イグニッション位置が **1** か **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、約 5 分後に消灯します。

アンビエントライトは照度を調整することができます。詳しくは(▷167 ページ)をご覧ください。

緊急時点灯機能

事故などのときに大きな衝撃を受けると、ルームランプが自動的に点灯します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーの施錠ボタンを押した後に解錠ボタンを押します。

ワイパー

ワイパーの操作

⚠ 警告

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取れず、視界を妨げて事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

! ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。ウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャーを噴射してからワイパーを使用してください。

! 自動洗車機で洗車した後に、ワイパーを使用してもフロントウインドウに油膜が残るときは、ウインドウにワックスや洗浄液などが付着している可能性があります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液を噴射してフロントウインドウを清掃してください。

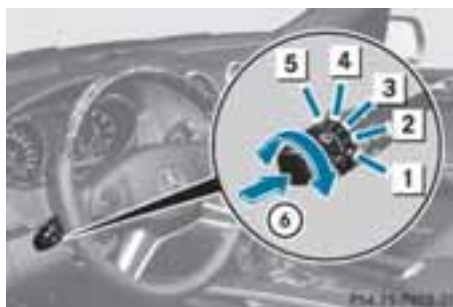
! ウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを 0（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置に戻してください。コンビネーションスイッチを — や ═ の位置のままイグニッション位置を 1 にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、イグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

フロントワイパー

位置		作動内容
1	0	停止
2	•••	オートモードⅠ ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
3	••••	オートモードⅡ オートモードⅠよりも少ない雨滴量で作動します。 ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
4	━	低速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、間欠作動になります。
5	═	高速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、低速作動になります。
⑥		ティップ機能 / フロントウインドウウォッシャの噴射

ワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、作動内容を選択します。

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ⑥ の方向に軽く押します。

ウォッシャー液は噴射せずに、ワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ⓘ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ⓘ イグニッション位置が **1** か **2** のときにコンビネーションスイッチを ••• か •••• の位置にすると、フロントウインドウが乾いていても、ワイパーが 1 回作動します。

ⓘ オートモードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- シフトポジションが **P** または **N** のときは、ドアを閉じて他のシフトポジションにしたとき
- シフトポジションが **D** または **R** のときは、ドアを閉じたとき

ⓘ 停車中、およびごく低速で走行しているときは、ボンネットのロックを解除すると、ワイパーが停止します。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

! フロントウインドウが濡れていないときは、コンビネーションスイッチを 0 の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動し、ワイパーが作動するおそれがあります。

フロントウインドウウォッシャーの噴射

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

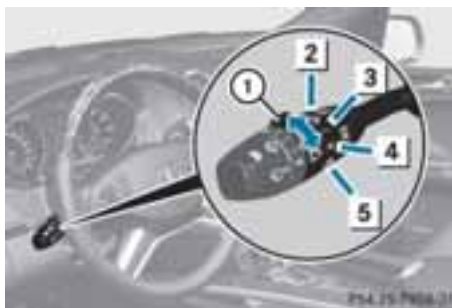
▶ コンビネーションスイッチを矢印 ⑥ の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウインドウウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

i 純正ウインドウウォッシャーには油膜や汚れの付着を防ぐ効果があります。

i 冬季にはウインドウウォッシャー液の濃度に注意し、冬用のウインドウウォッシャー液を使用してください。

リアワイパー

位置	作動内容
①	ノブ
2 5 (ウォッシャー記号)	テールゲートウインドウウォッシャの噴射
3 —	リアワイパーの作動
4 0	停止

⑥ リアワイパーインジケーター

リアワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときにノブ ① をまわして、3 の位置に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイに、リアワイパーインジケーター ⑥ が表示されます。

ⓘ イグニッション位置が **2** でフロントワイパーが作動しているときにシフトポジションを **R** にすると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  ◇間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のとき

  ◇低速で作動します。

テールゲートウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときにノブ ① をまわして、**2** **5** の位置に合わせて保持します。

その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーも作動します。

ワイパーのトラブル

ワイパーの作動が妨げられている

葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーの作動が妨げられている。ワイパーモーターの作動が停止している。

▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

▶ 障害物を取り除きます。

▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障している。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない

ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

パワーウインドウ

⚠ 警告

ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチから指を放し、スイッチを引いてドアウインドウを閉じてください。

⚠ 警告

ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチから指を放し、スイッチを押してドアウインドウを開いてください。

⚠ 警告

子供が車内からドアウインドウを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 車内の各部に触れて、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供を乗せるときは、後席に乗車させ、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。走行中にドアやドアウインドウが開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。

ドアウインドウの開閉

運転席ドアのスイッチ
① 左フロントドアウインドウスイッチ
② 右フロントドアウインドウスイッチ
③ 右リアドアウインドウスイッチ
④ 左リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ドアウインドウを開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

i リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷128 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作でドアウインドウを閉じることができます（▷128 ページ）。

i ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉することができます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

i ドアウインドウが開いているときに PRE-SAFE®（▷44 ページ）が車両の横滑りを感知すると、ドアウインドウが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

i 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席やリアドアのスイッチでは、開閉しているドアウインドウを操作することはできません。

挟み込み防止機能

⚠ 警告

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。ウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止して、スイッチから指を放すと、その位置から少し開きます。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから指を放すと、その位置から少し下降します。

さらにこの状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちに再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

ベンチレーションウインドウの開閉

⚠ 警告

ベンチレーションウインドウを閉じるときに、身体や物が挟まれそうになったときは、ただちにスイッチを押してください。ベンチレーションウインドウが開きます。

① ベンチレーションウインドウ

運転席ドア

ベンチレーションウインドウ ① のスイッチは運転席ドアにあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ベンチレーションウインドウを開閉できます。

ベンチレーションウインドウを開く

▶ スイッチ ② を押します。

左右のベンチレーションウインドウが自動で開きます。

ベンチレーションウインドウを閉じる

▶ スイッチ ② を引きます。

左右のベンチレーションウインドウが自動で閉じます。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ベンチレーションウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ベンチレーションウインドウの開閉はできなくなります。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作により、以下の操作を行なうことができます。

- 車両を解錠する
- ドアウインドウを開く
- ベンチレーションウインドウを開く
- スライディングルーフを開く
- 運転席のシートベンチレーターを作動させる

ℹ コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの解錠ボタン（▷69 ページ）を押し続けます。

すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウととベンチレーションウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作により、車外から以下の操作をすることができます。

- ドアウインドウを閉じる
- ベンチレーションウインドウを閉じる
- スライディングルーフを閉じる

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

⚠ **警告**

車外からドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフなどを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、以下の操作を行なってください。

- リモコン操作の場合は、施錠ボタンから指を放してください。そして、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを開いてください。
- キーレスゴー操作の場合は、コンビニエンスクロージング操作部から指を放してください。そして、ただちにドアハンドルを引き続けてください。

  ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが開きます。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じていることを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作またはキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

リモコン操作での作動

ℹ 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

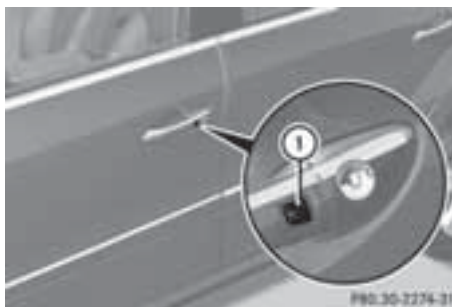
▶ キーの施錠ボタン（▷69 ページ）を押し続けます。

すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

施錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

▶ すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じていることを確認します。

キーレスゴー操作での作動

キーが車外にあり、すべてのドアが閉じているときに操作できます。

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ ① を押し続けます。

すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフが閉じます。

キーレスゴースイッチ ① から指を放すと、作動中のドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフはその位置で停止します。

▶ すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディンググルーフが閉じていることを確認します。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

以下のときは、それぞれのドアウインドウをリセットしてください。

- バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたとき
- ドアウインドウを閉じた後にスイッチから指を放すと、その位置から少し開くとき
- ドアウインドウが自動で開閉できなくなったとき

▶ すべてのドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、下記の操作を行ないます。

▶ ただちに運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

スイッチから指を放したときにドアウインドウが閉じていれば、ドアウインドウはリセットされています。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、再度上記の操作を行なってください。

ドアウインドウのトラブル

ドアウインドウに障害物があり、ドアウインドウを閉じることができないとき

▶ 障害物を取り除いてください。

▶ ドアウインドウを閉じてください。

ドアウインドウを閉じることができず、原因が分からないとき

⚠ **警 告**

強い力でドアウインドウを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。閉じているドアウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているドアウインドウが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ ドアウインドウが停止したらただちに、ドアウインドウが閉じるまでドアウインドウスイッチを引き続けてください。

強い力でドアウインドウが閉じます。

閉じているドアウインドウが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ ドアウインドウが停止したらただちに、ドアウインドウが閉じるまでドアウインドウスイッチを引き続けてください。

挟み込み防止機能が作動しない状態で、ドアウインドウが閉じます。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 警告

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こし、意識不明になったり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

i ライトやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。

i エンジンが冷えた状態で始動したときは、触媒が約 30 秒間予熱されます。このときは、エンジン音が通常と異なることがあります。

シフトポジション

P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行しているときに、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。

N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。 ! シフトポジションを N にしたまま走行すると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

i キーによるエンジン始動を行なうときは、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

タッチスタート機能

エンジンスイッチを **3** の位置（▷84 ページ）までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

キーレスゴーによるエンジンの始動

⚠ 警 告

子供だけを残して車から離れないでください。車室内にキーがあるときは、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動します。短時間でも車内にキーを残したまま車から離れないでください。

i キーレスゴースイッチにより、エンジンスイッチにキーを差し込むことなく、エンジンを始動することができます。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、警告音が 1 回鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、" ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ " と数秒間表示されます。この警告は、停車してドアやテールゲートを開いた後に走行を開始するたびに行なわれます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

⚠ **警 告**

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

発進

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! シフトポジションを P または R にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように注意してください。駆動系部分を損傷するおそれがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷170 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にします。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ **警 告**

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ⓘ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

駐車

⚠ **警 告**

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

⚠ **警 告**

駐停車するときは、マフラーや排気系部品が、枯れ草や紙くず、油などの燃えやすいものに触れないようにしてください。発火して、火災が発生するおそれがあります。

駐車するときは、車が動き出さないように、以下のことを守ってください。

- パーキングブレーキを確実に効かせてください。
- シフトポジションを P にして、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤの下り側に輪止めをしてください。さらに前輪を歩道の縁石方向に向けてください。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを閉じて、車を施錠してください。

エンジンの停止

⚠ 警告

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションを **P** にします。

▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にします。

エンジンが停止します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

ℹ シフトポジションが **D** か **R** のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。

さらにこの状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションが **P** になります。

ただし、シフトポジションを **N** にしてエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは **P** になりません。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているとき

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンが停止するまで、キーレスゴースイッチを押します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠ 警告

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ℹ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

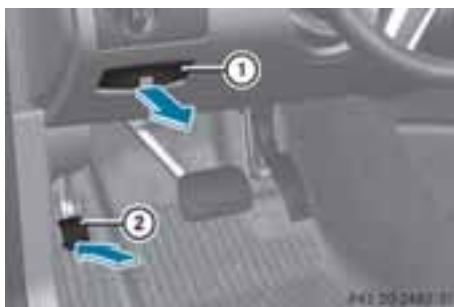
ⓘ シフトポジションが D か R のときに、キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。

さらにこの状態でフロントドアを開くと、シフトポジションが P になります。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

パーキングブレーキ

⚠ 警 告

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

パーキングブレーキを効かせる

▶ 左足でパーキングブレーキペダル ② をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

パーキングブレーキを解除する

▶ 解除ハンドル ① を引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯が消灯します。

ⓘ パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。このようなときは、以下のようにしてください。

▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

ⓘ バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。このようなときは、別途対応が必要です。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置にまわすか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチを押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷364 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約120℃を超えている。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全に停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷275 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転してください。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
エンジンが停止しない。	エンジンスイッチに異常がある。 ▶ エンジンルーム内にあるヒューズボックスを開きます。 ▶ エンジンルーム内ヒューズボックスの 120 番のヒューズを抜きます（▷370 ページ）。 エンジンが停止します。 エンジンを再始動するとき： ▶ ヒューズを交換してください。

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の状況に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷146 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

シフトポジション

P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行しているときに、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。

N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。 ! シフトポジションを N にしたまま走行すると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

⚠ **警告**

走行中にシフトポジションを N にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

セレクターレバー

① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

シフトポジションを P にする

▶セレクターレバー先端のボタンを ② の方向に押します。

シフトポジションを N にする

▶セレクターレバーを ③ または ④ の方向に軽く操作します。

シフトポジションを R にする

▶セレクターレバーを ⑤ の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジションを D にする

▶セレクターレバーを ⑥ の方向にいっぱいまで操作します。

⚠ **警告**

セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

⚠ **警告**

約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、シフトポジションが変更されたことに気付かずに一旦停止して、再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

エンジンを停止してシフトポジションが自動的に N になったときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせてください。車が動き出すおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

! シフトポジションを P または R にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように注意してください。駆動系部分を損傷するおそれがあります。

i セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

i シフトポジションが R のときは、確認音が鳴ります。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。

さらにこの状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションを N にしてエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

i 停車してイグニッション位置が **2** のとき、またはごく低速で走行しているとき、シフトポジションが D または R の状態で運転席ドアを開くと、シフトポジションが P になります。

ただし、運転席ドアが開いている状態でシフトポジションを D または R にしたときは、前進 / 後退することができます。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、シフトポジションを P から D または R にできます。

i イグニッション位置が **1** で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N にできます。

ⓘ シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ　ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

ⓘ 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

ⓘ イグニッション位置が **2** のとき、シフトポジションが N の状態で運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに " ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ " と表示され、警告音が鳴ります。

ⓘ 約 10km/h 以下でセレクターレバー先端のボタンを ② の方向に押すと、シフトポジションが P になります。また、約 15km/h 以上でセレクターレバー先端のボタンを ② の方向に押したときは、シフトポジションは P にならず、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ﾊ ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ " と表示されます。

シフトポジション表示

① シフトポジション表示
（ドライブポジションに入っている状態）

マルチファンクションディスプレイが表示されているときに、選択されているシフトポジションがシフトポジション表示 ① に反転表示されます。

! マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションが表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、選択されたシフトポジションを確認してから走行してください。可能であれば、シフトポジションを D に、走行モードを S モードにして、ティップシフトは解除してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

ティップシフト

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

③ ギアレンジ表示
④ 走行モード表示

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより不必要なシフトアップを抑えます。

走行モード（▷146 ページ）が S モードのときにティップシフトにできます。

走行モード選択スイッチ（▷146 ページ）を押すと、走行モードを S モードと M モードに切り替えることができます。

走行モードが S モードのときは、走行モード表示④に" S "が表示されます。

ティップシフトにする

▶ シフトポジションが D のときに、左側パドル ① を引きます。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジがマルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示 ③ に表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル ① を引きます。

低いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示 ③ に表示されます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル ② を引きます。

高いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示 ③ に表示されます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル ② を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ③ に "D" が表示されます。

または

▶ シフトポジション D を選択する方向にセレクターレバーを操作します（▷141 ページ）。

ギアレンジ	作動内容
D	1 速～ 7 速の範囲で変速します。
D6	1 速～ 6 速の範囲で変速します。
D5	1 速～ 5 速の範囲で変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で変速します。 エンジンブレーキが必要なときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で変速します。 下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。
D1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。

⚠ **警告**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションやギアレンジが表示されないときは、ティップシフトを解除して走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ⓘ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

ⓘ シフトポジションが D のときに右側パドル ② を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

ⓘ 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジになります。

ⓘ ギアレンジ表示は選択したギアレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。

マニュアルギアシフト

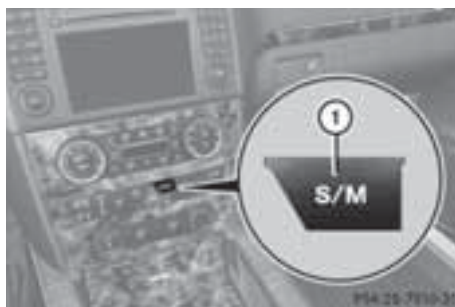
ステアリングのパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ 警告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

i マニュアルギアシフトを選択したときは、ESP® の機能を解除しないで走行することをお勧めします（▷59 ページ）。

マニュアルギアシフトの選択

マニュアルギアシフトを選択する

▶ シフトポジションが D のときに走行モード選択スイッチ ① を押します。

② 走行モード表示
③ ギア表示

走行モード表示 ② に " M " が表示され、選択されているギアがギア表示 ③ に表示されます。

i マニュアルギアシフトではギア表示に表示される数字は実際のギアを示しています。運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ / ダウンに応じてギア表示に表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押して、走行モード表示 ② に " S " を表示させます。

i マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは、オートマチックギアシフトに切り替わります。

ギアシフト操作

④ 左側パドル（シフトダウン）
⑤ 右側パドル（シフトアップ）

シフトダウンする

▶ 左側パドル ④ を引きます。

引くたびに 1 段低いギアにシフトダウンします。

シフトアップする

▶ 右側パドル ⑤ を引きます。

引くたびに 1 段高いギアにシフトアップします。

ⓘ 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

ⓘ 停車時に選択できるギアは 1 速または 2 速です。

ⓘ エンジン回転数が上昇してレッドゾーンに近付くと、シフトアップ操作をしなくても自動的にシフトアップされます。

ⓘ 運転者がシフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

ⓘ 運転者がシフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

ⓘ マニュアルギアシフトでも、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込むとキックダウンが行なわれ自動的にシフトダウンします。

! ローレンジになっているときは（▷183 ページ）、エンジン回転数が高回転になってもオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップしません。エンジン回転数の上げすぎに注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを D にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを R にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷25 ページ）をご覧ください。

> ⚠ **警 告**
>
> メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約 30 秒後に消灯）
- メーターパネル照度調整ボタンまたはリセットボタンを押したとき（約 30 秒後に消灯）
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（イグニッション位置を **0** にしてから約 30 秒後に消灯）
- 車外ライトが点灯したとき

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、マイル表示にすると km/h 表示に比べ、同じ数字でも約 1.6 倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐため km/h 表示にしてください。

表示の切り替えについては（▷163 ページ）をご覧ください。

ℹ 1mph は約 1.6km/h です。

ℹ マイル表示を選択すると、トリップメーターなどの表示もマイル表示になります。

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① 照度調整ボタン（明）
② リセットボタン
③ 照度調整ボタン（暗）

メーターパネル照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルの明るさを調整できます。

照度を上げる

▶ 照度調整ボタン ① を押します。

照度を下げる

▶ 照度調整ボタン ③ を押します。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

外気温度表示

外気温度を表示します。

⚠ 警 告

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

ⓘ 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

ⓘ 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 100 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 13 リットルです。

ⓘ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻の調整については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイ

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは道路と交通状況が許すときにのみ操作してください。注意がそれ、運転に集中することができず、事故の原因になります。

⚠ **警告**

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージは表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、メッセージなどの走行状態を示す情報を得ることができなくなります。また、走行特性に変化が出る可能性もあります。運転スタイルと走行速度を状況に合わせてください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **警告**

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムの故障および警告のみを記録および表示します。そのため、車両が安全に使用できることを常にお客様自身で確認してください。安全性が確保されていない車両を運転することにより、事故の原因になります。

⚠ **警告**

不適切な作業を行なうと、車両安全性に悪影響を与えるおそれがあります。その結果、車両操縦性を失い、事故の原因になります。さらに、安全装備が設計通りに乗員を保護できなくなります。

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ **警告**

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイの操作

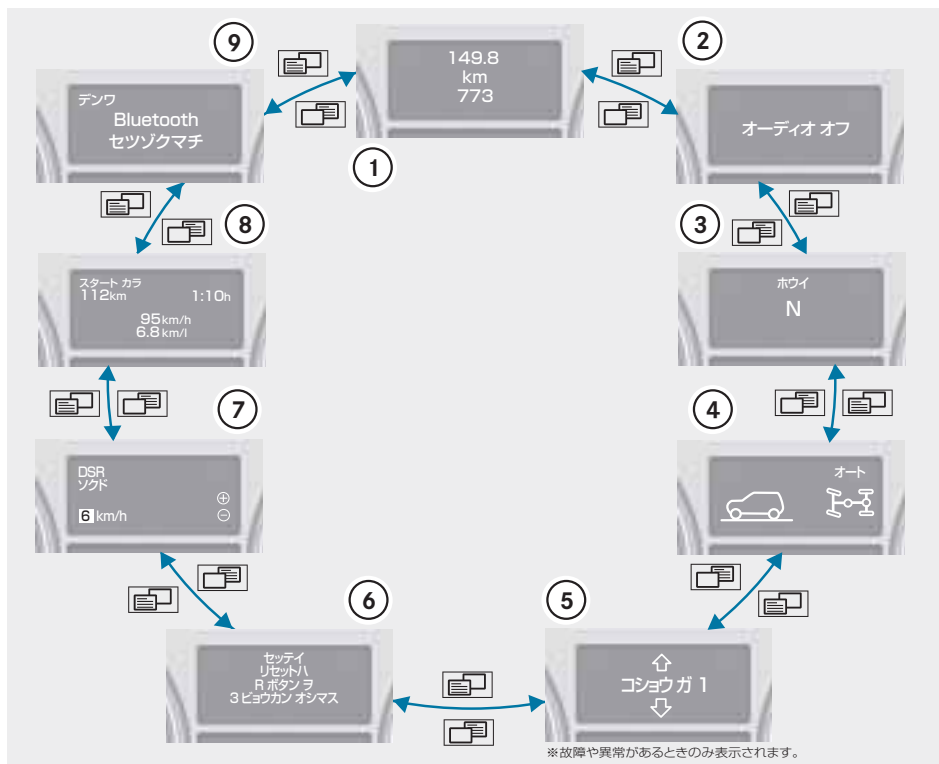
イグニッション位置を **1** にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイを操作します。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**通話終了スイッチ** • 電話の保留 / 切断 • 電話帳表示や発信履歴表示の終了 **通話開始スイッチ** • 電話の発信 / 受信 • 発信履歴の表示 **設定スイッチ / 音量スイッチ** + − • 設定メニューでの設定グループの選択 • 各設定項目での数値や設定の変更や、機能のオン / オフの選択 • メインメニューやオーディオメニュー表示中の音量の調節 **音声認識スイッチ** 音声認識の使用
③	**スクロールスイッチ** • 選択したメインメニュー内での表示の切り替え • オーディオメニュー表示中のオーディオやテレビの選曲・選局、DVD ビデオのチャプターの選択 • 電話メニュー表示中の電話帳や発信履歴の選択 **表示切り替えスイッチ** メインメニューの選択 **音声認識解除スイッチ** OFF 音声認識の中止

ℹ ステアリングスイッチでの COMAND システムの操作については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メインメニューの一覧

マルチファンクションディスプレイは、車両に関する各種情報や故障 / 警告メッセージなどを表示するシステムです。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

①	車両情報	154
②	オーディオ	157
③	ナビ	159
④	オフロード装備	159
⑤	故障表示	160
⑥	設定	161
⑦	車両設定	173
⑧	トリップコンピューター	174
⑨	電話	177

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両情報

「車両情報」には以下の画面があります。

- 基本画面（トリップメーター、オドメーター）
- 走行情報表示
- タイヤ空気圧警告システム（▷284 ページ）
- 冷却水温度表示
- サブスピードメーター / 外気温度表示
- メンテナンスインジケーター（▷302 ページ）

基本画面（トリップメーター / オドメーター）

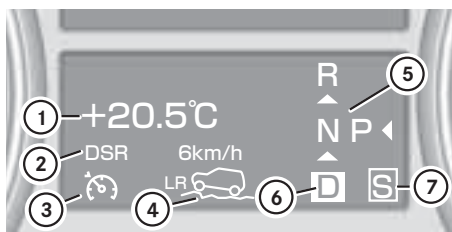
基本画面を表示させる

▶ [icon] または [icon] を押して、基本画面を表示させます。

①	トリップメーター	リセット後の走行距離を表示します。
②	オドメーター	これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（▷150 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

走行情報表示

⚠ **警 告**

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

ⓘ 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

ⓘ 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

①	外気温度表示 / サブスピードメーター	外気温度または走行速度を表示します。 表示の切り替えは各種設定の " インストルメントクラスタ " の " 走行情報表示の設定 "（▷164 ページ）で行ないます。
②	可変スピードリミッター設定速度表示 / DSR 設定速度表示	可変スピードリミッター（▷193 ページ）または DSR（▷180 ページ）で設定した速度を表示します。
③	クルーズコントロールインジケーター / DSR インジケーター	クルーズコントロール（▷189 ページ）または DSR（▷180 ページ）を作動させたときに表示されます。
④	クルーズコントロール設定速度表示 / ローレンジインジケーター	クルーズコントロール（▷189 ページ）で設定した速度を表示します。またはローレンジモード（▷183 ページ）に設定したときに表示されます。
⑤	シフトポジション表示	オートマチックトランスミッションのシフトポジションを表示します。 選択しているシフトポジションは反転表示されます（▷143 ページ）。
⑥	ギアレンジ表示 / ギア表示	ティップシフトのときに選択しているギアレンジ（▷144 ページ）、またはマニュアルギアシフトのときに選択しているギアを表示します（▷146 ページ）。
⑦	走行モード表示	オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（▷146 ページ）。

タイヤ空気圧警告システム

詳しくは（▷284 ページ）をご覧ください。

冷却水温度表示

イグニッション位置が **2** のとき、エンジンの冷却水温度を表示します。

冷却水温度を表示させる

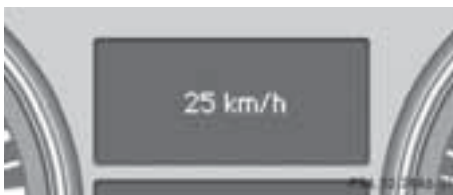
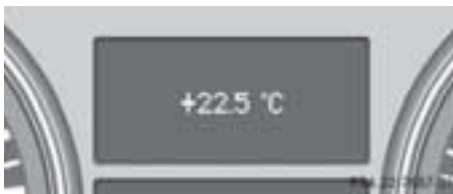
▶ または を押して、基本画面を表示させせます。

▶ または を押して、冷却水温度を表示させせます。

ℹ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ℹ 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が右端付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷323 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

サブスピードメーター / 外気温度表示

走行速度または外気温度を表示します。

サブスピードメーター

外気温度表示

表示の切り替えは各種設定の " インストルメントクラスタ " の " 走行情報表示の設定 "（▷164 ページ）で行ないます。

サブスピードメーター / 外気温度を表示させる

▶ または を押して、基本画面を表示させせます（▷154 ページ）。

▶ または を押して、サブスピードメーター / 外気温度を表示させせます。

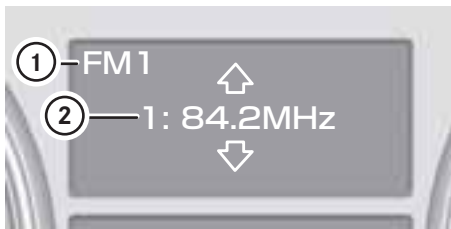
ℹ サブスピードメーターの表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷163 ページ）。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター

詳しくは（▷302 ページ）をご覧ください。

オーディオ

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2" または "TI"
② ラジオ局名または受信周波数

COMAND システムで、FM ラジオまたは AM ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ ⧉ または ⧉ を押して、オーディオメニューを表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ ⇧ または ⇩ を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ 受信周波数が動きはじめるまで、⇧ または ⇩ を押して保持します。

次に受信できる周波数で停止します。

ⓘ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

音楽を選曲する

① 音楽ソース表示
（"DISC" / "CARD" / "HDD" / "MEDIA" / "AUX"）
② トラック番号

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ ⧉ または ⧉ を押して、オーディオメニューを表示させます。

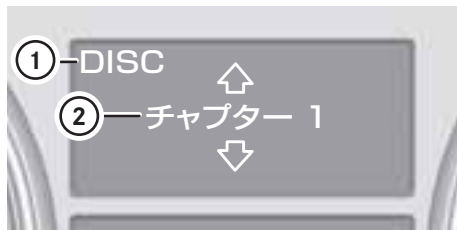
音楽を選曲する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェースのいずれかを再生しているときは選曲を行なうことができます。

▶ ⇧ または ⇩ を押します。

次の曲または前の曲が選曲されます。

ⓘ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

DVD ビデオのチャプターを選択する

①チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

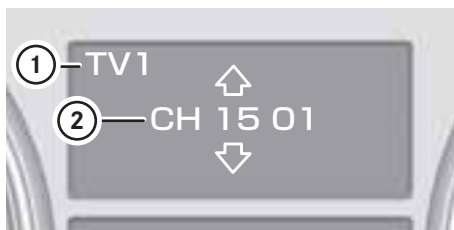
▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオメニューを表示させせます。

DVD ビデオのチャプターを選択する

▶ [△] または [▽] を押します。

次のチャプターまたは前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

テレビ局を選局する

①"TV1" または "TV2"
②プリセット番号 / チャンネル番号

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオメニューを表示させせます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

プリセットされたテレビ局が選択されます。

テレビ局を自動選局する

▶ 受信チャンネルが動きはじめるまで、[△] または [▽] を押して保持します。

次に受信できるチャンネルで停止します。

ℹ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ナビ

COMAND システムのナビ機能をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビメニューを表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ナビメニューを表示させます。

ルート案内を行なっていないとき

マルチファンクションディスプレイにに進行方向の方位が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

マルチファンクションディスプレイに進行方向や目的地までの距離、交差点（分岐点）または通過点までの距離が表示されます。

ⓘ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

オフロード装備

オフロード装備に関する情報を表示します。

車高レベル / ディファレンシャルロック作動表示

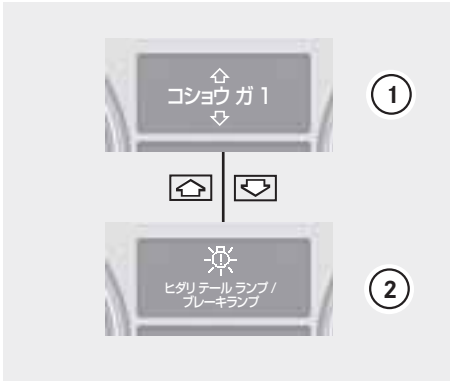
①車高レベル表示
②ディファレンシャルロック表示

AIR マティックサスペンションの車高レベルとディファレンシャルロックの作動状態を表示できます。

車高レベル / ディファレンシャルロックの作動状態を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オフロード装備を表示させます。

詳しくは（▷186、198 ページ）をご覧ください。

故障表示

①	故障件数表示（この例では、1件故障があります）
②	故障 / 警告メッセージの例

故障や異常が発生したとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障や異常がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

エンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージが自動的に表示されます。

ステアリングの ▭ ▭ や △ ▽、またはリセットボタンを押すと、故障 / 警告メッセージが消えます。

故障 / 警告メッセージを手動で確認する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ ▭ または ▭ を押して、故障件数 ① を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ △ または ▽ を押して、故障 / 警告メッセージ ② を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数 ① に戻ります。

故障 / 警告メッセージのリセット

マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されているときは、イグニッション位置を **0** にすると、故障 / 警告メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

⚠ **警 告**

- 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷317 ページ～）をご覧ください。

設定

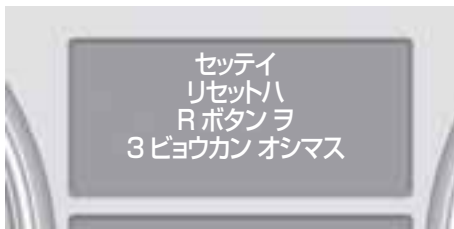
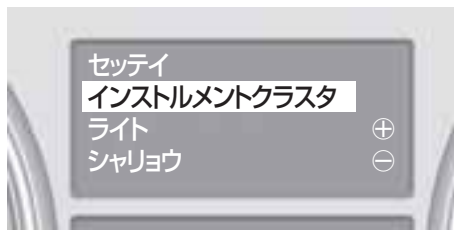
「設定」では、以下の項目が設定できます。

- 設定項目の初期化
- インストルメントクラスタ
- ライト
- シャリョウ
- コンフォート

! 設定の変更は必ず停車中に操作してください。

設定メニュー

設定メニューを表示させる

▶ [□] または [□] を押して、設定メニューを表示させます。

設定グループの選択

設定グループを選択する

▶ 設定メニュー表示中に [△] を押して、設定グループを表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、設定したいグループを選択します。

▶ 選択したグループを確認して、[△] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目が表示されます。

設定項目を選択する

▶ [△] または [▽] を押して、設定項目を選択します。

設定を変更する
機能のオン / オフを選択する

▶ [+] または [−] を押して、設定を変更したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

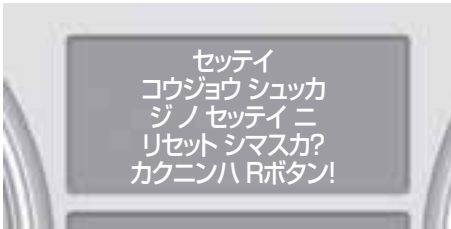
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

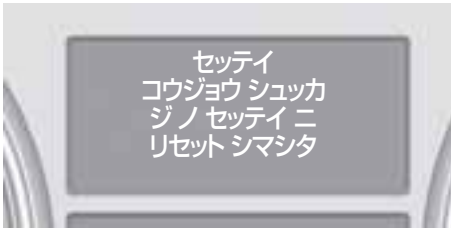
設定項目の初期化

設定メニューのすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

設定項目を初期化する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、設定メニューを表示させせます（▷161 ページ）。

▶ リセットボタン（▷150 ページ）を約 3 秒間押し続けます。

確認画面が表示されます。

▶ 確認画面が表示されているとき（約 5 秒以内）に、再度リセットボタンを押します。

初期化を実行し、初期化完了画面が表示されます。

ⓘ 確認画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、設定メニューに切り替わります。

ⓘ 初期化すると、設定グループの表示（▷161 ページ）になります。

ⓘ 安全のため、エンジンがかかっているときは設定項目すべての初期化を行なうことはできません。このときはマルチファンクションディスプレイに " ｾｯﾃｲ ｴﾝｼﾞﾝｻﾄﾞｳﾁｭｳﾊ ｺｳｼﾞｮｳｼｭｯｶｼﾞ ﾉ ｾｯﾃｲ ﾆ ﾘｾｯﾄ ｽﾙｺﾄﾊﾃﾞｷﾏｾﾝ !" と表示されます。

インストルメントクラスタ

「インストルメントクラスタ」では、以下の項目が設定できます。

- 速度・距離単位の設定
- サブスピードメーターの単位の設定
- ディスプレイ言語の設定
- 走行情報表示の設定

設定グループを選択する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、設定メニューを表示させせます（▷161 ページ）。

▶ 設定メニュー表示中に [⌂] を押して、設定グループを表示させせます。

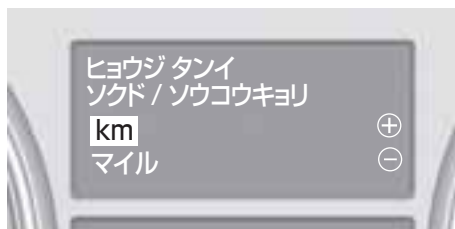
▶ [+] または [−] を押して、" インストルメントクラスタ " を反転表示にします。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

設定項目を選択する

▶ [⌂] を押します。

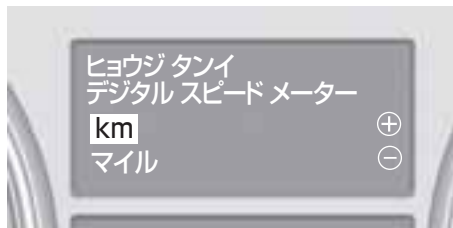
インストルメントクラスタの最初の設定項目が表示されます。

速度・距離単位の設定

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離などの表示単位の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示単位が km/h、km などになります。
マイル	表示単位が mph、マイル、MI などになります。

! 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位を km にしてください。

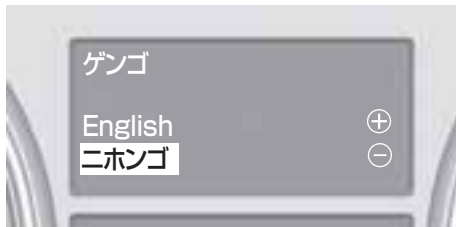
サブスピードメーターの単位の設定

マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター（▷156 ページ）の単位の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	km/h 表示になります。
マイル	mph 表示になります。

! 1mph は約 1.6km/h です。表示単位がマイルになっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず表示単位を km にしてください。

車両の操作

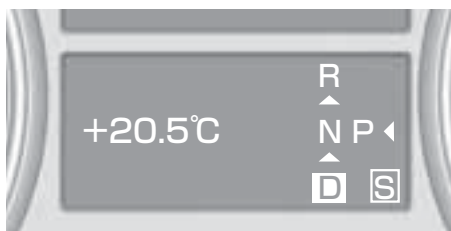
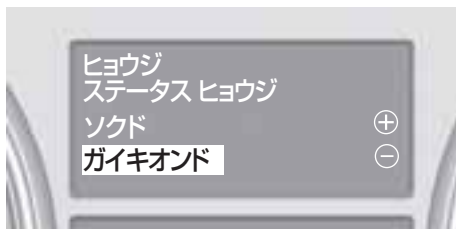
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語の設定

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

ℹ COMAND システムの言語設定を " マルチファンクションディスプレイと同期 " に設定しているときは、この画面で設定した言語が COMAND システムにも適用されます。詳細については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

走行情報表示の設定

走行情報表示（外気温度）

走行情報表示（▷154 ページ）の表示項目の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	走行情報表示にサブスピードメーターが表示されます。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示（▷156 ページ）には外気温度が表示されます。
ガイキオンド	走行情報表示に外気温度が表示されます。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示（▷156 ページ）にはサブスピードメーターが表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ライト

「ライト」では、以下の項目の設定ができます。

- ヘッドライト点灯モードの設定
- インテリジェントライトシステムの設定
- ロケイターライティングの設定
- アンビエントライト照度の設定
- 車外ライト消灯遅延機能の設定
- ルームランプ消灯遅延機能の設定

設定グループを選択する

▶ [ ] または [ ] を押して、設定メニューを表示させせます（▷161 ページ）。

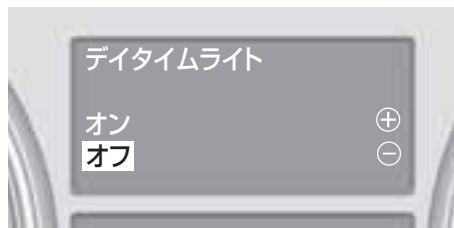
▶ 設定メニュー表示中に [ ] を押して、設定グループを表示させせます。

▶ [+] または [−] を押して、" ライト " を反転表示にします。

設定項目を表示させる

▶ [ ] を押します。

ライトの最初の設定項目が表示されます。

ヘッドライト点灯モードの設定

ヘッドライトの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	常時点灯モードです。 ライトスイッチを [0] か [AUTO] の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドライトなどが常に点灯します。
オフ	手動点灯モードです。 ヘッドライトなどを点灯するときはライトスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。

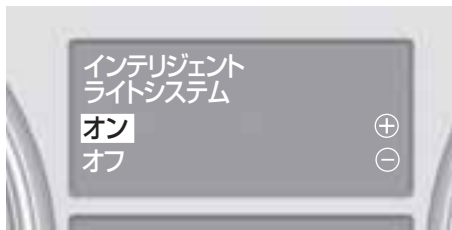
車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

! 安全のため、エンジンがかかっているときは設定を変更することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ｴﾝｼﾞﾝ ｵﾌ ﾉﾄｷﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

i 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

i 常時点灯モードで自動的に点灯するライトは、ヘッドライト、LEDドライビングライト、車幅灯、テールランプ、ライセンスライトです。ヘッドライトを上向きにしたり、リアフォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

インテリジェントライトシステムの設定

インテリジェントライトシステムの設定ができます。

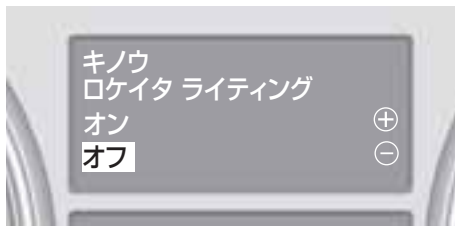
インテリジェントライトシステムを設定すると、以下の機能が作動します。

- アクティブライトシステム
- ハイウェイモード
- フォグランプ強化機能

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	インテリジェントライトシステムが作動します。
オフ	インテリジェントライトシステムは作動しません。

詳しくは（▷115 ページ）をご覧ください。

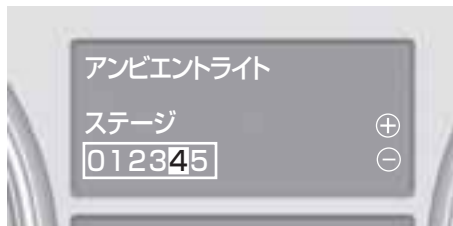
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ロケイターライティングの設定

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ライトが点灯する機能の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、ヘッドライト（下向き）、LED ドライビングライト、テールランプ、ライセンスライトが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

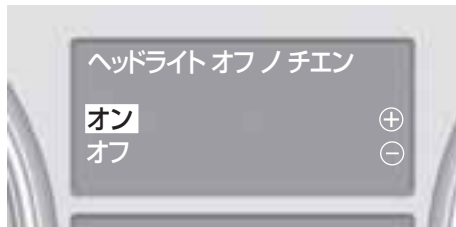
詳しくは（▷71 ページ）をご覧ください。

アンビエントライト照度の設定

アンビエントライトの照度の設定ができます。

▶ ＋ または － を押して設定内容を変更します。

表示	設定内容
0	アンビエントライトは点灯しません。
1 2 3 4 5	1 がもっとも暗く、5 がもっとも明るい設定になります。

詳しくは（▷120 ページ）をご覧ください。

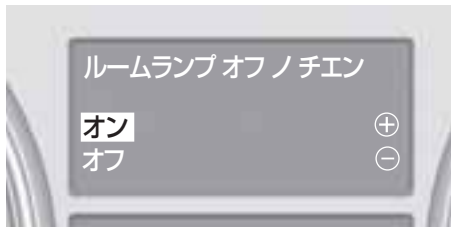
車両の操作

車外ライト消灯遅延機能の設定

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ライトが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、ヘッドライト（下向き）、LED ドライビングライト、テールランプ、ライセンスライトが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ライト消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷113 ページ）をご覧ください。

ルームランプ消灯遅延機能の設定

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷117 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

「シャリョウ」では、以下の項目の設定ができます。

- エンジン停止時の表示の設定
- ウィンタータイヤスピードリミッターの設定
- 車速感応ドアロックの設定
- アンサーバック機能の設定 *

設定グループを選択する

▶ [ ] または [ ] を押して、設定メニューを表示させます（▷161 ページ）。

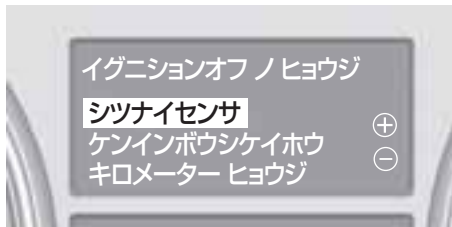
▶ 設定メニュー表示中に [⌂] を押して、設定グループを表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、" シャリョウ " を反転表示にします。

設定項目を表示させる

▶ [⌂] を押します。

シャリョウの最初の設定項目が表示されます。

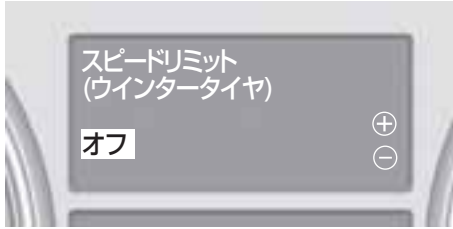
エンジン停止時の表示の設定

イグニッション位置を **0** にしたときやエンジンスイッチからキーを抜いたときに、最初に表示される項目の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
シツナイセンサ	室内センサーのオン / オフが表示されます。
ケンインボウシケイホウ	けん引防止警報機能のオン / オフが表示されます。
キロメーターヒョウジ	基本画面になります。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 2 分間経過すると、室内センサーやけん引防止警報機能を解除したり、待機状態にすることはできなくなります（▷63、64 ページ）。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

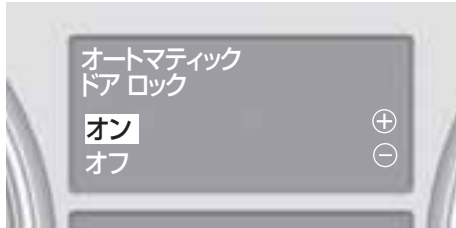
日本仕様でも設定はできますが法定速度を守って走行してください。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷193 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

▶ [+] または [−] を押して、設定内容を選択します。

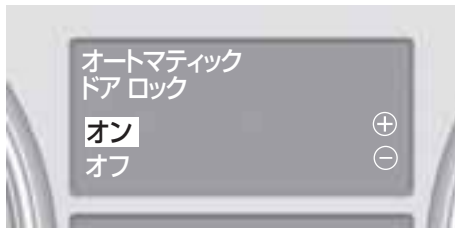
車速感応ドアロックの設定

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷80 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アンサーバック機能の設定 *

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を施錠したときに確認音が鳴る機能の設定ができます。

※仕様により、解錠時に確認音が鳴る場合もあります。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	アンサーバック機能が作動します。
オフ	アンサーバック機能は作動しません。

詳しくは（▷75 ページ）をご覧ください。

コンフォート

「コンフォート」では、以下の項目の設定ができます。

- イージーエントリーの設定
- フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定
- 施錠時のドアミラー格納の設定

設定グループを選択する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、設定メニューを表示させます（▷161 ページ）。

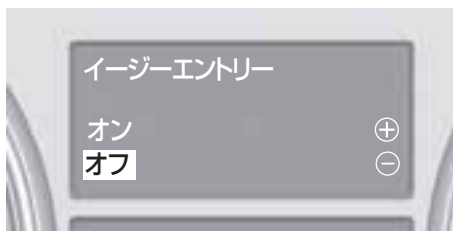
▶ 設定メニュー表示中に [ボタン] を押して、設定グループを表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、" コンフォート " を反転表示にします。

設定項目を表示させる

▶ [ボタン] を押します。

コンフォートの最初の設定項目が表示されます。

イージーエントリーの設定

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリーの設定ができます。

車両の操作

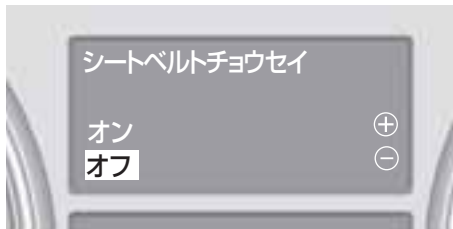
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イージーエントリーが作動します。
オフ	イージーエントリーは作動しません。

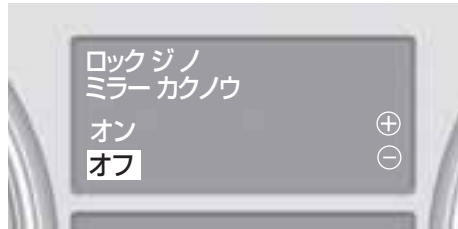
詳しくは（▷100 ページ）をご覧ください。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定

イグニッション位置が **2** のとき、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように、テンション（締め付け具合）を自動的に調整する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イグニッション位置が **2** のときに、フロントシートベルトのテンションが自動的に調整されます。
オフ	フロントシートベルトのテンションは調整されません。

詳しくは（▷107 ページ）をご覧ください。

施錠時のドアミラー格納の設定

リモコン操作またはキーレスゴー操作での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	リモコン操作またはキーレスゴー操作での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作またはキーレスゴー操作での施錠時にドアミラーは格納されません。

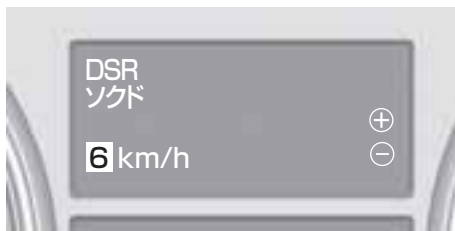
詳しくは（▷102 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車両設定

「車両設定」では、以下の項目の設定ができます。

- DSR の速度の設定
- けん引防止機能の設定
- 室内センサーの設定

DSR 速度の設定

マルチファンクションディスプレイでは、DSR の速度を 6km/h から 18km/h の間で、2km/ h 単位で設定できます。

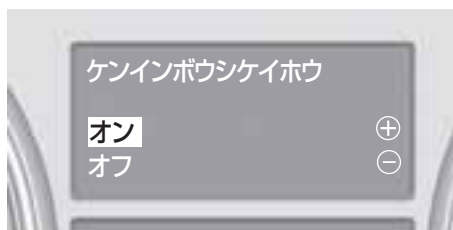
DSR の速度を設定する

▶ ［ ］または［ ］を押して、DSR 速度の設定を表示させます。

表示	設定内容
6 ～ 18 km/h	DSR の設定速度がそれぞれの速度になります。

ⓘ DSR を作動させているときは、クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバーにより、DSR の設定速度を 4km/h から 18km/h の間で、一時的に変更することができます。

詳しくは（▷180 ページ）をご覧ください。

けん引防止機能の設定

盗難防止システムのけん引防止機能を設定できます。

けん引防止機能を設定する

▶ ［ ］または［ ］を押して、DSR 速度の設定を表示させます。

▶ ［△］または［▽］を押して、けん引防止警報の設定を表示させます。

▶ ［＋］または［－］を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	けん引防止機能が待機状態になります。
オフ	けん引防止機能が解除されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ℹ エンジン停止時の表示設定画面（▷169 ページ）が " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ " のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ " または " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾝ " と表示されます。このとき [＋] か [－] を押すと、けん引防止機能を待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷63 ページ）をご覧ください。

室内センサーの設定

盗難防止システムの室内センサーを設定できます。

室内センサーを設定する

▶ [◫] または [◫] を押して、DSR 速度の設定を表示させせます。

▶ [△] または [▽] を押して、室内センサーの設定を表示させせます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	室内センサーが待機状態になります。
オフ	室内センサーが解除されます。

ℹ エンジン停止時の表示設定画面（▷169 ページ）が " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ " のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾌ " または " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾝ " と表示されます。このとき [＋] または [－] を押すと、室内センサーを待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷64 ページ）をご覧ください。

トリップコンピューター

「トリップコンピューター」には以下の項目があります。

- エンジン始動時からの情報表示
- リセット時からの情報表示
- 走行可能距離表示
- 瞬間燃費表示

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

エンジン始動時からの情報表示

① エンジン始動時からの走行距離（km）
② エンジン始動時からの経過時間（h）
③ エンジン始動時からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動時からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km/ マイル走行後に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報を表示させる

▶ エンジン始動時からの情報が表示されるまで、[□] または [□] を押します。

エンジン始動時からの情報を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報は手動でリセットすることもできます。

▶ エンジン始動時からの情報が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷150 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

リセット時からの情報表示

① リセット時からの走行距離（km）
② リセット時からの経過時間（h）
③ リセット時からの平均速度（km/h）
④ リセット時からの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報を表示させる

▶ [□] または [□] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます。

▶ リセット時からの情報が表示されるまで、[△] または [▽] を押します。

リセットする

▶ リセット時からの情報が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷150 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ⓘ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km/ マイル走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離表示

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示されます。

走行可能距離を表示させる

▶ [⧉] または [⧉] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます (▷175 ページ)。

▶ 走行可能距離が表示されるまで、[△] または [▽] を押します。

! 表示される走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されるか、[給油] が表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

瞬間燃費表示

そのときの瞬間燃費を km/l 単位で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

瞬間燃費を表示させる

▶ [⧉] または [⧉] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させます (▷175 ページ)。

▶ 瞬間燃費が表示されるまで、[△] または [▽] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ⓘ COMAND システムには Bluetooth® 接続で携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

> ⚠ **警告**
>
> 安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。
>
> 走行中は電話を発信しないでください。
>
> また、走行中に電話が着信したときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。
>
> どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

ⓘ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

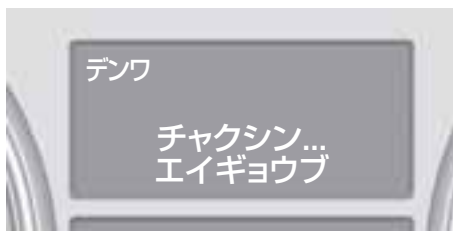
電話画面を表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話メニューを表示させせます。

マルチファンクションディスプレイに " デンワ マチウケ " と表示されます。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [受話ボタン] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [終話ボタン] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [終話ボタン] を押します。

ⓘ 上記の操作は電話画面を表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ⓘ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話や PC カードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

▶ [電話メニューボタン] または [電話メニューボタン] を押して、電話メニューを表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、電話帳を呼び出します。

▶ [△] または [▽] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ⓘ [△] または [▽] を押し続けると、はじめの 7 件目までは 1 件づつ表示されます。

[△] または [▽] をさらに押し続けると、8 件目からは五十音順またはアルファベット順の先頭のデータが表示されます。

▶ [発信] を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" ハッシン ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前が表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ⓘ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに [△] または [▽] を押して電話番号を選択してから、[発信] を押すと発信されます。

ⓘ ステアリングの [終話] スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

発信履歴から電話を発信する

▶ [電話メニューボタン] または [電話メニューボタン] を押して、電話メニューを表示させます。

▶ COMAND ディスプレイに " デンワマチウケ " と表示されているときに、[発信] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [△] または [▽] を押して、発信先を選択します。

▶ [発信] を押します。

オフロード走行装備

オフロード走行のための装備には、以下のものがあります。

- 4MATIC

  車両操縦性や走行安定性を高める 4 輪駆動システムです。

- DSR

  下り坂を走行するときに設定した速度を維持しようとするシステムです。

- ローレンジモード

  強い駆動力を必要とするときに設定します。

- ディファレンシャルロック

  車輪が空転して動けなくなった場合などの緊急時の装備です。

オフロードの走行については、「オフロード走行 (▷295 ページ)」もご覧ください。

4MATIC

4MATIC は、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする 4 輪駆動システムです。

⚠ **警 告**

- 4MATIC は車両操縦性や走行安定性を高める装備で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  4MATIC 車でも、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

- 運転時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 滑りやすい路面などでいずれかのタイヤが空転したときは、アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

  ◇急ハンドル

  ◇急ブレーキ

  ◇急発進、急加速

  ◇急激なエンジンブレーキ

! 4MATIC 車であっても雪道や凍結路などでは、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着し、速度を控えめにし、車間距離を十分確保して運転してください。スノーチェーンは後輪に装着してください。

! ブレーキダイナモ上でパーキングブレーキを点検するときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

DSR

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）は、下り坂を走行するときに自動的にブレーキを作動させ、設定した速度を維持しようとするシステムです。

下り坂の勾配が急になるほどブレーキの効き具合は強くなり、勾配がゆるくなるとブレーキの効き具合は弱くなります。

勾配のない路面でも作動しますが、必ず下り坂を走行するときに使用してください。

⚠ 警告

- DSR 使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- DSR は必ず下り坂を走行するときに使用してください。路面の勾配にかかわらず作動しますので、路面や周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- 極端な下り坂などで DSR が設定速度を維持できないときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

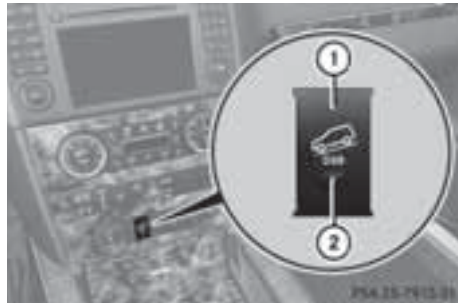
! DSR の設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに DSR に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷327 ページ）をご覧ください。

i DSR が作動していても、アクセルペダルを踏むと車は加速します。またブレーキペダルを踏むと、車は減速します。

⚠ 警告

DSR が作動しているときに、アクセルペダルを踏んで車を加速させると、設定速度や路面の勾配によっては、アクセルペダルから足を放したときに DSR が急ブレーキをかけることがあります。十分注意して走行してください。

DSR の作動と解除

③設定速度
（設定速度が 6km/h のとき）

④ 設定速度
⑤ DSR インジケーター

DSR を作動させる

▶ エンジンがかかっていて走行速度が約 30km/h 以下のときに、DSR スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯し、マルチファンクションディスプレイに設定速度 ③ が数秒間表示され、走行情報表示に DSR インジケーター ⑤ が表示されます。

その後、マルチファンクションディスプレイの走行情報表示に、設定速度 ④ が表示されます。

ℹ 約 30km/h 以上の速度で走行しているときは DSR を作動させることができません。このときはマルチファンクションディスプレイに下記のメッセージが数秒間表示されます。

約 30km/h 以上の速度で走行していて、DSR を作動させようとしたとき

DSR を解除する

▶ DSR スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯し、マルチファンクションディスプレイに "DSR オフ " と数秒間表示されます。

車両表示画面の設定速度 ④ と DSR インジケーター ⑤ も消えます。

! DSR を解除するときは周囲の状況に注意してください。急な下り坂を走行しているときに DSR を解除すると、自動で作動しているブレーキが解除されて速度が上昇し、事故を起こすおそれがあります。

ℹ エンジンを停止すると、DSR は解除されます。

ℹ 走行速度が約 35km/h 以上になると DSR は自動的に解除されます。このときは確認音とともにマルチファンクションディスプレイに "DSR オフ " と表示されます。

マルチファンクションディスプレイでDSR の速度を設定する

DSR 設定画面

マルチファンクションディスプレイでDSR の速度を設定できます。

設定できる速度は 6km/h から18km/h の間です。

ℹ DSR の速度は、工場出荷時は6km/h に設定されています。

ℹ マルチファンクションディスプレイで設定した DSR の速度は、イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても消去されません。

速度を設定する

▶ マルチファンクションディスプレイに DSR 速度設定画面を表示させます（▷173 ページ）。

▶ ステアリングの ＋ を押します。

2km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ ステアリングの － を押します。

2km/h 単位で設定速度が下がります。

! 走行中はマルチファンクションディスプレイで DSR の設定を行なわないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。必ずレバーで設定を行なってください。

レバーで DSR の設定速度を変更する

DSR を作動させているときは、レバーで DSR の設定速度を一時的に変更できます。

この操作によって設定できる速度は4km/h から 18km/h の間です。

ℹ レバーで設定した DSR の速度は、エンジンを停止すると消去されます。次にエンジンを始動して DSR を作動させたときは、マルチファンクションディスプレイで設定した速度になります。

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを ① の方向にいっぱいまで操作します。

2km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

ℹ 設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、走行情報表示に表示されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ② の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを ② の方向にいっぱいまで操作します。

2km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

ℹ 設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、走行情報表示に表示されます。

ローレンジモード

急勾配の道路を走行するときや、河川などを渡るとき、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合はローレンジにします。

ギアレンジ	用途
ノーマルレンジ	一般道路走行用です。
ローレンジ	急勾配の道路を走行するときや河川などを渡るときなどに使用します。 ノーマルレンジに比べて速度は約 1/3 になり、強い駆動力が発生します。

⚠ 警 告

ノーマルレンジからローレンジへ、またはローレンジからノーマルレンジへのギアチェンジ操作を行なう場合は、必ずギアチェンジの動作が完了するまで待ってください。

また、ギアチェンジの動作中にエンジンを停止したり、シフトポジションを N 以外にしないでください。

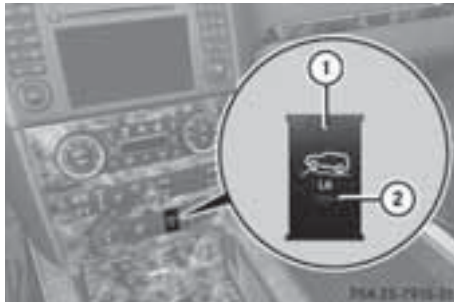
ギアチェンジの動作が完了するまで待たないと、ギアがニュートラルになり、エンジンとドライブアクスルの間で動力が伝達されなくなります。

この状態では、シフトポジションが N 以外のときでも車が固定されないため、坂道などで車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

! 以下のときはローレンジを使用しないでください。

- ぬかるみなど滑りやすい路面を走行するとき
- 積雪路や凍結路を走行するとき
- スノーチェーンを装着しているとき

! 走行モードが M モードのときにローレンジにすると、エンジン回転数が許容回転数に達しても自動的にシフトアップされません。エンジン回転数を上げすぎないように注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

i ローレンジモードにしたときは、可変スピードリミッターで設定できる速度の上限は 85km/h になります。

ローレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のときに、シフトポジションを N にします。

▶ ローレンジスイッチ ① を押します。

マルチファンクションディスプレイにローレンジインジケーター③が表示され、スイッチの表示灯②が点灯します。

ノーマルレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約 70km/h 以下のときに、シフトポジションを N にします。

▶ ローレンジスイッチ①を押します

スイッチの表示灯②とマルチファンクションディスプレイのローレンジインジケーター③が消灯します。

i シフトポジションが N 以外のときにスイッチを押すと、スイッチの表示灯が点滅します。

i ギアチェンジの作動が終了するまではスイッチの表示灯が点滅することがあります。スイッチの表示灯が点滅しているときに再度スイッチを押すと、作動が中断されます。

マルチファンクションディスプレイの警告メッセージ

ギアチェンジの動作が正常に終了していないときは、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

"max. 40km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ "

走行速度が約 40km/h 以上のときにローレンジにしようとしています。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ 走行速度を約 40km/h 以下にしてください。

ローレンジになり、スイッチの表示灯も点灯に変わります。

"max. 70km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ "

走行速度が約 70km/h 以上のときにノーマルレンジにしようとしています。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ 走行速度を約 70km/h 以下にしてください。

ノーマルレンジになり、スイッチの表示灯も消灯に変わります。

" ﾀﾝｼﾞｶﾝ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ "

走行速度は約 40km/h 以下 (ローレンジにするとき）または約 70km/h 以下（ノーマルレンジにするとき）になっていますが、シフトポジションが N になっていません。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ シフトポジションを N にしてください。

" ｼﾌﾄﾄﾞｳｻ ｷｬﾝｾﾙ ｻｲｷﾄﾞｳｼﾃｸﾀﾞｻｲ "

何らかの原因でギアチェンジの動作が完了していません。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

" ﾃｲｼｬ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ "

警告音が鳴ります。

ギアチェンジの動作が完了していません。ギアがニュートラルになっており、エンジンとホイールの間で動力が伝達されていません。

! 走行を続けないでください。駆動部品を損傷するおそれがあります。

▶ 周囲の状況に注意しながら、停車してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

ギアチェンジの動作が完了すると、警告メッセージが消えます。

ディファレンシャルロック

ディファレンシャルロックは、車輪が空転して走行できなくなった場合などに、ディファレンシャルをロックすることにより、空転していない車輪に駆動力を伝え、脱出を容易にする緊急時の装備です。

ディファレンシャルロックは、AUTOモードまたは手動により操作できます。

⚠ **警告**

舗装された道路や固い路面を走行するときは必ずAUTOモードにして、ディファレンシャルロックの手動操作はしないでください。ディファレンシャルをロックすると、車両操縦性が大幅に制限されるため、事故を起こすおそれがあります。

点灯する表示灯	モード	作動内容
② (▷188ページ)	AUTOモード	状況に合わせてディファレンシャルロックが自動的に作動します。
③ (▷188ページ)	センターディファレンシャルロック	センターディファレンシャルを手動でロックすることができます。 ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトが直結し、前輪または後輪が空転した場合でも駆動力を確保します。
④ (▷188ページ)	センター / リアディファレンシャルロック	センターディファレンシャルとリアディファレンシャルを手動でロックすることができます。 ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトとリア左右のアクスルが直結し、空転していない車輪にも駆動力が伝わります。

⚠ **警告**

コーナリング中にディファレンシャルロックの操作をしないでください。旋回時でも直進しようとする力が強く働き、急激に直進状態に戻ることがあり、事故を起こすおそれがあります。

ディファレンシャルをロックしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり、事故を起こすおそれがあります。

! ディファレンシャルロックの手動操作は、AUTO モードでは駆動力が不足する場合にのみ行なってください。

! ディファレンシャルロックを手動操作したときは、車両操縦性が大幅に制限されるため、注意して走行してください。また、最適な駆動力が得られるように慎重にアクセルを踏んでください。

! ディファレンシャルをロックしたときは、アクセル操作やステアリング操作はゆっくり行ない、慎重に運転してください。

! ディファレンシャルをロックするときは、車輪が空転していないことを必ず確認してください。車輪が空転しているときにロックすると車が突然飛び出すおそれがあります。

! 車をシャシーダイナモ上で動かすときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、短時間であっても駆動アクスル以外を持ち上げるか、ドライブシャフトを外してください。このとき、センターディファレンシャルを必ずロックしてください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

i 前輪の駆動力は 4ETS により、自動的に制御されます。

i ディファレンシャルロックの作動状態は、マルチファンクションディスプレイのオフロード装備画面（▷159 ページ）に表示されます。

i 安全のため、走行速度が約 50km/h 以上になると、ディファレンシャルロックは自動的に解除されます。

i 停車してイグニッション位置を **0** か **1** にしてから約 10 秒以上経過すると、ディファレンシャルロックは AUTO モードになります。

ディファレンシャルロックの作動

① ディファレンシャルロックダイヤル
② AUTO モード表示灯
③ センターディファレンシャルロック表示灯
④ センター / リアディファレンシャルロック表示灯

AUTO モードにする

▶ エンジンを始動します。

ディファレンシャルロックダイヤル①の表示灯②が点灯します。

▶ 他のモードを選択しているときは、ディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯②を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイをオフロード装備画面（▷159 ページ）にしているときは、" オート " の文字が表示されます。

AUTO モードでは、ディファレンシャルロックは自動的に制御されます。

舗装路面からオフロードまで、様々な路面状況に適した駆動力が発生し、車の旋回時にも影響を与えません。

センターディファレンシャルをロックする

▶ 約 30km/h 以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯③を点灯させます。

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態

マルチファンクションディスプレイをオフロード装備画面（▷159 ページ）にしているときは、センターディファレンシャルがロックしたことを示す ■ ⑤が表示されます。

AUTO モードから操作したときは、" オート " の文字が消えます。

センターディファレンシャルとリアディファレンシャルをロックする

▶ 約 30km/h 以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯④を点灯させます。

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態
⑥ リアディファレンシャルがロックした状態

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイをオフロード装備画面（▷159 ページ）にしているときは、センター / リアディファレンシャルがロックしたことを示す 2 つの ■ ⑤⑥が表示されます。

AUTO モードから操作したときは、" オート " の文字が消えます。

約 30km/h 以上で走行しているときにディファレンシャルをロックしようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されます。

マルチファンクションディスプレイの警告メッセージ

ギアチェンジの動作が正常に終了していないときは、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

" デ゛フロックシステム カネツ スコシ オマチクダ゛サイ "

ディファレンシャルロックシステムが過熱しているため、ディファレンシャルロックが解除されています。

▶ 注意して走行してください。

ディファレンシャルロックが冷却されれば、再度操作できるようになります。

走行装備

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約30km/h以上です。

⚠ 警 告

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  ◇ 急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  ◇ 加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  ◇ 雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  ◇ 降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! 急な上り坂では、クルーズコントロールが速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

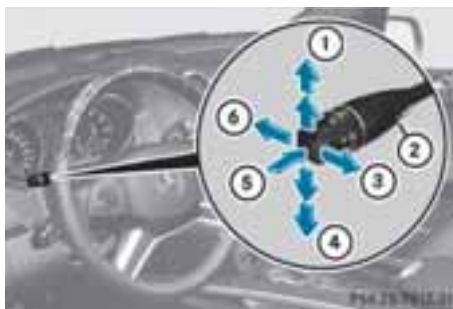
⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると、足を挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷327 ページ）をご覧ください。

クルーズコントロールの使いかた

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

DSR（▷180 ページ）、可変スピードリミッター（▷193 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯②が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯②が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯②が消灯し、クルーズコントロールを操作できる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ DSR が解除されていることを確認します（▷180 ページ）。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か④の方向に操作します。

そのときの速度にクルーズコントロールが設定されます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⑦ 設定速度
⑧ クルーズコントロールインジケーター

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示され、数秒間後に走行情報表示に移動します。

また、走行情報表示にクルーズコントロールインジケーター⑧が表示されます。

> ⚠ **警 告**
>
> 記憶されている速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速をして事故を起こすおそれがあります。

ℹ 走行速度が約 30km/h 以下のときや、ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

ℹ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

ℹ 上り坂では設定速度を維持できないことがありますが、平坦な路面になると設定速度に戻ります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

! レバーを①の方向に操作してクルーズコントロールの設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度に到達するために車が加速することがあります。

i 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを④の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

または

▶ レバーを④の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

i レバーを④の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

! クルーズコントロールが自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると、足を挟まれたり、ブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑥の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に操作します。

レバーの表示灯②が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

⚠ **警告**

クルーズコントロールはシフトポジションを N にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ℹ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

ただし、イグニッション位置を一度 0 か 1 の位置にすると、記憶された設定速度は消去されます。

ℹ 以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- シフトポジションを N にしたとき
- ESP® が作動したとき
- ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除したとき

このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ " と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは自動的に解除されます。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定速度を超えないように走行することができます。設定できる速度は 30km/h から 210km/h の間です。ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 警告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

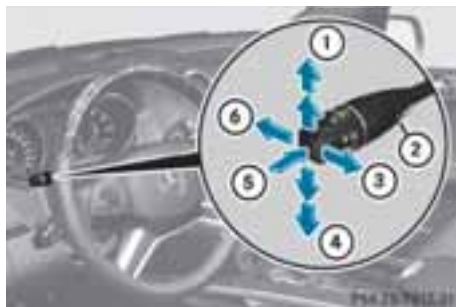
! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷327 ページ）をご覧ください。

i ウィンタータイヤスピードリミッター（▷170 ページ）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

i 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄｦ ｺｴﾏｼﾀ" と表示されることがあります。

ⓘ ローレンジモードにしたときは、可変スピードリミッターで設定できる速度の上限は 85km/h になります。

可変スピードリミッターの使いかた

① 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

DSR（▷180 ページ）、クルーズコントロール（▷189 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯②が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯②が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯②が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ DSR が解除されていることを確認します（▷180 ページ）。

▶ レバーを①または④の方向に軽く操作します。

- 停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に再度設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

⑦ 設定速度
⑧ 可変スピードリミッター表示灯

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示され、数秒後に走行情報表示に移動します。

また、メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯⑧が点灯します。

ℹ 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。ただし、イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ キックダウンをしているときは可変スピードリミッターは設定できません。このときはマルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

! 制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が上がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを④の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを④の方向にいっぱいまで操作します。

- 10km/h 単位で設定速度が下がります。
- 1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを⑥の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯②が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

⚠ **警告**

可変スピードリミッターは、ブレーキペダルを踏んでも解除されません。

! 可変スピードリミッターを解除しても､設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ℹ 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは警告音が鳴ります。

  ただし、走行速度が設定速度より約 20km/h 以上低いときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。
- エンジンを停止したとき

ADS

ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）は、運転のスタイルや道路状況などに応じて、サスペンションを最適な状態に調整します。

また、サスペンションモード選択スイッチでサスペンションモードを選択できます。

サスペンションモードを選択する

エンジンがかかっているときに操作できます。

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードが AUTO → SPORT → COMF → AUTO と切り替わります。

⚠ **警告**

サスペンションモード選択スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

点灯する表示灯	モード	作動内容
消灯	AUTO	通常走行用のモードです。
②	SPORT（スポーツ）	スポーティな走行に適したモードです。標準より約15mm低い車高になります。
③	COMF（コンフォート）	快適性を重視する走行用のモードです。

ⓘ サスペンションモードが AUTO モードか COMF モードのときは、走行速度が一定以上の速度になると、車高が約 15mm 下がります （▷204 ページ）。

ⓘ イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されます。

ⓘ いずれかのドアが開いているときは、SPORT モードを選択しても車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

レベルコントロール

①車高調整ダイヤル
②車高上昇の方向
③車高下降の方向
④表示灯

悪路などを走行するときは、車高を上げることにより最低地上高を確保することができます。

車高は、車高調整ダイヤル①により、4 つのレベルを選択できます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

⚠ 警 告

車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

点灯する表示灯の数	車高レベル	車高上昇値	設定可能速度
0	通常走行レベル	0mm（標準）	
1	オフロードレベル 1	標準 +20mm	～ 100km/h
2	オフロードレベル 2	標準 +40mm	～ 70km/h
3	オフロードレベル 3	標準 +60mm	～ 20km/h

⚠ **警告**

- 通常は、できるだけ低い車高で走行してください。車高が上昇すると、車の重心も上がり、事故を起こすおそれがあります。
- 車高を上昇させたときは、急発進や急加速を避け、慎重に運転操作を行なってください。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

! 悪路などを走行するときは、レベルコントロールで車高を上げて十分な地上高を確保してください。車両を損傷するおそれがあります。

! 連続して車高を調整しないでください。エアポンプの保護機能によって作動が停止することがあります。

! マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷325 ページ）をご覧ください。

i リモコン操作やキーレスゴー操作で車を解錠したときやドアを開いたときに、積載荷物の重量に応じて車高が調整されることがあります。

i 外気温度の変化により、停車中の車の車高が調整されることがあります。

i 走行中に車高を調整すると、より短い時間で車高調整を完了させることができます。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いても、選択した車高レベルは記憶されます。

i いずれかのドアが開いているときは、車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

i 設定可能速度以上の速度で車高を調整しようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼﾖｳﾌｶ " と表示されます。

マルチファンクションディスプレイの表示

車高レベルの表示

マルチファンクションディスプレイをオフロード装備画面（▷159 ページ）にしているときは、車高の上昇 / 下降状態や車高レベルが表示されます。

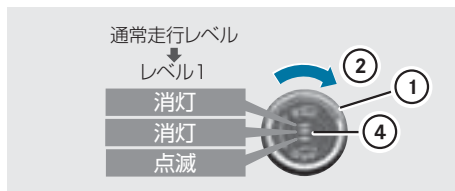
オフロード装備画面を表示させていないときに、レベルコントロールを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

- 車高をオフロードレベル 3 以外のレベルにしたときは、マルチファンクションディスプレイの画面は、車高調整が完了した約 5 秒後に、元の画面に戻ります。

  車高が調整されている途中で、ステアリングスイッチの ［⊟］［⊟］ または ［△］ ［▽］ を押すと、他のメニューを選択できます。
- 車高をオフロードレベル 3 にしたときは、車高調整が完了してもマルチファンクションディスプレイの画面は元の表示に戻りません。

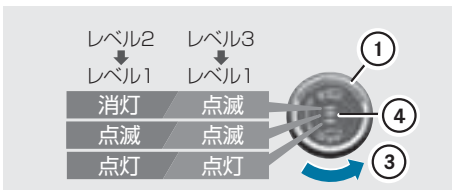
  車高が調整されている途中で、ステアリングスイッチの ［⊟］［⊟］ または ［△］ ［▽］ を押すと、そのときの車高がオフロードレベル 2 以下のときは、他のメニューを選択できます。

車高をオフロードレベル 1 にする

停車中、または約 100km/h 以下で走行しているときに設定できます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高が通常走行レベルのときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

⑤車高上昇インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と "ジョウショウチュウ" が表示されます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高がオフロードレベル 2、またはオフロードレベル 3 のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

⑥車高下降インジケーター

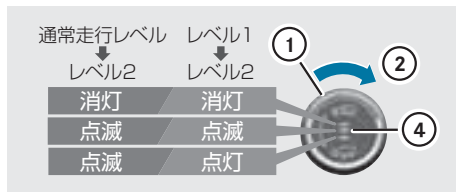
マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と " カコウチュウ " が表示されます。

⑦車高インジケーター

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに " オフロード タカサ 1" と表示され、車高インジケーター⑦が 1 個点灯します。

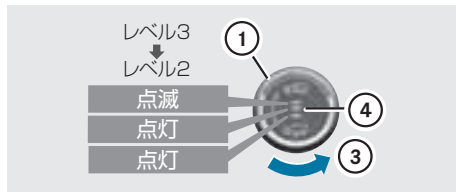
また、スイッチの表示灯④が 1 個点灯します。

車高をオフロードレベル 2 にする

停車中、または約 70km/h 以下で走行しているときに設定できます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高が通常走行レベル、またはオフロードレベル 1 のときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を上図のようします。

⑤車高上昇インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と " ジョウショウチュウ " が表示されます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高がオフロードレベル 3 のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

⑥車高下降インジケーター

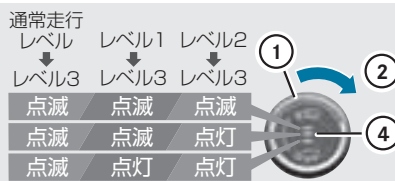
マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と " カコウチュウ " が表示されます。

⑦車高インジケーター

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに " オフロード タカサ 2" と表示され、車高インジケーター⑦が 2 個点灯します。

また、表示灯④が 2 個点灯します。

車高をオフロードレベル 3 にする

停車中、または約 20km/h 以下で走行しているときに設定できます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

⑤車高上昇インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と " ジョウショウチュウ " が表示されます。

車高がオフロードレベル 2 以上になったときは "max.20km/h" と表示されます。

⑦車高インジケーター

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに "オフロードタカサ3" と表示され、表示灯④が 3 個点灯します。

また、車高インジケーター⑦が 3 個点灯します。

⚠ 警告

一般道では車高をオフロードレベル 3 にして走行しないでください。重心が高くなり、事故を起こすおそれがあります。また、オフロードレベル 3 にしたときは、以下の内容を守って運転してください。

- オフロードレベル 2 では走破できないような悪路を走行するときのみ、オフロードレベル 3 にしてください。
- オフロードレベル 3 にすると車両操縦性が大きく変化します。
- 約 20km/h 以上の速度で走行しないでください。
- 急ハンドルや急加速、急ブレーキは避けてください。
- 車両操縦性の違いに注意して走行してください。

オフロードレベルの自動解除

車高がオフロードレベル 3 のときに約 20km/h 以上の速度で走行した場合の警告メッセージ

オフロードレベル 3 の自動解除

車高がオフロードレベル 3 のときに走行速度が約 20km/h を超えると、警告音とともにマルチファンクションディスプレイに前記の警告メッセージが表示されます。

そのままの速度で走行を続けたり、速度を上昇させたときはオフロードレベル 3 は自動的に解除され、そのときの速度に適した車高に自動調整されます。

ℹ オフロードレベル 3 で走行しているときに、停止するか速度を下げると、車高が自動調整されることがあります。

オフロードレベル 2 の自動解除

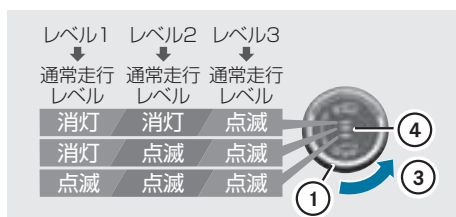
車高がオフロードレベル 2 のときに、約 90km/h 以上の速度で走行するか、約 70 ～ 90km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、オフロードレベル 2 は自動的に解除され、オフロードレベル 1 になります。

オフロードレベル 1 の自動解除

車高がオフロードレベル 1 のときに、約 115km/h 以上の速度で走行するか、約 100 ～ 115km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、オフロードレベル 1 は自動的に解除されます。

ADS のモードが AUTO または COMF のときは通常走行レベルに、SPORT のときはハイウェイレベルになります。

※上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車高を通常走行レベルにする

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

⑥車高下降インジケーター

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と "カコウチュウ" が表示されます。

車高調整が完了すると、点滅していた表示灯④が消灯します。

ハイウェイレベル

ADS（▷197 ページ）のモードが AUTO か COMF のときに、約 180km/h 以上の速度で走行するか、約 160 ～ 180km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、車高が約 15mm 下がります。

速度が約 40km/h 以下になるか、約 40 ～ 70km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、車高は通常走行レベルに戻ります。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ ADS のモードが SPORT のときは、走行速度にかかわらず、車高はハイウェイレベルになります。

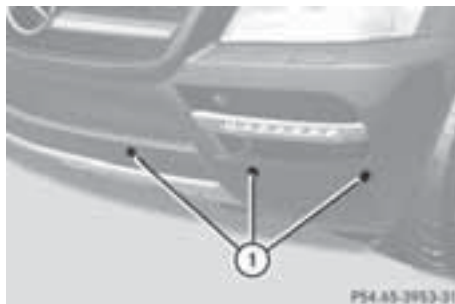
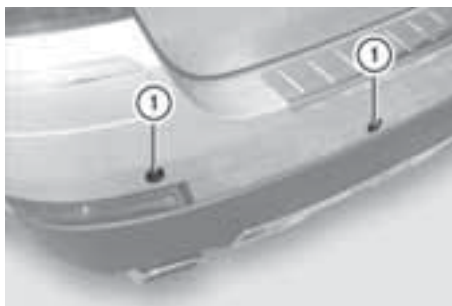
パークトロニック

⚠ 警告

- パークトロニックは運転者を支援するシステムです。パークトロニック使用時においても安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせる装置です。

パークトロニックは、速度が約18km/h以下のときに待機状態になります。速度が約18km/h以上になると機能が解除されます。

パークトロニックセンサー

フロント

リア

①センサー

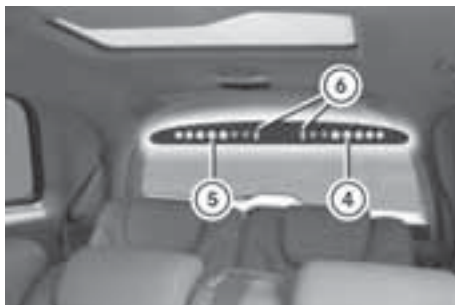
フロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの4個のセンサーが車の周辺の障害物などを感知します。

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約20秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。

! センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ 作動表示灯

リアのインジケーターと作動表示灯はラゲッジルーム上の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離をインジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフトポジションに応じて以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③と、リアの作動表示灯⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じて表示灯が点灯し、警告音が鳴ります。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離が近くなったとき

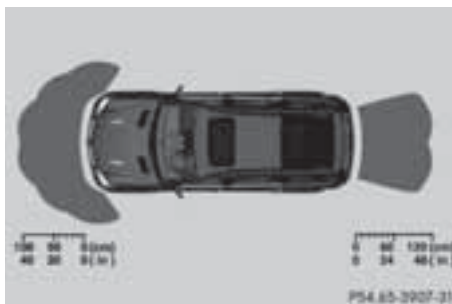
障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

側方から見た感知範囲

上方から見た感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
中央	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
中央	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車の中央でバンパーから約 20cm 以内、コーナーでバンパーから約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

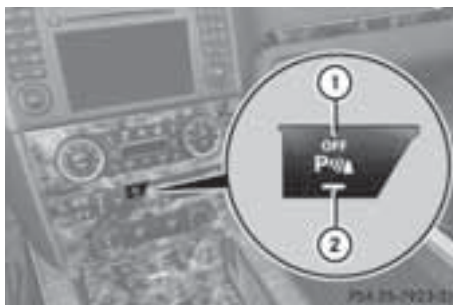
! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 路面が平坦でないときは、パークトロニックは正常に作動しないことがあります。

パークトロニックの停止

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックを停止することができます。

パークトロニックを停止する

▶ イグニッション位置が **2** のとき、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックが停止することがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

ℹ パークトロニックを停止しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障のため、機能が解除されている。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷308 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷207 ページ）。

サイドビューカメラ

助手席側ドアミラー下部に装着されたカメラにより、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を、COMAND ディスプレイに表示します。

また、ガイドラインにより、カーブなどでの走行を補助します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

⚠ **警 告**

- サイドビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はサイドビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- サイドビューカメラ使用時においても安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- COMAND ディスプレイの映像には近くにある障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。ディスプレイの映像だけを見て発進や路肩への幅寄せなどをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

  サイドビューカメラ使用時においても、目視による安全確認を行ないながら運転してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! ボディ側面前方や後方にある物はディスプレイには表示されません。

! 外気温度が低いときは、ディスプレイが暗くなったり、映像が薄くなることがあります。また、動いている物の映像が歪んだり、ディスプレイに表示されないことがあります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! ドアを開閉するときやドアミラーを格納 / 展開するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! カメラやカメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。カメラが故障したり、カメラの取り付け位置や角度がずれるおそれがあります。

! ドアミラーやカメラを損傷したり、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。

! カメラの修理および調整は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

! カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときや、"ガイドできません。オーナーズマニュアルを参照ください"というメッセージが表示されたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 以下のような場合は、サイドビューカメラは正常に作動しません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき
- 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき

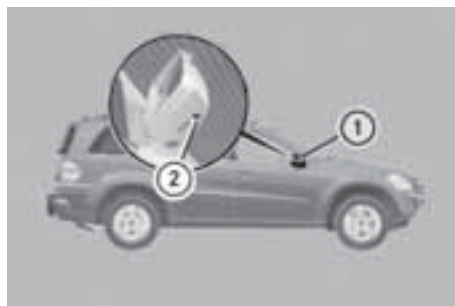
i 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

- 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき
- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入るときなど）
- カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

サイドビューカメラの位置

①助手席側ドアミラー
②サイドビューカメラ

サイドビューカメラ②は助手席側ドアミラー①の下部に装備されています。

サイドビューカメラの表示範囲

① サイドビューカメラの表示範囲

サイドビューカメラは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の範囲①を表示します。

サイドビューカメラの作動と停止

サイドビューカメラを作動させる

イグニッション位置が **2** のときにサイドビューカメラを作動させることができます。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面になります。

設定基本画面

▶ " ｻｲﾄﾞﾋﾞｭｰｶﾒﾗ " を選択します。

COMAND ディスプレイに、サイドビューカメラの映像とガイドラインが表示されます。

サイドビューカメラを停止する

▶ コントロールスティックを押します。

設定基本画面に戻ります。

または

▶ COMAND コントロールパネルのアプリケーション選択ボタンを押します。

それぞれのボタンに応じた画面になります。

ℹ COMAND システムをオフにしたり、イグニッション位置を **2** 以外にすると、サイドビューカメラが停止します。

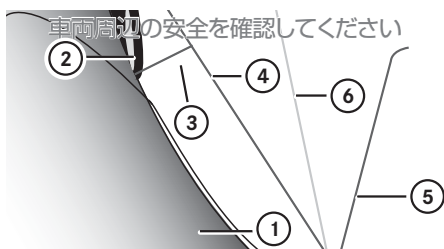
再度 COMAND システムをオンにしたり、イグニッション位置を **2** にするとサイドビューカメラが作動します。

サイドビューカメラの映像

走行速度が約 20km/h を超えると、サイドビューカメラの映像は表示されなくなります。

このときは、ディスプレイに " 安全のため 走行中は利用できません。" と表示されます。

走行速度が約 18km/h 以下になると、サイドビューカメラの映像は再び表示されます。

ガイドライン

① 自車
② 助手席側フロントタイヤ

③	助手席側フロントホイールの中心位置を表示するガイドラインです。
④	助手席側の車体から約 20cm の位置を表示するガイドラインです。
⑤	ステアリングをいっぱいにまわして曲がったときの、助手席側後輪の軌道の目安を表示するガイドラインです。
⑥	現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側後輪の軌道の目安を表示するガイドラインです。 ステアリング操舵角が変化すると、角度が変化します。

ⓘ ガイドライン⑤および⑥は以下のときには表示されません。

- 助手席方向にまわしたステアリング操舵角が約 90 度以下のとき
- ステアリングが運転席方向にまわしてあるとき
- シフトポジションが R のとき

また、以下のときはガイドライン③および④も表示されません。

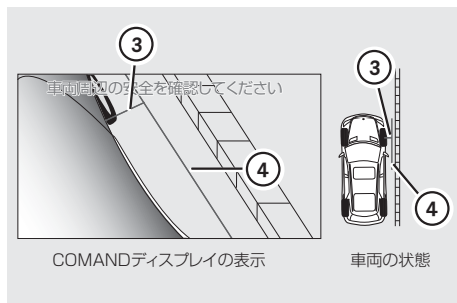
- 助手席ドアが完全に閉じていないとき

  ディスプレイに " 助手席側ドアが開いているため ガイドできません。" と数秒間表示されます。

- 助手席側ドアミラーが格納されているとき

  ディスプレイに " ドアミラーが格納されているため ガイドできません " と数秒間表示されます。

路肩などに車を寄せるとき

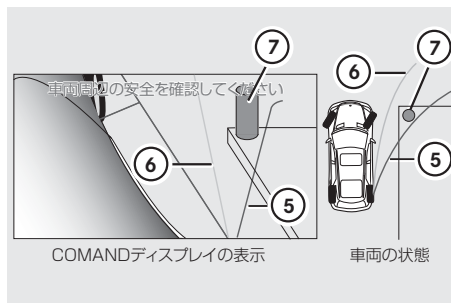
路肩などに車を寄せるときに、車体と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認できます。

③ 助手席側フロントホイールの中心を表示するガイドライン（青色）
④ 助手席側のタイヤ側面から約 20cm の位置を表示するガイドライン（青色）

▶ 図のように、ガイドライン④が目標物の端に接するように車両を幅寄せします。

▶ ガイドライン④を目標物と平行にすることで、目標物に沿って駐車できます。

ガイドライン③の位置により、助手席側フロントホイールのおよその位置を知ることもできます。

障害物のあるカーブを曲がるとき

助手席側に障害物があるカーブを曲がるときに、車体の予想進路と障害物との位置関係の目安を確認できます。

⑤ ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（青色）
⑥ 現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（黄色）
⑦ 障害物

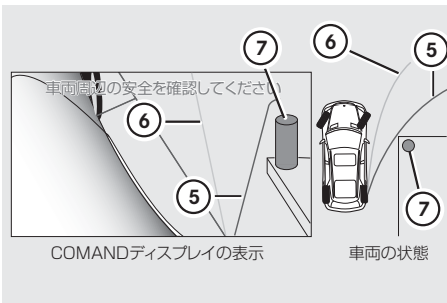
▶ ステアリングを助手席側にまわします。

図のように、ガイドライン⑥が障害物⑦より外側にあるときは、車体と障害物が接触しない目安になります。

! ディスプレイの表示はあくまで目安です。走行するときはディスプレイの表示だけに頼らず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

ただし、よりステアリングを助手席側にまわし、ガイドライン⑥が障害物と重なったり、障害物よりも内側にくると、車体と障害物が接触するおそれがあります。

ガイドライン⑥が障害物より外側にくるようにステアリング操舵角を調整して走行してください。

! ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

図のように、ガイドライン⑤が障害物⑦より外側にあるときは、ステアリングをいっぱいまでまわして曲がっても、車体と障害物が接触しない目安になります。

! ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ 警 告

- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はパーキングアシストリアビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。絶対に COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。
- システムの特性上、COMAND ディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を確認してください。

- 乗車人数や荷物の積載量により、パーキングアシストリアビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。
- COMAND ディスプレイに表示される物などが歪んだ形状で表示されたり、鮮明に表示されないことがあります。
- リアバンパーの至近距離や下方にある物は COMAND ディスプレイには表示されません。

  運転者は COMAND ディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。特に周囲に人や動物がいないことを確認してください。
- パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときは正しく作動しません。
  - ◇ テールゲートが完全に閉じていないとき
  - ◇ カメラやカメラの周囲に損傷があるとき
- 以下のような場合はシステムを使用しないでください。
  - ◇ 激しい雨や雪が降っているときや、カメラが汚れているときなど、COMAND ディスプレイの映像が見えづらいとき
  - ◇ 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
  - ◇ 坂道やカーブなどの平坦でない、または直線でない道路

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! 車の後部を損傷したときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの点検および調整を行なってください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! テールゲートを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

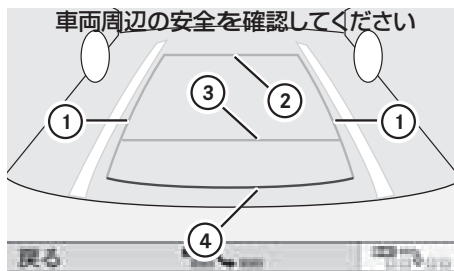
洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷することがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

カメラの位置

カメラ①はテールゲートハンドルの横に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

⚠ 警 告

安全のため、ガイドラインの色の識別が困難な方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。

ℹ テールゲートが開いていたり、完全に閉じていない状態でパーキングアシストリアビューカメラを作動させたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にテールゲートを開いたときは、ガイドラインは表示されません。

このときは COMAND ディスプレイに " テールゲートが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、0.25m ガイドライン④を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン④まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

i 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

- 夜間や暗い場所で使用するとき
- 急激な温度変化があったとき

  （カメラに冷水や温水がかかったときなど）
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき

  （ガレージから出入りするときなど）
- カメラに水滴が付着したとき

  （雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

後退駐車モード

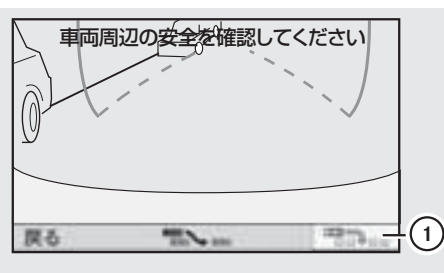
駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、後退操作を補助するモードです。

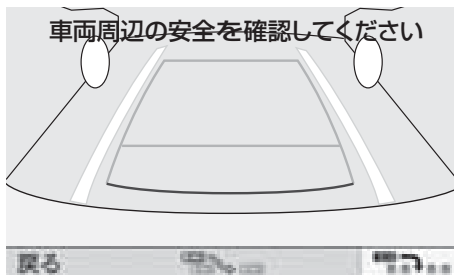
後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

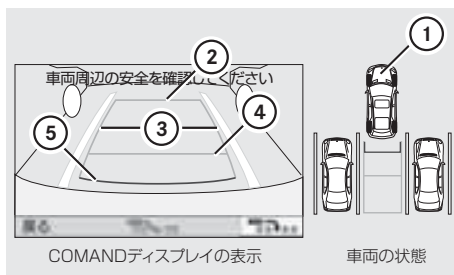
▶ シフトポジションを R にします。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

[アイコン] が表示されていないときは、後退駐車アイコン [アイコン] ①を選択して、コントロールスティックを押します。

① 後退駐車アイコン

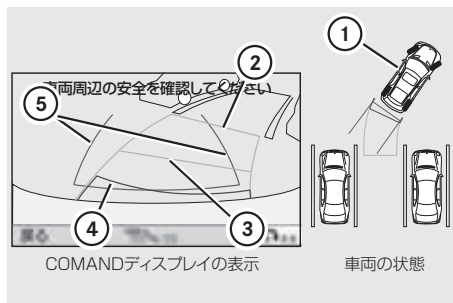
後退駐車時のガイドラインが表示されます。

ⓘ " 戻る " を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないでまっすぐ後退駐車する

①自車位置
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③予想進路ガイドライン（黄色）
④ 1.0m ガイドライン（黄色）
⑤ 0.25m ガイドライン（赤色）

▶ 予想進路ガイドライン③が駐車スペースに収まっていることを確認し、周囲に注意しながら、まっすぐに後退します。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら後退駐車する

① 自車位置
② 予想進路ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）
⑤ 直進ガイドライン（青色）

直進ガイドライン⑤は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン②は、そのときのステアリングの操舵角で車が後退するときの予想進路を示します。

▶ 予想進路ガイドライン②が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

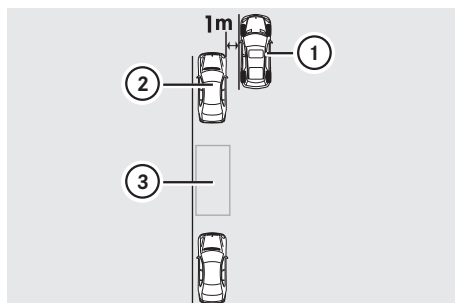
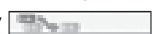
▶ 直進ガイドライン⑤が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン②の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両②から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両②の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

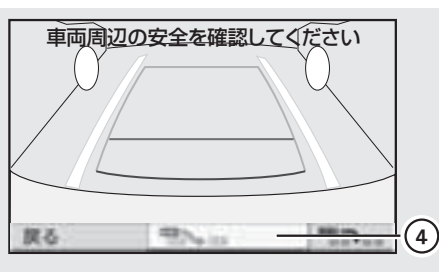
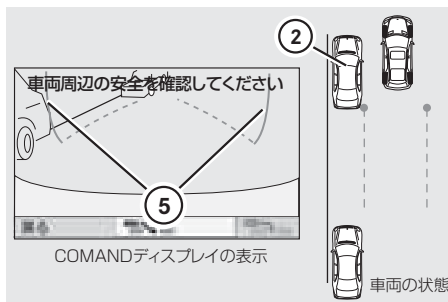
ステアリングは直進状態にします。

i 駐車スペース③の前方に駐車車両②がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、縦列駐車アイコン ④を選択して、コントロールスティックを押します。

④ 縦列駐車アイコン

② 駐車スペース前方の駐車車両
⑤ 垂直ガイドライン

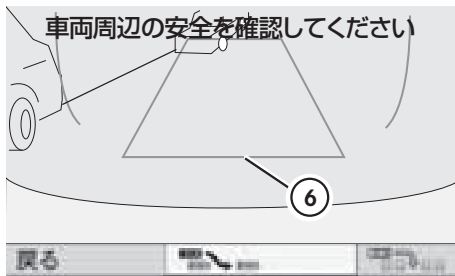
縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

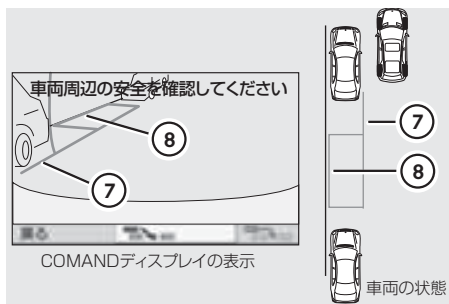
" 戻る " を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

▶ 垂直ガイドライン⑤が、駐車スペース前方の駐車車両②の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン⑤が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン⑤が駐車車両②の後端から外れていると、正しい位置に駐車することはできません。

⑥ 駐車位置ガイドライン

垂直ガイドラインが表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン⑥が表示されます。

⑦ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑧ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑦が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは " ガイドできません ステアリングを戻してください " と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン⑤、駐車位置ガイドライン（道路側）⑦、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑧が消えます。

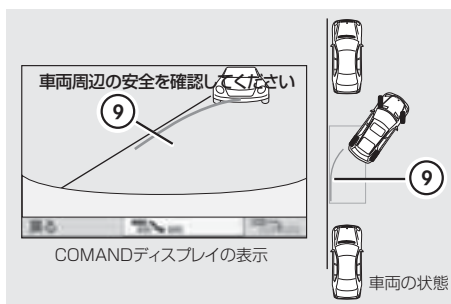
i ゆっくり後退しないと、ガイドが間に合わないことがあります。

i 以下のときはガイドが中止されます。

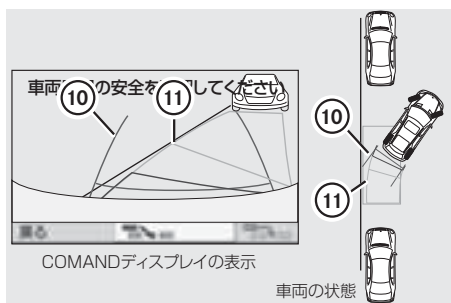
- シフトポジションを R 以外にしたとき
- " 戻る " を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に " ガイドできません " または " ガイドできませんステアリングがずれました " と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑨ ステアリング角度ガイドライン

▶ ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン⑨が表示されます。縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン⑨が合うまで、ステアリングをまわさないでそのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン⑨が正しい位置に合ったら、停車します。

⑩ 直進ガイドライン（青色）
⑪ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン⑩と予想進路ガイドライン⑪が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン⑪が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進状態に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

音声案内の設定

パーキングアシストリアビューカメラ作動時の音声案内を停止 / 作動できます。

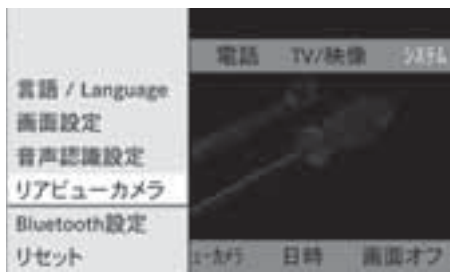
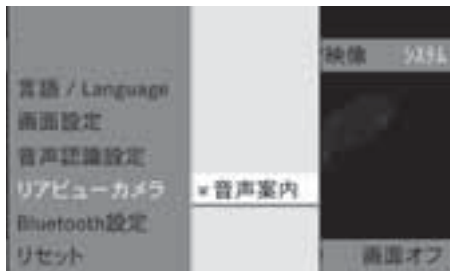
▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面

設定基本画面になります。

▶ " ｼｽﾃﾑ設定 " → " リアビューカメラ " を選択します。

▶ コントロールスティックを押します。

コントロールスティックを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマークが表示されているときは、音声案内が行なわれます。

i 音声案内の音量は、ステアリングスイッチ + − 、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルで調整できます。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ **警 告**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを開くと、短時間で換気できます（▷124 ページ）。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。水分が排出されても、故障ではありません。

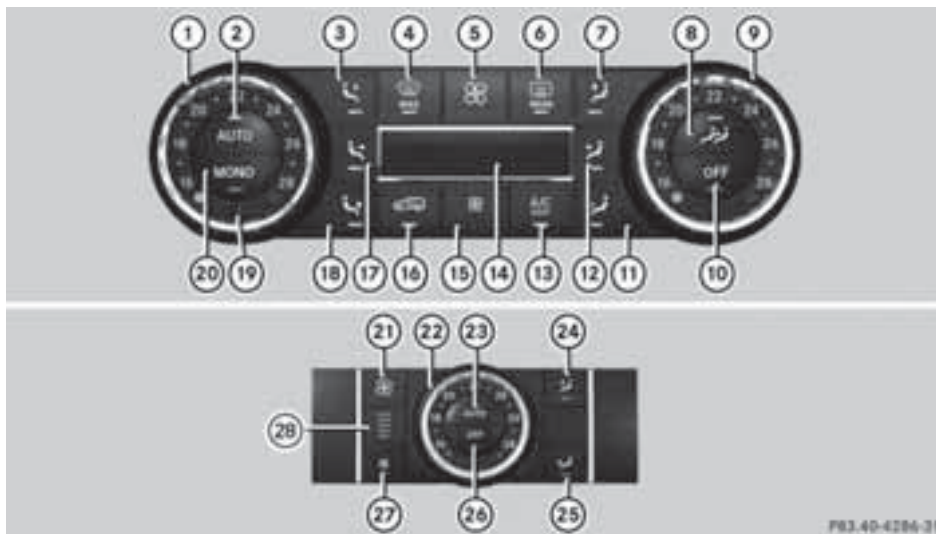
i ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。

i 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

コントロールパネル

コントロールパネル（フロント）

	名称
①	送風温度調整ダイヤル（運転席側）
②	AUTO スイッチ
③	送風口選択スイッチ（運転席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
④	デフロスタースイッチ
⑤	送風量調整スイッチ （強）
⑥	リアデフォッガースイッチ
⑦	送風口選択スイッチ（助手席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑧	リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨	送風温度調整ダイヤル（助手席側）
⑩	オフスイッチ
⑪	送風口選択スイッチ（助手席側：足元 / サイド送風口）
⑫	送風口選択スイッチ（助手席側：中央 / サイド送風口）
⑬	AC スイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑭	ディスプレイ
⑮	送風量調整スイッチ （弱）
⑯	内気循環スイッチ
⑰	送風口選択スイッチ（運転席側：中央 / サイド送風口）
⑱	送風口選択スイッチ（運転席側：足元 / サイド送風口）
⑲	室内温度センサー
⑳	運転席モードスイッチ

コントロールパネル（リア）

	名称
㉑	送風量調整スイッチ（強）
㉒	送風温度調整ダイヤル
㉓	AUTO スイッチ
㉔	送風口選択スイッチ（セカンドシート中央 / セカンドシート上部 / サードシート送風口）
㉕	送風口選択スイッチ（セカンドシート足元 / セカンドシート上部 / サードシート送風口）
㉖	オフスイッチ
㉗	送風量調整スイッチ（弱）
㉘	送風量インジケーター

通常の使いかた（AUTO モード）

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させると、自動的に AC モードに設定されます。

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ ⑩ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

再度、オフスイッチ ⑩ を押すと、表示灯が消灯し、元の設定で作動します。

ℹ ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ ⑬ を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードを設定する

▶ 再度、AC スイッチを押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

⚠ **警 告**

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ℹ 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

AC モードのトラブル

AC スイッチを押したときに、AC スイッチの表示灯が点灯しないときは、故障のため、AC モードが解除されています。AC モードに設定することはできません。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

送風温度の調整

送風温度を調整する

▶ 送風温度調整ダイヤル ① または ⑨ をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ℹ 送風温度は左右別々に設定できます。また、リアエアコンディショナー（▷235 ページ）の送風温度も独立して設定できます。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

送風口の選択

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ ③⑦⑪⑫⑰⑱ のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口の選択を解除する

▶ 選択されているスイッチを押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風できます。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、押した席側の送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

再度、送風口選択スイッチを押してすべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTO モードに戻ります。

ℹ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口選択スイッチ	主に送風される送風口
③⑦	フロントウインドウ送風口Ⓔ　サイド送風口Ⓐ ドアウインドウ送風口Ⓕ
⑫⑰	サイド送風口Ⓐ　中央送風口Ⓒ
⑪⑱	足元送風口Ⓖ　サイド送風口Ⓐ

送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒを開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒷⒹを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは風向きを調整できます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ ⑤ を押します。

ディスプレイ ⑭ に表示される送風量インジケーターの点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ ⑮ を押します。

ディスプレイ ⑭ に表示される送風量インジケーターの点灯数が減ります。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯し、送風量インジケーターが表示されます。

ℹ 送風量を上げているときに、COMAND システムの音声認識機能を使用すると、送風量が自動的に下がることがあります。音声認識機能を終了させると、送風量は元の設定に戻ります。

運転席モード

助手席およびリアエアコンディショナー（▷235 ページ）の設定の一部を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席およびリアエアコンディショナーの設定も変更されます。

運転席モードに設定する

▶ 運転席モードスイッチ ⑳ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

助手席の送風温度と送風口の設定が運転席の設定に連動します。

また、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動し、送風温度の設定が運転席の設定に連動します。

運転席モードを解除する

▶ 再度、運転席モードスイッチ ⑳ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 助手席やリアエアコンディショナーの設定を変更したときは、運転席モードは自動的に解除されます。

デフロスターモード

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ ④ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 送風量が上がります。
- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ⓘ 外気温度によっては、送風温度が高くならなかったり、送風量が上がらないことがあります。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ ④ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ⓘ デフロスターモードを解除すると、送風量と送風温度、送風口の選択は、デフロスターモードを設定する前の設定に戻ります。

ⓘ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していた場合は AC モードに設定されます。AC モードを解除していて内気循環だった場合は、外気導入になります。

ⓘ オフスイッチや AUTO スイッチ、送風温度調整ダイヤルや送風量調整スイッチを操作したときも、デフロスターモードは解除されます。

ⓘ デフロスターモードに設定すると、リアエアコンディショナー（▷235 ページ）が停止します。

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ AC スイッチ ⑬ を押して、AC モードに設定します。

▶ AUTO スイッチ ② を押します。

▶ 曇りが取れないときは、デフロスターモードに設定します。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ 送風口選択スイッチ ⑫⑰ または ⑪⑱ を押します。

ⓘ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

⚠ **警告**

ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ ⑥ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ ⑥ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、一定の時間が経過すると自動的に停止します。

ⓘ 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

ⓘ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

ⓘ 外気温度が低いときは、車内が暖まるまではリアデフォッガーが作動しないことがあります。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅しているときは、電圧が低下しています。リアデフォッガーが短時間で停止したり、使用できなくなります。

▶ 読書灯やルームランプなど、必要でない電気装備を停止してください。

バッテリーの電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

内気循環モード

⚠ **警告**

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

ウインドウが曇りはじめたときは内気循環モードを解除してください。曇り具合がひどいときはデフロスターモードにしてください。

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを開閉できます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ ⑯ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ ⑯ を約 2 秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが自動で閉じます。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。身体や物が挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチやベンチレーションウインドウスイッチ、スライディングルーフスイッチを操作して、ドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを開いてください。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに動きを停止して少し開く機能がありますが、乗員が身体を挟まれないように注意してください。

内気循環モードに設定していても、一定時間を経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後
外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ ⑯ を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ ⑯ を約 2 秒以上押し続けると、ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが、前回開いていた位置まで自動で開きます。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフを開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけたり、スライディングルーフやサンシェードに触れないようにしてください。ドアウインドウとウインドウフレーム、スライディングルーフやサンシェードとルーフ内張りの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

ⓘ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ⓘ AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

ⓘ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑬ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口の選択や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター･ベンチレーションスイッチ ⑬ を押します。

または

▶ オフスイッチ ⑩ を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ ⑬ の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

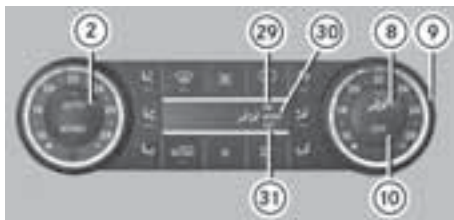
- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ バッテリーを保護するために、送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ⓘ エンジン冷却水の温度が低いときや外気温度が高いときは、暖気が送風されないことがあります。

ⓘ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ⓘ リア送風口からは送風されません。

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作する

② AUTO スイッチ
⑧ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨ 送風温度調整ダイヤル（右側）
⑩ オフスイッチ
㉙ リアエアコンディショナー作動インジケーター
㉚ リアエアコンディショナーモードインジケーター
㉛ リアエアコンディショナー停止インジケーター

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを作動 / 停止させたり、リアエアコンディショナーの送風温度を調整できます。

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナー作動インジケーター ㉙ とリアエアコンディショナーモードインジケーター ㉚ が表示されます。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルの AUTO スイッチ（▷225 ページ）の表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

ⓘ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ ⑧ を押してから約 3 秒間何も操作をしないと、スイッチ ⑧ の表示灯とディスプレイのリアエアコンディショナーモードインジケーター ㉚ が消灯し、フロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ リアエアコンディショナースイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター ㉚ が表示されます。

▶ 約 3 秒以内に送風温度調整ダイヤル（右側）⑨ で送風温度を調節します。

設定した送風温度のインジケーターが約 3 秒間点灯します。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルの送風温度調整ダイヤル（▷225 ページ）の内側のインジケーターが、設定した送風温度に移動します。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ リアエアコンディショナースイッチ ⑧ を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター ㉚ が表示されます。

▶ 約 3 秒以内にオフスイッチ ⑩ を押します。

ディスプレイにリアエアコンディショナー停止インジケーター ㉛ が表示されます。

リアエアコンディショナーが停止します。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーの送風口の組み合わせや送風量を調整することはできません。

ℹ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネル（▷225 ページ）は操作できません。

リアエアコンディショナー

リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーが作動しているときに作動させることができます。

ℹ フロントシートの下にセカンドシート足元送風口があります。

ℹ フロントのエアコンディショナーがデフロスターモードのときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

ℹ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているとき（▷234 ページ）は、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

リアエアコンディショナーの作動 / 停止

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ AUTO スイッチ ㉓ を押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯します。

送風量の調整と送風口の選択は自動的に行なわれます。

▶ 送風温度調整ダイヤル ㉒ で好みの温度を設定します。

設定した送風温度のインジケーターが点灯します。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ ㉖ を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが停止します。

再度オフスイッチ ㉖ を押すと、リアエアコンディショナーが元の設定で作動します。

ℹ フロントエアコンディショナーの送風量を最大にするときは、リアエアコンディショナーを停止してください。

リアエアコンディショナーの送風量調整

リアエアコンディショナーの送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ ㉑ を押します。

送風量インジケーター ㉘ の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ ㉗ を押します。

送風量インジケーター ㉘ の点灯数が減ります。

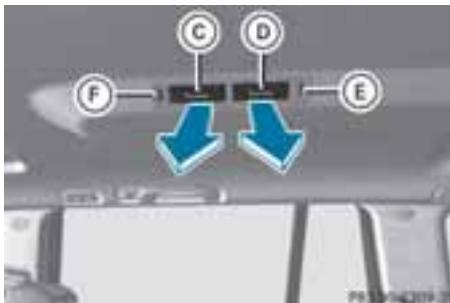
ⓘ リアエアコンディショナーがAUTO モードで作動しているときに送風量調整スイッチ ㉑㉗ を押すと、送風量の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチ ㉓ の表示灯が消灯します。

リアエアコンディショナーの送風口選択

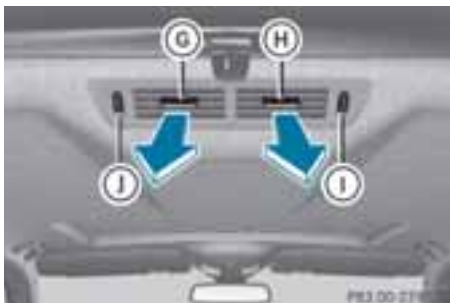
リアエアコンディショナーの送風口を手動で選択できます。

セカンドシート中央送風口

Ⓐ セカンドシート中央送風口（左側）
Ⓑ セカンドシート中央送風口（右側）

セカンドシート上部送風口

右側の送風口
Ⓒ セカンドシート上部送風口（前側）
Ⓓ セカンドシート上部送風口（後側）
Ⓔ 送風口開閉ダイヤル（後側）
Ⓕ 送風口開閉ダイヤル（前側）

ⓘ セカンドシート上部送風口からは暖気は送風されません。送風温度調整ダイヤル ㉒ で設定温度を上げると、送風が停止します。

サードシート送風口

Ⓖ サードシート送風口（左側）
Ⓗ サードシート送風口（右側）
Ⓘ 送風口開閉ダイヤル（右側）
Ⓙ 送風口開閉ダイヤル（左側）

ⓘ サードシート送風口からは暖気は送風されません。送風温度調整ダイヤル ㉒ で設定温度を上げると送風が停止します。

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ ㉔㉕ のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口選択スイッチ	送風される送風口
㉔	セカンドシート中央送風口ⒶⒷ、セカンドシート上部送風口ⒸⒺ、サードシート送風口ⒼⒽ
㉕	セカンドシート足元送風口（フロントシート下）、セカンドシート上部送風口ⒸⒺ、サードシート送風口ⒼⒽ

ⓘ 送風口選択スイッチ ㉔ および ㉕ を同時に選択することもできます。

ⓘ リアエアコンディショナーがAUTO モードで作動しているときに、送風口選択スイッチ ㉔㉕ を押すと、送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチ ㉓ の表示灯が消灯します。再度、送風口選択スイッチ ㉔㉕ を押して、すべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTO モードに戻ります。

送風口の開閉

セカンドシート上部送風口とサードシート送風口は、送風口を開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒺⒻまたはⒾⒿを上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒺⒻまたはⒾⒿを下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒺⒻまたはⒾⒿを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向き調整

各送風口は、風向きを調節できます。

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

スライディングルーフ

⚠ **警告**

- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部から、物を出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフ、ベンチレーションウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作で開くことができます（▷128 ページ）。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作またはキーレスゴー操作で閉じることができます（▷128 ページ）。

i スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディングルーフを開閉できます。その間にフロントドアを開くと、スライディングルーフは開閉できなくなります。

i スライディングルーフが開いているときに PRE-SAFE®（▷44 ページ）が車の横滑りを感知すると、スライディングルーフが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

スライディングルーフが自動で作動しているときにスイッチを操作すると、スライディングルーフはその位置で停止します。

スライディングルーフが開閉できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

スライディングルーフの開閉

① 開く
② 閉じる / チルトダウン
③ チルトアップ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

▶ スライディングルーフスイッチを①の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェードが閉じている場合は連動して開きます。

①の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

スライディングルーフを閉じる

▶ スライディングルーフスイッチを②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

スライディングルーフをチルトアップする

▶ スライディングルーフスイッチを③の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

③の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

スライディングルーフをチルトダウンする

▶ スライディングルーフスイッチを②の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

挟み込み防止機能

スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。

スイッチを引き続けてスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、挟み込み防止機能が作動した後に再度操作して、挟み込みなどの抵抗を検知したときは、より強い力で閉じます。

さらに、この状態で再度操作して挟み込みなどの抵抗を検知したときは、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

⚠ **警告**

挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。スライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

自動でスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

⚠ **警告**

スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 12 時間経過したとき

! 自動チルトアップ機能で閉じているスライディングルーフには、挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。

! 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じるおそれがあります。

ⓘ レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は作動しません。

ⓘ 自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が作動し、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。その後自動チルトアップ機能は解除されます。

ⓘ 自動チルトアップ機能は、イグニッション位置が **1** か **2** のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは作動しません。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 秒間は、自動チルトアップ機能は作動しません。

サンシェード

スライディンググルーフと、サードシート上方のパノラミックリアガラスルーフにはサンシェードが装備されています。

スライディンググルーフのサンシェード

① グリップ
② サンシェード

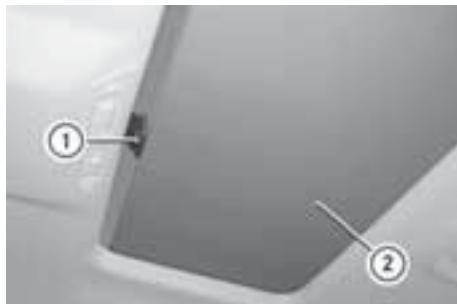
サンシェードを開閉する

▶ グリップ ① を持って開閉します。

スライディンググルーフを開くと、連動して開きます。

! スライディンググルーフが開いているときに、サンシェード ② とルーフ内張りの間に身体が挟まれないように注意してください。

ⓘ スライディンググルーフが開いているときは、サンシェードを閉じることはできません。

パノラミックリアガラスルーフのサンシェード

① グリップ
② サンシェード

サンシェードを開く

▶ グリップ ① をつまんでロックを外し、開きます。

サンシェードを閉じる

▶ グリップ ① を持って閉じ、確実にロックします。

スライディンググルーフのリセット

スライディンググルーフがスムーズに作動しないとき、またはバッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたときは、スライディンググルーフのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**2** にします。

▶ スライディンググルーフスイッチを③の方向（▷239 ページ）に押してチルトアップします。

▶ スイッチを押したまま約 2 秒以上保持します。

▶ スライディンググルーフが自動で全開 / 全閉することを確認します。

▶ 自動で全開しないときは、再度リセットを行ないます。

! リセットを行なっても、スライディンググルーフが自動で全開 / 全閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

⚠ **警告**

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を積むときは、「荷物の固定（▷249 ページ）」もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ **警告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物の積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量（▷382 ページ）を超えないようにしてください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルームの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。

- 荷物はラゲッジルームに積み、バックレストまたは前方に折りたたんだセカンドシートのシートクッションに接するようにしてください。また、セカンドシートを起こしているときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。
- 荷物はできるだけ乗員のいない席の後方に積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **警 告**

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

鋭い角のあるものや壊れやすいものは小物入れに収納しないでください。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

グローブボックスを開く

▶ ハンドル ① を引きます。

カバー ② が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックします。

グローブボックスのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んで、グローブボックスを施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

▶ キーを水平位置 2 にまわします。

確実に施錠されていることを確認します。

グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置 1 にまわします。

ⓘ グローブボックス内には、メディアインターフェース用端子があります。メディアインターフェースは、iPod® や USB 機器などのポータブル音楽機器のための接続端子です。詳しくは別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

ⓘ グローブボックス内にはペンホルダーがあります。

ⓘ イグニッション位置が **1** か **2** のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスライトが点灯します。

ⓘ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

フロントアームレストの小物入れ

フロントシートのアームレスト内部には小物入れがあります。

小物入れを開く

▶ レバー ① を引いてカバーを開きます。

小物入れを閉じる

▶ カバーを下げてロックします。

ⓘ 小物入れ内部にはライトがあります。車外ライトに連動して点灯 / 消灯します。

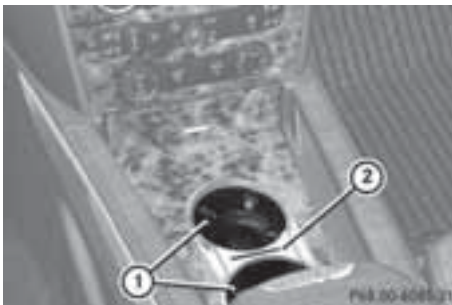
カップホルダー

⚠ 警 告

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な道路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が投げ出されて、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。また、火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。

スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

センターコンソールのカップホルダー

① カップホルダー
② カードホルダー

センターコンソールにはカップホルダー ① が装備されています。2 つのカップホルダーの間にはカードホルダー ② があります。

ⓘ カードホルダー ② は、上方に引き上げて取り外すことができます。

ⓘ カップホルダーを清掃するときは、きれいなぬるま湯を含ませた布で拭いてください。

セカンドシートのカップホルダー

① アームレスト
② カップホルダー

カップホルダーを使用する

▶ アームレスト ① を引き出します。

使用しないときはアームレストを押し込みます。

サードシートのカップホルダー

① カップホルダー

サードシートのアームレストにはカップホルダー ① があります。

収納ネット

助手席の足元とフロントシートの背面に新聞や雑誌などを収納できるネットを備えています。

⚠ **警 告**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

① 助手席足元の収納ネット

② フロントシート背面の収納ネット

分割可倒式セカンドシート

左右いずれか一方、または両方のセカンドシートを折りたたむことができます。

⚠ **警 告**

- ラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- セカンドシートを折りたたんで荷物を積むときは、シートがロックしていることを確認し、セーフティネットを取り付けてください。
- リアシートのクッションを完全に引き起こしていない状態で、リアシートのバックレストを倒さないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、荷物がバックレストの上を通って投げ出され、けがをするおそれがあります。
- 大きな荷物を積まないときは、バックレストを起こしてください。また、セカンドシートに乗車するときは、必ずバックレストを起こして確実にロックしてください。急ブレーキ時や急な車線変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

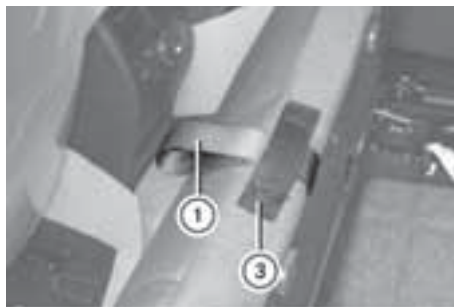
! セカンドシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、セカンドシートに接触しないように注意してください。シートを損傷するおそれがあります。

ℹ フロントシートの前後位置が後方になっていたり、バックレストが後方に傾いているときにセカンドシートを折りたたむ場合は、必要に応じてフロントシートを前方に動かし、バックレストを起こしてください。

セカンドシートを折りたたむ

左側セカンドシートを折りたたむとき

▶ ストラップ ① を引いてロックを解除しながら、シートクッション ② を引き起こします。

! ストラップ ① はホルダー ③ に通した状態で使用してください。また、ホルダー ③ から外れないように注意してください。

▶ 折りたたむセカンドシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。

左側セカンドシートを折りたたむとき

▶ ロック解除レバー ⑤ を引き上げて、ロックを解除します。

バックレストが前方に倒れます。

! バックレストは非常に重量があります。倒すときは身体を挟まないように注意してください。

▶ バックレスト ④ を下方に押し込んで、確実にロックします。

i 右側セカンドシートも、同じ方法で折りたたむことができます。

▶ シートベルト ⑥ をフック ⑦ にかけます。

セカンドシートを元に戻す

左側セカンドシートを元に戻すとき

▶ ロック解除レバー ⑤ またはストラップ ⑧ を引き上げて、ロックを解除しながら、バックレスト ④ 起こし、確実にロックします。

i 右側セカンドシートのストラップの位置と形状は異なります。

▶ シートクッション ② を元の位置に戻し、確実にロックします。

▶ 必要であれば、セカンドシートのヘッドレストの高さを調整します。

⚠ **警 告**

バックレストを元の位置に戻したときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。

荷物の固定

荷物固定用リング

⚠ 警 告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もお読みください。

荷物固定用リングは、ラゲッジルーム内①に4個、サードシートバックレスト背面上部②とセカンドシート足元③に2個ずつあります。

サードシートを収納した状態

① 荷物固定用リング（ラゲッジルーム内）
② 荷物固定用リング（サードシートバックレスト背面上部）

③ 荷物固定用リング（セカンドシート足元）

荷物固定用のアクセサリーは、Daimler AGの推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

荷物固定用フック

ラゲッジルームの左右に荷物固定用フックがあります。

! 荷物固定用フックには、約 4kg 以上の荷物をかけないでください。フックを損傷するおそれがあります。

ラゲッジルームカバー

⚠ 警 告

ラゲッジルームカバーは荷物の飛び出しを防ぐものではありません。荷物を積むときはラゲッジルームカバーの下に納まるようにして、荷物を確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が前方に投げ出され、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジルームに荷物を積むときは、ラゲッジルーム左右のウインドウ下端よりも高い位置に荷物を積み上げないでください。

! ラゲッジルームカバーの上に重い荷物を積まないでください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

サードシート後方に収納リールを取り付けた状態

ラゲッジルームカバーを使用する

▶ ハンドル ① を持って、ラゲッジルームカバーをリールから引き出します。

▶ 左右の固定部 ② をフック ③ にかけます。

! セカンドシート後方に収納リールを取り付けた状態でラゲッジルームカバーを使用するときは、サードシートのシートベルト ④ をフック ⑤ にかけてください。

ラゲッジルームカバーがシートベルトにかかり、正しく使用できないおそれがあります。

ラゲッジルームカバー収納リール

収納リールの取り付け位置

① セカンドシート後方の取り付け位置
② サードシート後方の取り付け位置

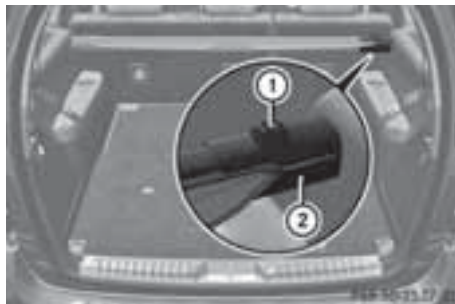
ラゲッジルームカバー収納リールは、セカンドシート後方、またはサードシート後方に取り付けることができます。

取り付け部カバーの脱着

セカンドシート後方の取り付け部（右側）のカバー

▶ 取り付け部のカバー ③ の上部を押して、カバーを取り外します。

反対側のカバーも同様に取り外します。

▶ 取り外したカバーは、紛失しないように、使用しない取り付け部に取り付けます。

収納リールの脱着

セカンドシート後方に取り付けた状態

収納リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーをリールに収納します。

▶ 収納リール右端部 ② を左側にスライドさせます。

収納リール右端部 ② が左側に押し込まれ、収納リールの長さが短くなります。

▶ 右側取り付け部から収納リール右端部 ② を取り外します。

▶ 収納リールを取り外します。

収納リールを取り付ける

▶ 収納リール右端部 ② が左側に押し込まれていて、収納リールが短くなっていることを確認します。

収納リール右端部 ② が左側に押し込まれていないときは、左側に押し込みます。

▶ ロック解除ボタン ① が右側および上面にくるようにします。

▶ 収納リールの左端部を左側取り付け部に固定します。

▶ 収納リール右端部 ② を右側取り付け部に合わせ、ロック解除ボタン ① を押します。

リール右端部 ② が右側にスライドして右側取り付け部に固定されます。

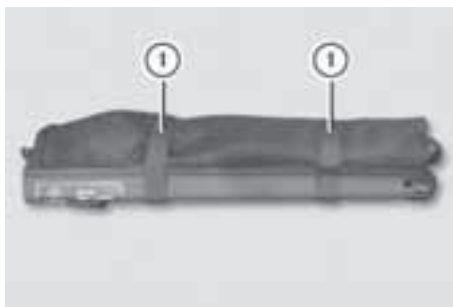
セーフティネット

⚠ 警 告

セーフティネットを使用するときは、以下の点に注意してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出され、乗員がけがをするおそれがあります。

- セーフティネットが確実に固定されていること
- セーフティネットに損傷がないこと

また、セーフティネットは重い荷物の移動を防ぐことはできません。荷物は確実に固定してください。

セーフティネットを展開する

① ストラップ

▶2 本のストラップ ① を外します。

② バー
③ ロック解除ボタン

▶ バー ② をロックするまで開きます。バーはセーフティネットの下部にもう 1 本あります。下部のバーもロックするまで開きます。

ⓘ セーフティネットを収納するときは、上下のバーにあるロック解除ボタン ③ を押しながらバーを折りたたみます。

セーフティネットの取り付け位置

セーフティネットはフロントシートの後方 ①、またはセカンドシートの後方 ② に取り付けることができます。

フロントシートの後方に取り付けるときは、セカンドシートを折りたたみ（▷246 ページ）、サードシート（▷90 ページ）を収納してください。

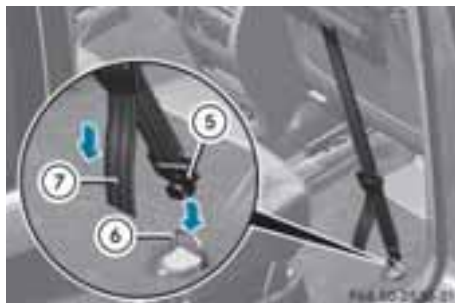
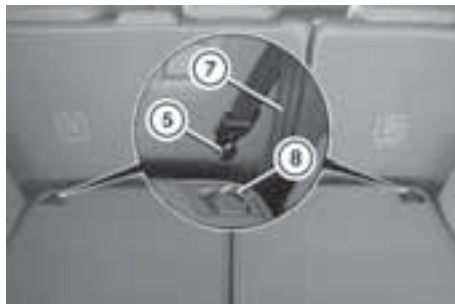
セカンドシートの後方に取り付けるときは、サードシートを収納してください。

セーフティネットの取り付け

▶ ラゲッジルームカバー収納リールを取り外します（▷251 ページ）

▶ セーフティネット下側のフック ⑤ が後方を向くようにセーフティネットの上部を持ちます。

▶ セーフティネットのロッド ④ の片側を取り付け部 ③ に差し込み、前方に押し込んで固定します。

▶ ロッドを押し縮めながら、もう片側の端を取り付け部 ③ に差し込み、前方に押し込んで固定します。

フロントシート後方に取り付けるとき

セカンドシート後方に取り付けるとき

▶ フック ⑤ を荷物固定用リングにかけます。

- フロントシート後方にセーフティネットを取り付けるときは、セカンドシート足元の荷物固定用リング ⑥ を使用します。
- セカンドシート後方にセーフティネット取り付けるときは、サードシートを収納して（▷90 ページ）、サードシートバックレスト背面上部の荷物固定用リング ⑧ を使用します。

▶ ベルト ⑦ の端部を下方に引きます。

▶ 少しの間走行した後に、ベルトがゆるんでいないことを確認してください。

ベルトがゆるんでいるときは、ベルトの端部を引き、ベルトを締めてください。

セーフティネットの取り外し

フロントシート後方に取り付けたとき

▶ アジャスター ⑨ を矢印の方向に引き上げます。

ベルト ⑦ がゆるみます。

▶ 荷物固定用リング ⑥ からフック ⑤ を外します。

▶ ロッド ④ を押し縮めながら、ロッドの端部を取り付け部から取り外します。

クロスバー

ルーフレール ① にクロスバーを取り付け、各種のアタッチメントを装着できます。

アタッチメントは Daimler AG の純正品および指定品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警 告**

- クロスバーに各種のアタッチメントを装着するときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。誤った取り付け方によってルーフラックが脱落すると、乗員や他の人々がけがをしたり、事故の原因になります。
- クロスバーを取り付けたときは、確実に固定されていることを確認してください。クロスバーが外れて脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないように注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

⚠ 警告

ルーフラックを取り付けているときは、スライディングルーフを閉じてください。乗員がけがをするおそれがあります。

! ルーフラックやスキーラックなどは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。推奨品以外の製品を取り付けると車を損傷するおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! スキーキャリアやバイシクルキャリアには、純正品でもクロスバーに対応していないタイプがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! クロスバーに荷物やアタッチメントを取り付けるときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフをチルトアップさせたときに接触しないこと
- テールゲートを開いたときに接触しないこと

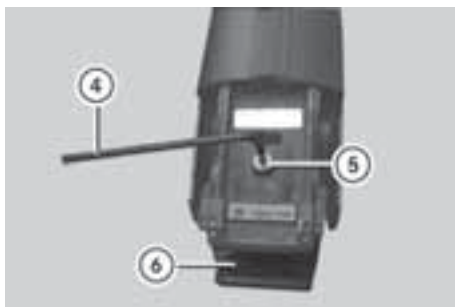
! クロスバーを取り付けたときは、車両の全高が約 50mm 高くなります。

ⓘ ルーフレールの最大積載量には、クロスバーやアタッチメントの重量も含まれます。

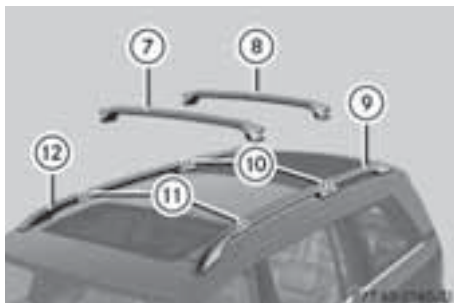
クロスバーを取り付ける

① カバー
② キーシリンダー
③ キー

▶ クロスバー両端にあるカバー ① のキーシリンダー ② に付属のキー ③ を差し込んで時計回りにまわし、ロックを解除します。

▶ カバー ① を取り外します。

④ 六角レンチ
⑤ ネジ
⑥ 取り付け部

▶ 付属の六角レンチ ④ でネジ ⑤ を反時計回りにまわし、取り付け部 ⑥ をゆるめます。

! 取り付け部 ⑥ をゆるめるときは、ネジ ⑤ を反時計回りにまわしすぎないように注意してください。取り付け部が脱落するおそれがあります。

⑦ フロント側のクロスバー
⑧ リア側のクロスバー
⑨ 左側ルーフレール
⑩ リア側の取り付け位置
⑪ フロント側の取り付け位置
⑫ 右側ルーフレール

2 本のクロスバーの長さは異なります。長いクロスバー ⑦ はフロント側に、短いクロスバー ⑧ はリア側に取り付けます。

フロント側のクロスバーの取り付け位置は、⑪の位置を参考にしてください。

リア側のクロスバーの取り付け位置は、⑩ の位置を参考にしてください。

▶ クロスバーの片側の取り付け部 ⑥（▷255 ページ）を、フロント、リアそれぞれの取り付け位置 ⑩⑪ に合わせます。

! ⑩⑪ は取り付け位置の目安です。クロスバーを取り付けたときは、確実に固定されていることを確認してください。

▶ 反対側の取り付け部を、フロント、リアそれぞれの取り付け位置 ⑩⑪ に合わせます。

▶ 六角レンチ ④（▷255 ページ）でネジ ⑤ を時計回りにまわし、取り付け部 ⑥ を締め付けます。

▶ カバー ①（▷255 ページ）を取り付け、キー ③ でロックします。

i ルーフレールに直接クロスバーを取り付けると、ルーフレールに傷が付くおそれがあります。必要に応じて、保護シートなどを使用してください。

クロスバーを取り外す

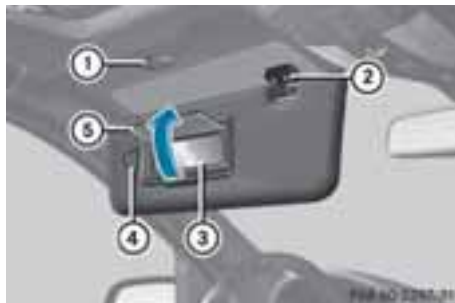
▶ クロスバーを取り外すときは、取り付けたときと逆の手順で行ないます。

室内装備

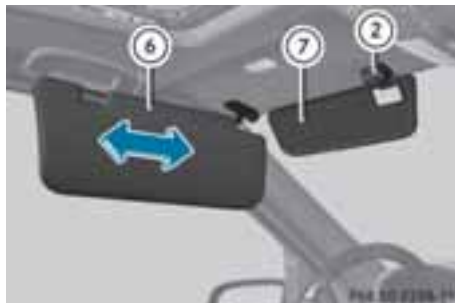
サンバイザー

⚠ 警告

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

前方からの眩しさを防ぐ

① 照明
② フック
③ バニティミラー
④ カードホルダー
⑤ バニティミラーカバー

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

② フック
⑥ サンバイザー
⑦ 補助サンバイザー

▶ サンバイザー ⑥ を下げます。

▶ サンバイザーをフック ② から外します。

▶ サンバイザー ⑥ を横にまわします。

このときは、軸方向にスライドさせることができます。

▶ 前方からの眩しさも防ぐときは、補助サンバイザー ⑦ を下げます。

使用後は、補助サンバイザーを元の位置に戻してから、サンバイザーを元の位置に戻します。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー ⑤ を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー ⑤ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

! 眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーを使用しないでください。

ℹ サンバイザーをフック ② から外すと、照明 ① は点灯しません。

灰皿

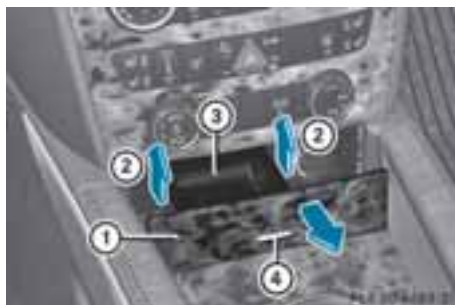
ℹ 灰皿を取り外したスペースを小物入れとして使用することができます。

! 灰皿下部のスペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に取り付けられていることを確認してください。灰皿下部のスペースを損傷するおそれがあります。

! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

フロントシートの灰皿

灰皿を開く

▶ カバー①のマーク④を軽く押します。

灰皿を閉じる

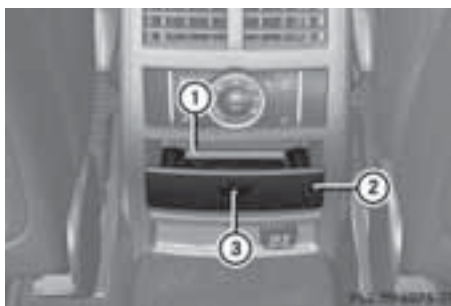
▶ カバー ① を前方に押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿 ③ を上方 ② に引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ③ をロックするまで押し込みます。

セカンドシートの灰皿

セカンドシートの灰皿は、リアセンターコンソールにあります。

灰皿を開く

▶ カバー②のボタン③を軽く押します。

灰皿を閉じる

▶ カバー ② を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿 ① を引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ① をロックするまで押し込みます。

ライター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ カバー ① のマーク ③ を軽く押します。

カバー ① が開きます。

▶ ライター ② を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ **警告**

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。ライターに触れて火傷をするおそれがあります。また、火災の原因になります。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電流 15A 以下の規格に合った電気製品を使用してください。

! 電動エアポンプ（▷354、357 ページ）のプラグをライターのソケットに差し込まないでください。

! ライターを使用するときは、以下の点に注意してください。ライターを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

- ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

12V 電源ソケット

リアセンターコンソールとラゲッジルームに 12V 電源ソケットを装備しています。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

ⓘ イグニッション位置が **0** か **1** のときや、エンジンスイッチからキーを抜いてあるときも使用することができますが、バッテリーの電圧が低下すると自動的に機能を停止します。

リアセンターコンソールの電源ソケット

ラゲッジルームの電源ソケット

12V 電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー ① を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはソケットカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

! 両方の電源ソケットに接続する電気製品の最大消費電流の合計が 20A を超えないようにしてください。

! 必ず DC12V の電気製品を使用してください。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

セカンドシートのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

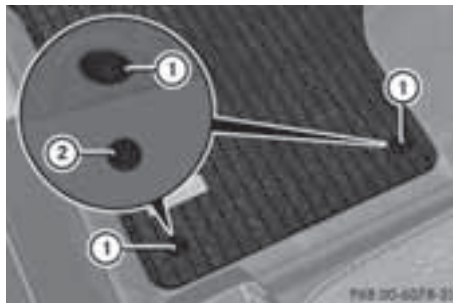
> ⚠ **警 告**
>
> SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。
>
> - アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
> - コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
> - コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

フロアマット

> ⚠ **警 告**
>
> - 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
> - フロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
> - 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
> - 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

フロアマットを取り付ける

▶ フロントシートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

慣らし運転

> ⚠ **警告**
>
> 新品のブレーキパッドやブレーキディスクは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは注意してください。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲でエンジン回転数と走行速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジン回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 警告

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警告

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② ホルダー
③ 使用燃料表示
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップは、リモコン操作またはキーレスゴー操作での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

給油口を開いて給油する

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチに取り付けているキーレスゴースイッチを押してイグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているときは、運転席側ドアを開き、イグニッション位置を **0** にします。

再び運転席側ドアを閉じても、イグニッション位置は **0** のままになります。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

燃料給油フラップ ① が少し開きます。

▶ 燃料給油フラップ ① を開きます。

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダー②に置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

燃料給油口を閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせます。

▶ カチカチッという音がして空回りするまで、キャップを時計回りにまわします。

▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷282 ページ）をご覧ください。

ℹ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。施錠後に燃料給油フラップを閉じようとしても、ロックピンにより、燃料給油フラップが閉じなくなります。

ℹ リモコン操作やキーレスゴー操作で燃料給油フラップが解錠されないときは、手動で解錠できます（▷338 ページ）。

ℹ 燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には燃料給油口の位置を示す ⛽ が表示されています。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- 軽油を燃料として使用しないでください。また、無鉛プレミアムガソリンと軽油を混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでも燃料系部品やエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料供給系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品の洗浄作業または交換を行なってください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。

- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付け（▷265 ページ）は確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは燃料給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 気化した燃料を吸い込まないように注意してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
車から燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷337 ページ）。 ▶ テールゲートを開いてください（▷82 ページ）。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷338 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップを手動で解錠してください（▷338 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンルーム

ボンネット

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ 警告

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **1** や **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

⚠ 警告

エンジンスイッチからキーを抜いているときやイグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

⚠ 警告

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認してください。ワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くかイグニッション位置を **0** にして、ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認します (▷122 ページ)。

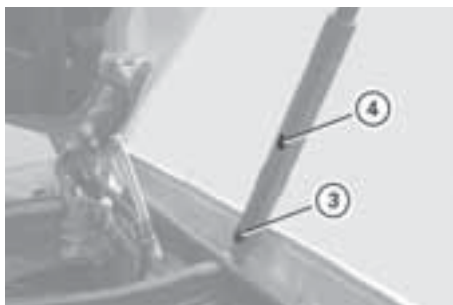
▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

ℹ 停車中やごく低速で走行中は、ワイパーが作動しているときにボンネットのロックを解除すると、ワイパーの作動が停止します。

② ロック解除ノブ

▶ ラジエターグリルの上方にあるロック解除ノブ ② を矢印の方向に引き上げながらボンネットを開きます。

ボンネットを約 40cm ほど持ち上げると、ガス封入式ダンパーによりボンネットは自動的に開き、保持されます。

ボンネットを垂直に開く

③ ロックボタン
④ 支柱上部に移動したロックボタンの位置

垂直位置まで開く

▶ 左側支柱下部にあるロックボタン ③ を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロックボタン ③ が支柱上部に移動し、ロックされます。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し後方に押しながら、支柱上部に移動したロックボタン ④ を押し、ボンネットを閉じます。

ℹ 垂直に開いたボンネットは、支柱上部に移動したロックボタン ④ を押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

再度、垂直に開き、ロックボタンを押しながら閉じてください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、ラジエターグリル上部から約 20cm ～ 30cm 上方の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

⚠ 警告

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

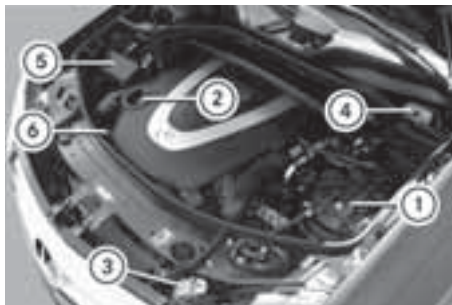
ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

i ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

エンジンルーム

⚠ 警告

- イグニッションシステムや燃料噴射システム、キセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

①	冷却水リザーブタンク	275
②	エンジンオイルフィラーキャップ	273
③	ウォッシャー液リザーブタンク	278
④	ブレーキ液リザーブタンク	277
⑤	ヒューズボックス	371
⑥	エンジンオイルレベルゲージ	273

環 境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

警 告

エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。また、ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所を選択して行なってください。

! 適切な工具を使用してください

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

エンジンオイル

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

エンジンオイルの量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）② と下限（min）③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷324 ページ）をご覧ください。

i エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、約 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわして、確実に取り付けます。

! エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

 警告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

環境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ 警告

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

不凍液をエンジンルーム内にこぼさないでください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

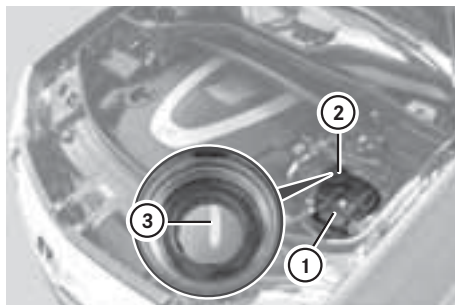
! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷323 ページ）をご覧ください。

冷却水の量を点検する

冷却水の量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときに行ないます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイのエンジン冷却水温度画面で冷却水の温度が冷えていることを確認します（▷156 ページ）。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク内のバー ③ の上面に達していれば適量です。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 水温が高いときは液面が約 15mm ほど高くなります。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

▶ エンジンを始動させ、約 5 分後にエンジンを停止します。

▶ 冷却水が十分に冷えたことを確認してから冷却水の量を再度点検し、必要であれば、再度冷却水を補給します。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷323 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されている。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ 警 告

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警 告

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷275 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ 警 告

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障/警告メッセージが表示されたり（▷321 ページ）、ブレーキ警告灯（▷332、333、335 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

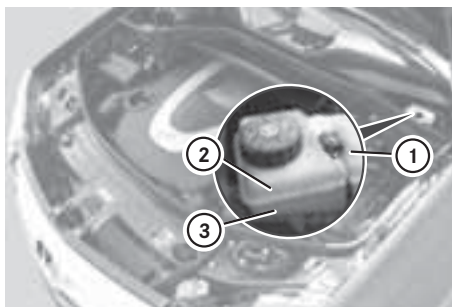
⚠ 警 告

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 警 告

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障/警告メッセージが表示されたときは（▷321 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク①のレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

❗ ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ℹ **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ 警告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

ℹ ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

ℹ ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ ① を開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ ① を取り付けます。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

❗ 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

❗ ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

❗ ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量の計測器を損傷するおそれがあります。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障／警告メッセージが表示されたときは（▷329 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警告

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すみやかに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷282 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 前後同サイズのタイヤ / ホイールが指定されている車種は、2 本だけ新品のタイヤを装着するときは、前輪に装着してください。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

! ブレーキシステムやホイールの改造、ホイールスペーサーやブレーキダストカバーの装着などは行なわないでください。安全性に支障をきたすおそれがあります。

! トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりの侵入や水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの保管について

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃について

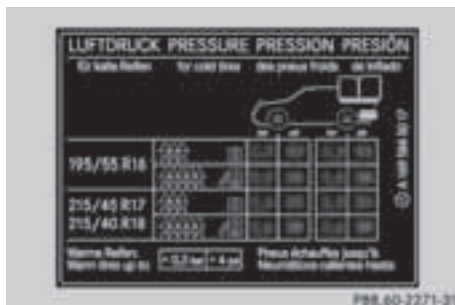
! 高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。損傷したタイヤは必ず交換してください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

ℹ 応急用スペアタイヤは、指定されている回転方向にかかわらず装着することができます。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷265 ページ）。

タイヤサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「kPa（100kPa=1bar）」と「psi」で示しています。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"16“" や "R16" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤサイズ表示の例

ホイール外径 ① はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

 環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

⚠ **警告**

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ **警告**

ホイールバルブには純正品または承認されたバルブキャップ以外のものを装着しないでください。特にバルブに装着するタイプの市販のタイヤ空気圧計測装置を装着すると、ホイールバルブに負担がかかり、ホイールバルブが脱落するおそれがあります。また、構造上バルブが常に開いた状態になり、空気漏れにつながるおそれがあります。

⚠ **警告**

タイヤ空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤ空気圧が低いときは、車の走行安全性に悪影響をおよぼし、事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。周囲の気温や走行速度、路面温度などの影響によりタイヤの温度が約10℃変化すると、タイヤ空気圧は約0.1bar 変化します。

不適切なタイヤ空気圧は、タイヤに以下のような影響を与えます。

- タイヤ寿命の低下
- 損傷を受ける可能性の増加
- 車両操縦性への悪影響（ハイドロプレーニング現象など）

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。約 3 時間駐車したままのとき、または 1.5km 以上走行していないときは、タイヤは冷えています。周囲の気温が約10℃変化すると、タイヤ空気圧は約10kPa（0.1bar / 1.5psi）変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

ⓘ 少ない荷物に対応した空気圧は、良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。荷物が少ないときも、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。この空気圧は許容されている値であり、走行性能に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- ルーフや車内に重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ **警 告**

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷282 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認します。

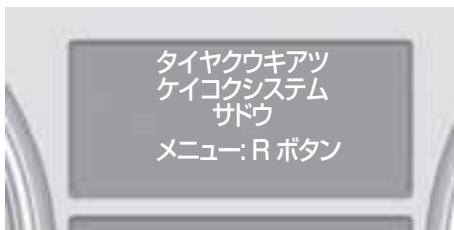
⚠ **警 告**

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

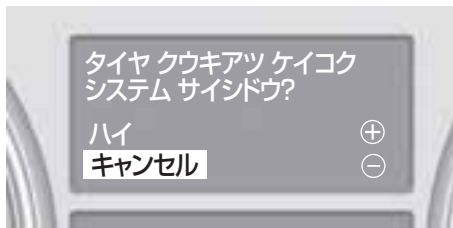
タイヤ空気圧警告システムを再起動する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、基本画面を表示させます（▷ 154 ページ）。

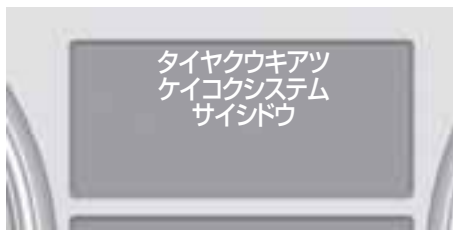
▶ [△] または [▽] を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"タイヤクウキアツ ケイコクシステム サドウ メニュー： R ボタン" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "タイヤクウキアツ ケイコクシステム イグニッション オン デ サドウ" と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ リセットボタン（▷150 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに "タイヤ クウキアツ ケイコク システム サイシドウ ?" と表示されます。

▶ [+] を押して、"ハイ" を反転表示にします。

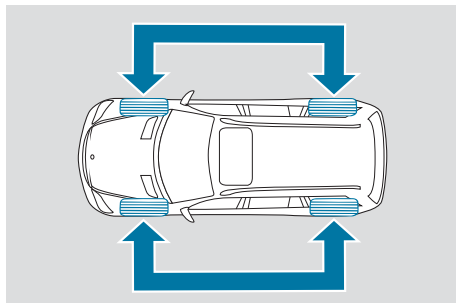
タイヤ空気圧警告システムを再起動しないときは [−] を押します。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "タイヤ クウキアツ ケイコクシステム サイシドウ ?" と表示されてから約 15 秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

マルチファンクションディスプレイに "タイヤクウキアツ ケイコクシステム サイシドウ" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

タイヤローテーション

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤローテーションを行なうときは、ホイールおよびハブの接合面を清掃してください。

ℹ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、テールゲート、ドアウインドウ、スライディングルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

> ⚠ **警 告**
>
> マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP®、4MATIC などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

⚠ **警 告**

- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、走行安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

ℹ ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。

前輪に装着すると、ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

! オプションまたは仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは（▷384 ページ）をご覧ください。

! スノーチェーンを装着したときは、ADS のサスペンションモードを SPORT モードにしないでください。

! スノーチェーンを装着したときは、車高レベルを上げてください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの着脱は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

! スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。

! 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

ⓘ スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ⓘ スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールを使用しないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ **警 告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ 警告

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ 警告

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

⚠ 警告

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警告

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

ℹ 長く急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを D3、D2、D1 にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。さらに減速が必要なときは、ブレーキペダルを踏み続けるのではなく、繰り返し踏んでください。

ℹ クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

ℹ 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

凍結防止剤について

凍結防止剤がまかれた道路を走行するときは、ブレーキディスクやブレーキパッドに塩類が付着してブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

このときは、後続車に注意しながらブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。さらに、先行車との車間距離を十分確保し、注意して走行してください。また、次回走行するときにも、ブレーキペダルを数回軽く踏み、残った塩類を落としてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは、警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後やイグニッション位置が **1** のときは、パーキングブレーキを効かせていると点灯したままになります。

エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **1** のときに、パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷321 ページ）をご覧ください。

タイヤグリップについて

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドライトを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、オフロード走行（▷295 ページ）もご覧ください。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深については（▷300 ページ）をご覧ください。
- 河川などを渡るときは（▷300 ページ）をご覧ください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやシートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。

- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、室内に水が浸入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドライトやリアフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドライトを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するため、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはリアフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オフロード走行

⚠ 警告

- 地形や路面の状況が把握できない悪路では低速で走行してください。障害物などを見つけやすくなり、事故の危険性を減らすことができます。
- 坂が急勾配で上り切れない場合は、U ターンせず、シフトポジションを R にして後退して下りてください。車が横転するおそれがあります。
- 斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングをまわし、姿勢を立て直してください。
- シフトポジションを N にしたままで走行しないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。

⚠ 警告

- オフロード走行後は、ブレーキシステムに砂や汚れなどが付着して過度の摩耗やブレーキの誤作動につながるおそれがあります。
- オフロード走行後は、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で、ブレーキの点検と洗浄を行なってください。緊急時に十分な制動力が得られなかったり、ブレーキが誤作動するおそれがあります。

車の特性や車両操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。

オフロードを走行する前に以下の注意をよくお読みください。

オフロードを走行するための特別装備には、以下のものがあります。

- ローレンジモード（▷183 ページ）
- オフロード ABS（▷56 ページ）
- オフロード 4ETS（▷59 ページ）
- オフロード 4ESP®（▷61 ページ）
- ディファレンシャルロック（▷186 ページ）
- DSR（ダウンヒル･スピード･レギュレーション）（▷180 ページ）

オフロードでの走行

⚠ 警 告

車の損傷は事故の原因になります。損傷しているおそれがあるときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

環 境

環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

オフロード走行時の注意

- 停車して、必要に応じてローレンジ（▷183 ページ）にしてください。
- レベルコントロール（▷198 ページ）で地形に適した車高を選択して十分な最低地上高を確保し、車の損傷を防いでください。
- 荷物が確実に収納されていること、または確実に固定されていることを確認してください。
- 下り坂を走行するときは、エンジンを停止したり、シフトポジションを N にしないでください。また、DSR を作動させてください（▷180 ページ）。
- 速度を上げないでください。必要に応じて、人が歩くくらいの速度で走行してください。
- 常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 視界が悪く地形や路面の状況が把握できないときは、走行する前に車から降りて、危険がないことを確認してください。
- やむを得ず河川などを渡るときは、走行前に水深や水の流れ、川底の状況を確認してください。
- 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
- ウインドウとスライディングルーフは常に閉じておいてください。
- できるだけわだちから外れないように走行してください。

オフロードを走行する前に

- エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が少ないときは必ず補給してください（▷273ページ）。
- ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにけん引用ケーブルや折りたたみ式スコップなどを車に積んでおいてください。
- タイヤの溝の深さと空気圧を点検してください。
- タイヤやホイールに損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。
- バルブキャップが装着されていない場合は、装着してください。
- ホイールが歪んでいたり、損傷している場合は交換してください。

オフロードを走行した後に

オフロード走行後は車を点検してください。車の損傷は事故の原因になります。

▶ ローレンジからノーマルレンジにしてください。

▶ DSR を解除してください。

▶ ディファレンシャルロックを AUTO モードにしてください。

▶ レベルコントロールで、路面に適した車高にしてください。

▶ ヘッドライトやテールランプなどを洗浄し、損傷がないか点検してください。

▶ 前後のナンバープレートを清掃してください。

▶ ホイールとタイヤをスプレーガンなどで清掃し、異物を取り除いてください。

▶ ホイールやホイールハウス、ボディ底部をスプレーガンなどで洗浄し、各部の損傷や異物の有無などを確認してください。

▶ 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系部品、ブレーキホース、アクスルジョイントやドライブシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。

▶ 走行後に、車の底部、ホイール、タイヤ、ブレーキ、ボディ、ステアリング、駆動系部品、排気系部品などに損傷がないか点検してください。

▶ 砂地、ぬかるみ、砂利道、水の中のような汚れた状況で長時間走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、清掃してください。

▶ オフロード走行後、走行中に強い振動を感じる場合は、ホイールや駆動部などに異物がかみ込んでいないか点検し、必要であれば取り除いてください。ホイールバランスが狂い、振動の原因になります。

坂道の走行

アプローチ / デパーチャーアングル

選択している車高レベルにより、アプローチ / デパーチャーアングルは異なります。

車高レベルについては（▷198 ページ）をご覧ください。

車高レベル	アプローチアングル（フロント）	デパーチャーアングル（リア）
オフロードレベル 3	約 32°	約 27°
オフロードレベル 2	約 31°	約 26°
オフロードレベル 1	約 28°	約 23°
通常走行レベル	約 26°	約 21°

- 坂道はできるだけまっすぐに上り、まっすぐに下りてください。
- 急勾配の坂を上り下りするときは、走行前にローレンジにしてください。
- オフロードでの走行（▷296 ページ）もご覧ください。
- 低速で走行してください。
- アクセルペダルはゆっくり踏み込み、常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 砂地や泥濘地などの走行抵抗の大きい路面以外は、エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- 坂の勾配に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（▷144 ページ）。
- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ D1 を選択してください。

ⓘ 急な坂道で停車したときは、以下の操作により車の後退を防ぐことができます。

- シフトポジションを D にしてください。
- ノーマルレンジからローレンジにしてください。
- ブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルを踏み込みます。

  ヒルスタートアシスト（▷135 ページ）が作動して、発進を補助します。

急勾配の坂道

路面状態が良く、ローレンジを選択したときは、急勾配の坂道を上ることが可能になります。

ⓘ 急勾配の坂で前輪の荷重が不足したときは、前輪は空転しやすくなります。このような状況を検知すると 4ETS が作動し、自動的にブレーキ制御を行ないます。これにより後輪へのトルク配分が増えて登坂能力が増します。詳しくは（▷59 ページ）をご覧ください。

坂を上り切ったとき

坂を上り切る直前にアクセルペダルをゆるめ、車の惰性を利用して上ってください。

これにより、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。また、速度が上がりすぎないようにして下り坂に備えることもできます。

坂を下るとき

- 低速で走行してください。
- 坂道はできるだけまっすぐに下りてください。前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認してください。車がスリップしたり、横転するおそれがあります。
- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ D を選択してください。
- DSR を作動させてください。DSR による制動力が不十分なときは、前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認して、慎重にブレーキペダルを踏んでください。
- 長い下り坂を走行した後は、ブレーキが正常に作動することを必ず確認してください。

ⓘ ローレンジにしたときは、自動的にオフロード ABS になります(▷56 ページ)。走行速度が約 30km/h 以下のときは、ブレーキを効かせると前輪が周期的にロックし、地面を掘る効果により、オフロードでの制動距離を短くすることができます。前輪がロックしているときは、車両操縦性が著しく低下します。

障害物を乗り越えるとき

木の切り株や大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下の注意に従ってください。

- ローレンジにしてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- ティップシフトでギアレンジ D1 を選択してください。
- ごく低速で走行してください。
- できるだけ障害物に対して直角になるようにして、まず前輪で障害物の中央を乗り越え、次に後輪で乗り越えてください。

! 障害物により、車の底部や車体、駆動部を損傷するおそれがあります。大きな障害物を乗り越えるときは、同乗者に車外から誘導してもらってください。車を損傷すると、事故を起こす危険性が増します。

河川などを渡るとき

最大許容水深値

選択している車高レベルにより、最大許容水深値①は異なります。

車高レベルについては （▷198 ページ）をご覧ください。

車高レベル	最大許容水深値
オフロードレベル 3	約 60cm
オフロードレベル 2	約 50cm
オフロードレベル 1	約 50cm

! 最大許容水深値を超えるところは絶対に走行しないでください。水流のあるところでは、最大許容水深値は低くなることがあります。

- 走行前に水深と水流の状況を確認してください。
- レベルコントロールで、車高を一番上げた状態にしてください。
- ローレンジにしてください。
- ティップシフトでギアレンジ D1 または D2 を選択してください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- 水に入るときと出るときは水平な場所を選択し、人が歩くくらいの速度で走行してください。

! 決して速度を上げながら水に入らないでください。波が立ち、エンジンや車体を損傷するおそれがあります。

- ゆっくりと一定の速度を保って走行してください。
- 河川を渡っている途中で停車しないでください。

! 河川を渡っている途中でドアを開かないでください。浸水すると、電気装備や内装を損傷するおそれがあります。

- 河川を渡っている途中で停車したり、エンジンを停止しないでください。水の中は抵抗が大きく、川底も滑りやすく不安定なため、発進が困難になります。
- 波が立たないように走行してください。
- 河川を渡った後は、タイヤの溝を洗浄し、付着した泥などを取り除いてください。
- 河川を渡った後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。

砂地を走行するとき

- レベルコントロールで、車高を上げてください。
- 状況に合わせてティップシフトでギアレンジを選択してください。
- 走行抵抗が大きいため、やや速度を上げて走行してください。車が砂地に埋まるおそれがあります。
- 可能であれば、他の車が残した浅いわだちをなぞって走行してください。このときは、わだちの深さと固さ、車の底部との間隔に注意してください。

わだちを走行するとき

わだちや柔らかい路面を走行するときは、以下の注意に従ってください。

! わだちが深くなく、車の底部との間に十分な間隔があることを確認してください。車を損傷したり、タイヤが地面から離れて走行不能になるおそれがあります。

- ローレンジにしてください。
- レベルコントロールで、車高を上げてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- ティップシフトでギアレンジ D1 を選択してください。
- 低速で走行してください。
- わだちが深い場合は、左右どちらかの車輪をわだちの間に乗せて走行してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指定による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーターが自動的に表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーターが自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーターは、数秒後に元の表示に戻ります。

メンテナンスインジケーターを消す

▶ リセットボタン（▷150 ページ）を押します。

手動表示

メンテナンスインジケーターは、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングの [ボタン] または [ボタン] を押して、基本画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、メンテナンスインジケーターを表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。"#" には "A" から "H" までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｼﾞｯｺｳ ｼﾏｽ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

また、警告音が鳴ります。

※画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

" メンテナンス A" " メンテナンス B" など、" メンテナンス " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

" メンテナンス A ＋ " " メンテナンス B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警 告**

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

自動洗車機の使用

⚠ **警 告**

自動洗車機で洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあり、事故につながるおそれがあります。ブレーキが乾くまで注意して運転してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。ドアやスライディングルーフなどから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。また、洗車前にドアミラーを格納してください。車体やドアミラーを損傷するおそれがあります。

- 自走式の自動洗車機を使用するときは、シフトポジションが N になっていることを確認してください。車を損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウやスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください（▷126、239 ページ）。
- 余熱ヒーター・ベンチレーションが停止していることを確認してください。
- ワイパーを停止してください（▷121、123 ページ）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ 警告

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷して、事故の原因になります。

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルを以下の部分に近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が浸入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

  ◇タイヤ

  ◇ウインドウガラス接合面

  ◇ボディパネルの継ぎ目

  ◇電気装備

  ◇バッテリー

  ◇コネクター類

  ◇ライト

  ◇シール部

  ◇外気取り入れ口

  ◇サスペンション

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

クリアマット仕上げの軽合金ホイールを取り扱う際も、以下の点に注意してください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なって

ウインドウの清掃

⚠ 警 告

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし､腐食の原因になります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警 告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

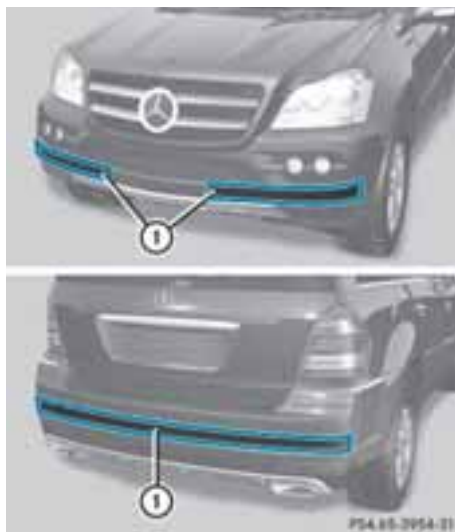
▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

ヘッドライトを含むライト類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドライトウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

センサーの清掃

パークトロニックセンサー①を清掃するときは、流水または水とかシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! センサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! センサーを清掃するときは、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

▶ きれいな水でカメラ①の汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。

- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警 告

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ COMAND システムの電源をオフにします。

ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

▶ 水で薄めた中性洗剤を含ませた不織布で拭き取ります。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シートの清掃

! 天然皮革や人工皮革、アルカンタラ ® を使用した部分には、不織布を使用しないでください。頻繁に使用すると、これらの部分を損傷するおそれがあります。

! レザーシートは、軽く湿らせた布で表面を拭き、次に乾いた布で拭き取ります。革が濡れないように注意してください。

ⓘ シートを定期的に手入れすることにより、見栄えや快適性を維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **警告**

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを N にして、同乗者や付近の人に救援を求め、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを N にできないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに備えています。

i 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

i 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

停止表示板はラゲッジフロアボードの下に収納されています。

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷314 ページ）。

ℹ 仕様により、停止表示板は下図以外の場所に収納されている場合があります。

▶ ストラップを外して、停止表示板ケース ① を取り出します。

停止表示板の組み立て

▶ 停止表示板ケースから停止表示板を取り出します。

▶ 左右のスタンド③を引き出します。

▶ スタンド③を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板 ② を引き出し、頂点のフック ① をかみ合わせてロックします。

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

救急セット

救急セットはラゲッジルーム左側の小物入れに収納されています。

救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

救急セットを取り出す

▶ テールゲートを開きます。

▶ クリップ ① を矢印の方向に約 90 度まわし、カバー ② を開いて取り外します。

▶ 救急セット③を取り出します。

救急セットを収納する

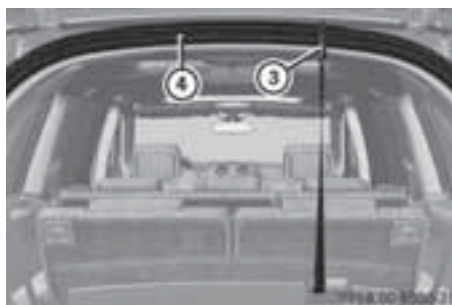
▶ 救急セットを元の位置に収納してから、カバー ② を取り付け、クリップ ① をまわしてカバーを固定します。

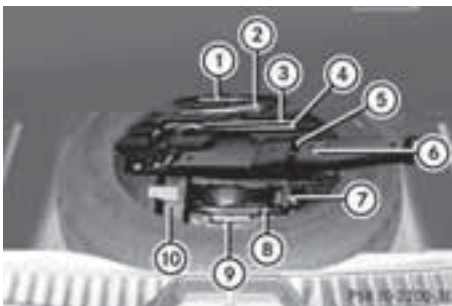
車載工具

車載工具はラゲッジフロアボードの下に収納されています。

ラゲッジフロアボードを開く

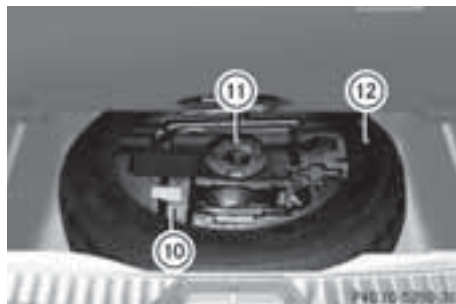
▶ ハンドル ② の矢印の部分を押してハンドルを起こし、ラゲッジフロアボード ① を引き上げます。

▶ ラゲッジフロアボード ② の裏側にあるフック ③ をラゲッジフロアボードから取り外します。

▶ フック ③ をテールゲート開口部上端 ④ にかけます。

! フック ③ をテールゲート開口部上端 ④ にかけたまま、テールゲートを閉じないでください。フックやテールゲートを損傷するおそれがあります。

① ガイドボルト
② けん引フック
③ ホイールレンチ
④ ジャッキハンドル
⑤ ストラップ
⑥ ジャッキ
⑦ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
⑧ 輪止め
⑨ ヒューズ配置表（英文）
⑩ トレイ

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤ用ホイールに添付されていたり、トレイまたは応急用スペアタイヤの下に収納されていることがあります。

応急用スペアタイヤを取り出す

応急用スペアタイヤはラゲッジルーム内のラゲッジフロアボードの下に収納されています。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷314 ページ）。

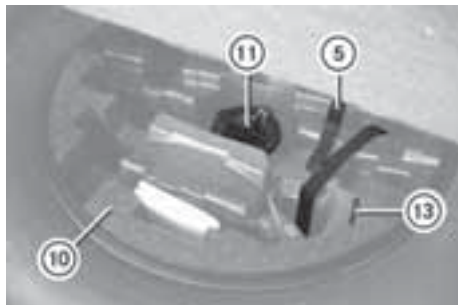
▶ ストラップを外して、停止表示板ケース（▷313 ページ）とジャッキを取り出します。

▶ スクリュー ⑪ を反時計回りにまわして取り外します。

▶ トレイ ⑩ を取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤ ⑫ を取り出します。

※ 車種や仕様により、車載工具の配置や内容が異なる場合があります。

車載工具などを収納する

スクリューを取り付けた状態
⑤ ストラップ
⑩ トレイ
⑪ スクリュー
⑬ トレイの収納方向表示

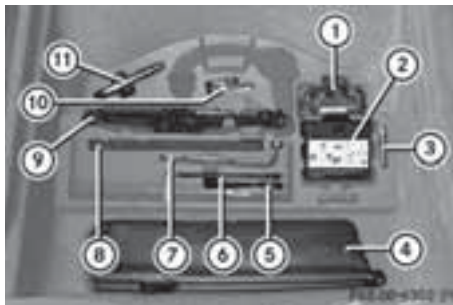
▶ 停止表示板ケースおよびジャッキを除く車載工具類をトレイ ⑩ に収納します。

▶ スクリュー ⑪ を取り付け、時計回りにまわして、トレイを固定します。

▶ 停止表示板ケースとジャッキをトレイに収納して、ストラップ ⑤ で固定します。

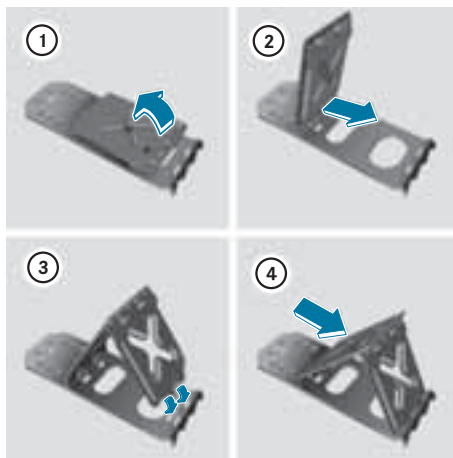
ⓘ トレイを収納するときは、収納方向表示 ⑬ の矢印が前方を向くようにしてください。ジャッキがトレイに収納できず、ラゲッジフロアボードが完全に閉じなくなります。

ⓘ トレイを収納するときは、ストラップ ⑤ がトレイの下に挟まれないようにしてください。停止表示板ケースやジャッキが固定できなくなります。

タイヤフィットが車載されている車種

① タイヤフィット
② 電動エアポンプ
③ ガイドボルト
④ セーフティネット
⑤ 輪止め
⑥ ジャッキハンドル
⑦ ホイールレンチ
⑧ 停止表示板
⑨ ジャッキ
⑩ ヒューズ配置表（英文）
⑪ けん引フック

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。
※ 仕様により、車載工具の配置や内容が異なる場合があります。

輪止め

ジャッキを使用するときなどには、輪止めを使用し、車が動き出さないようにしてください。

! 輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ 警 告

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの または スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させます。

故障や異常がある場合は、" コショウカ゛ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ または を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの や スイッチ、または リセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

安全装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状／▶ 対応
 ｼｮｳﾃﾞｷﾏｾﾝ！ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの　と　、　も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの　と　、　も点灯している。 電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの　と　、　および　も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 ｼｮｳﾃﾞｷﾏｾﾝ！ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、PRE-SAFE®、BAS、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの [icon] と [icon] も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、PRE-SAFE®、BAS、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 メーターパネルの [icon] と [icon] も点灯している。 電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	走行中にメッセージが表示され、メーターパネルの [icon] が点滅しているときは、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ メッセージが消え、メーターパネルの [icon] が消灯するまで、ブレーキを冷やしてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ETS は自動的に待機状態になります。
 ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、PRE-SAFE®、BAS、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 さらに、メーターパネルの [icon] と [icon] も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
コショウ マニュアル ヲ サンショウ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプも作動しない。 さらに、メーターパネルの [ESP] と [ESP OFF]、[ABS] も点灯し、警告音が鳴った。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
パ゜ーキング゛ブ゛レーキ カイジ゛ョ シテクダ゛サイ!	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 警告音も鳴った。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
ブ゛レーキ オイル レベ゛ル テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 さらに、メーターパネルの [(!)] が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
[ブレーキパッド表示] ブ゛レーキ パ゜ッド゛ マモウ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プ゜レセーフ コショウ マニュアル ヲ サンショウ	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS システム コウジ゛ョウデ゛ テンケン	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護補助装置が故障している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヒダ゛リ ロ-ビ゛-ム 1)	左ヘッドライト（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
オ-トライト コショウ	ライトセンサーに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ランフ゜ ヲ ケシテ クダ゛サイ！	ライトスイッチが [スモールライト] の位置にしたまま、キーを抜いて運転席ドアを開くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開いた。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを [0] の位置にしてください。

1）他のライトが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ライトのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ℹ LED ライトについては、すべての LED が切れたときにメッセージが表示されます。

エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 レイキャクスイ ホジ゛ュウ マニュアル ヲ サンショウ	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 レイキャクスイ テイシャ シテ 、 エンジ゛ン ヲ テイシ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ エンジン冷却水温度計(▷156ページ)で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	V ベルトが切れている可能性がある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートのおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを始動してください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度計（▷156 ページ）で冷却水温度を点検してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転することができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	以下の理由により、バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 • オルタネーターの故障 • V ベルトの摩耗 • 電気システムの故障 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ﾃｲｼｬ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ !	バッテリーに異常がある。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が最低限の量まで低下している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ 1 ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ !	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
 ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
レベ゛ルチョウセイ ショウフカ	以下のときには車高の調整ができない。 • 設定しようとしている車高レベルに対して、走行速度が高すぎる。 • けん引車両がある • けん引装置を使用している ▶ 速度を落としてから、車高を調整してください。
コンプ゜レッサ レイキャク オマチクダ゛サイ	車高レベルを頻繁に変更したため、車高を上げようとしたときにエアポンプを冷却する必要が生じた。 ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ エアポンプが冷却されるまで待ってください。 エアポンプが冷却されるとメッセージが消え、選択した車高レベルに設定されます。
コショウ	車高調整装置が故障している。 ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。ただし約 80km/h を超えないようにしてください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ソクド゛ 20 km/h イカニ ゲ゛ンソク	⚠ **事故のおそれがあります** 選択したオフロードレベルの許容最高速度を超えた速度で走行している。 ▶ 変化したハンドリング特性に合わせて走行してください。 ▶ 急激および大きなステアリング操作をしないでください。 ▶ 操縦性の違いに注意して走行してください。 ▶ 車高がオフロードレベル 2 に設定されるまで約 20km/h 以下の速度で走行してください。
ジ゛ョウショウチュウ max.20 km/h	車高がオフロードレベル 3 に設定されようとしている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 約 20km/h 以下の速度で走行してください。
max.20 km/h	車高がオフロードレベル 3 に設定されている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 約 20km/h 以下の速度で走行してください。
カコウチュウ max.20 km/h	車高がオフロードレベル 3 からオフロードレベル 2 に設定されようとしている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 車高がオフロードレベル 2 に設定されるまで約 20km/h 以下の速度で走行してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 デ゛フロックシステム コショウ コウジ゛ョウデ゛ テンケン	ディファレンシャルロックシステムが故障している。 ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 デ゛フロックシステム カネツ スコシ オマチクダ゛サイ	ディファレンシャルロックシステムが過熱しているため、ディファレンシャルロックが解除されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ディファレンシャルロックシステムが冷却されるまで待ってください。 ディファレンシャルロックシステムが冷却されるとメッセージが消え、ディファレンシャルがロックされます。
 テイシャ パ゜ーキング゛ ブ゛レーキ ソウサ	ローレンジ / ノーマルレンジの切り替えが完了していない。 トランスファーがニュートラルになっていて、エンジンと駆動輪がつながっていない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。状況を問わず走行を続けないでください。 ▶ 再度ローレンジ / ノーマルレンジの切り替え操作を行なってください。
 コウジ゛ョウデ゛ テンケン テイシャジ゛ P ブ゛レーキ ソウサ	トランスファーが故障している。 ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ 駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 max.40 km/h デ゛ ソウコウ	走行速度が約 40km/h を超えているため、ノーマルレンジからローレンジへの切り替え操作ができない。 ▶ 約 40km/h 以下の速度で走行してください。 トランスファーの切り替え操作が可能になります。
 max.70 km/h デ゛ ソウコウ	走行速度が約 70km/h を超えているため、ローレンジからノーマルレンジへの切り替え操作ができない。 ▶ 約 70km/h 以下の速度で走行してください。 トランスファーの切り替え操作が可能になります。
 タンジ゛カン N ニ シフトシテクダ゛サイ	トランスファーの切り替え操作をするために速度を落としたが、シフトポジションが N になっていない。 ▶ 短時間シフトポジションを N にしてください。
 シフト ド゛ウサ キャンセル サイキド゛ウ シテクダ゛サイ	ローレンジ / ノーマルレンジの切り替えが中断された。 ▶ 再度切り替え操作を行なってください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｺｼｮｳ	故障のため、DSR の機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で DSR の点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ ｺｼｮｳ	クルーズコントロールまたは可変スピードリミッターが故障している。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ －－－km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▷189 ページ）。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、周囲の交通状況に注意してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であれば該当するタイヤを交換してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷284 ページ）。
ﾀｲﾔｦ ﾃﾝｹﾝ ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤを適正な空気圧に調整してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
P ﾏﾀﾊ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃ ｽﾀｰﾄ !	シフトポジションが D または R のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ シフトポジションを P または N にしてください。
ﾎｼﾞｮ ﾊﾞｯﾃﾘｰ ｺｼｮｳ	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ	ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションを D、R、N にしようとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ	シフトポジションが R、N、D のいずれかのときに運転席ドアを開いた。 警告音も鳴った。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。
ｷﾞﾔﾁｪﾝｼﾞ ｾｽﾞﾆ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	故障のため、シフトポジションを変更することができない。 シフトポジションが D のとき： ▶ シフトポジションを変更しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 シフトポジションが R、N、P のいずれかのとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
P ﾚﾝｼﾞ ﾊ ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ	車が完全に停車していない状態でシフトポジションを P にしようとした。 ▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。
	テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを閉じてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の道路と交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを確実に閉じてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 パ゜ワステ コショウ コウジ゛ョウテ゛ テンケン	⚠ **事故のおそれがあります** ステアリングのパワーアシストが低下している。 ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 ウォッシャエキ ホジ゛ュウ	リザーブタンクのウォッシャー液量が約 1/3 まで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷278 ページ）。

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｷｰ ｶﾞ ﾁｶﾞｲﾏｽ	エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｷｰﾉ ﾊﾞｯﾃﾘ ｦ ｺｳｶﾝ	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。
 ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ （赤色のメッセージ）	エンジンがかかっているときにこのメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
	エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ （白色のメッセージ）	システムがキーを認識できない。 ▶ キーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ 再度、キーの位置を変えてください。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲ ﾆ ｱﾘﾏｽ！	施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車から遠ざけてください。
 ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝ ｦ ﾊｽﾞｼ ｷｰｦ ｻｼｺﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ	キーが認識されない状態が続いている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

<table>
<tr><th>トラブル</th><th>考えられる原因および症状 / ▶ 対応</th></tr>
<tr><td rowspan="2">[シートベルト警告灯]
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。</td><td>⚠ けがのおそれがあります
運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。
▶ シートベルトを着用してください。
シートベルト警告灯が消灯します。</td></tr>
<tr><td>⚠ けがのおそれがあります
助手席シートの上に荷物を置いている。
▶ 助手席シートに置いてある荷物を､別の場所に確実に固定してください。
シートベルト警告灯が消灯します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">[シートベルト警告灯]
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴る。</td><td>⚠ けがのおそれがあります
運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。
▶ シートベルトを着用してください。
シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</td></tr>
<tr><td>⚠ けがのおそれがあります
助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。
▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。
シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</td></tr>
</table>

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 絶対にブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS のコントロールユニットに異常があるときは、ナビゲーションシステムやオートマチックトランスミッションなど、他のシステムにも異常がある可能性がある。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ 事故のおそれがあります ABS の機能が一時的に作動しない。BAS、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 システムの自己診断が終了していない。 または、 バッテリーの電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ メッセージが消えるまで、約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ 事故のおそれがあります EBD に異常がある。そのため、ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) (ESP) (ESP OFF) (ABS) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ 事故のおそれがあります ABS と ESP® に異常がある。そのため、ABS、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも故障のため作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールの機能は解除されている。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	少なくとも 1 つ以上の車輪が空転しているが、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ブレーキが冷えれば、ETS は自動的に待機状態になります。 メッセージが消え、が消灯します。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて走行してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス･ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 ESP® の機能が一時的に作動しない。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができない。 システムの自己診断が終了していない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 ▶ 約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、短い距離を注意して走行してください。 表示灯が消灯すれば、上記の機能は作動できる状態になります。 表示灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイに表示される追加のメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(!) 走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。 警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯は消灯し、警告音も鳴り止みます。
SRS エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠できます。

リモコン操作やキーレスゴー操作で車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、キーレスゴースイッチを押す
- キーが左右側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れるかドアハンドルのキーレスゴースイッチを押す、またはテールゲートのハンドルを引く
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、テールゲートのハンドルを引く

燃料給油フラップを解錠する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

キーからエマージェンシーキーを取り外す

▶ ストッパー①を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー②をキーから引き抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを反時計回りにまわして、解錠の位置 1 にします。

▶ ドアハンドルをいっぱいまで引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ 再度ドアハンドルを引きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

! エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

▶ 助手席ドアと助手席側リアドア、テールゲートを閉じます。

▶ 運転席ドアと運転席側リアドアを開きます。

▶ 運転席ドアのドアロックスイッチ（施錠）（▷79 ページ）を押します。

▶ 助手席ドアと左右リアドアのロックノブが下がったことを確認します。

▶ 下がっていないときは、各ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車を降り、運転席ドアを閉じます。

▶ 開いている運転席側リアドアから腕を伸ばして、運転席ドアのロックノブを押し込みます。

i キーが車内になく、携帯していることを確認してください。

▶ 運転席側リアドアを閉じます。

▶ すべてのドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

! ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、車を施錠することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーの閉じ込みに注意してください。

燃料給油フラップの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作で解錠しても燃料給油フラップのロックが解除されないときは、手動でロックを解除します。

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム右側のカバー ② にあるクリップ ① をコインなどで矢印の方向にまわし、カバー ② を取り外します。

▶ 内部にあるストラップ ③ をホルダーから外して引きます。

ロックが解除されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます (▷265 ページ)。

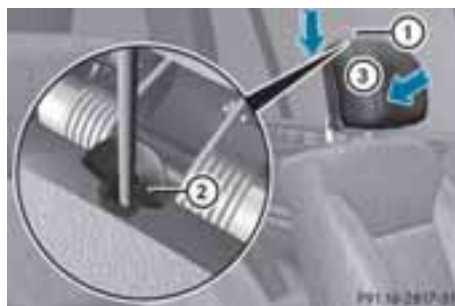
ℹ ストラップ ③ がホルダーに固定されているときは、ドライバーなどを差し込んで取り外してから引いてください。

⚠ **警告**

ラゲッジルーム右側のカバーの内部には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ガイド ② に合わせて、車載のリセットツール ① を差し込みます。

▶ ロックする音が聞こえるまで、リセットツールを押し込みます。

▶ リセットツールを抜き、ヘッドレストを ③ の方向に強く押し戻して確実にロックさせます。

▶ もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

❗ 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警 告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

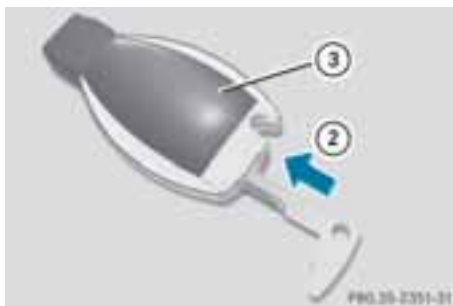
▶ キーのいずれかのボタンを押します。

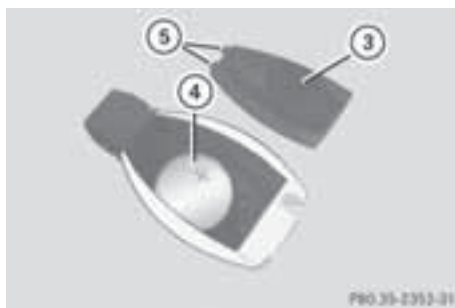
キーの表示灯 ① が一回点滅すれば電池は正常です。

ℹ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手のひらの上に乗せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

▶ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認します。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

ライト類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのライト類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてライトが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したライトが点灯しない場合や、すぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにライトに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷322 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

⚠ **警告**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

⚠ **警告**

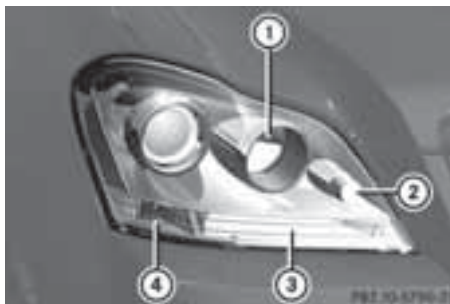
エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドライトの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! LED やキセノンヘッドライトはユニット交換になるため、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換作業を行なってください。

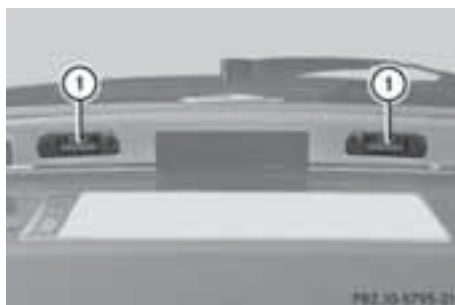
ℹ リアフォグランプは右側のみです。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヘッドライト

ライト		ワット数（規格）
①	ヘッドライト上向き	55W（H7）
②	車幅灯 / フロントパーキングライト	5W
③	フロント方向指示灯	21W（黄色）
④	フロント方向指示灯	5W（黄色）

テールランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	リアフォグランプ	21W
②	バックランプ	21W

ライセンスライト

ライト		ワット数（規格）
①	ライセンスライト	5W

! 電球の交換を行なうときは、実際に車両に装着されている電球の規格を確認してください。

ワイパーブレードの交換

フロントワイパーのワイパーブレード

⚠ 警告

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回は交換してください。

⚠ 警告

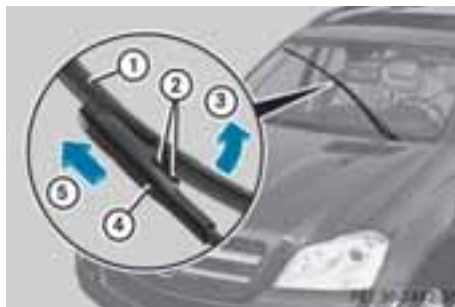
ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にします。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ クリップ ② を両側から押し込んでロックを外し、ワイパーブレード ① を ③ の方向にまわします。

▶ ワイパーブレード ① を ⑤ の方向に押してワイパーアーム ④ から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード ① の取り付け部 ⑥ をワイパーアーム ④ の先端 ⑤ に合せます。

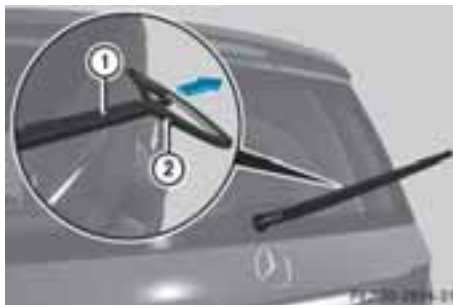
▶ クリップ ② がロックされるまで、ワイパーブレード ① を矢印 ③ の方向に押し込みます。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

リアワイパーのワイパーブレード

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ ワイパーアーム ① をいっぱいまで起こします。

▶ ワイパーブレード ② をまわして、ワイパーアーム ① と垂直の位置にします。

▶ ワイパーブレード ② を矢印の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、ワイパーアームに押し込んでロックします。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ 警告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

! 車速感応ドアロック（▷80 ページ）を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

タイヤの修理およびタイヤ交換の準備

▶ 車高が通常走行レベルになっていることを確認します（▷198 ページ）。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチでエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ 車から降ります。

▶ ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ℹ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤへの交換

⚠ **警告**

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。

  また、ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

タイヤ交換の準備

▶ 輪止め、ホイールレンチ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ガイドボルト、応急用スペアタイヤ、応急用スペアタイヤ用ホイールボルトを準備します（▷314 ～ 317 ページ）。

! トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ⓘ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

ジャッキアップする

⚠ **警告**

急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

- かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。
- この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
- 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキを取り付ける前に、ジャッキサポートに付着した泥などを取り除いてください。

⚠ **警 告**

- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

ℹ 伸縮式のホイールレンチが装備されているときは、ホイールレンチの柄を引いて伸ばしてください。

❗ ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

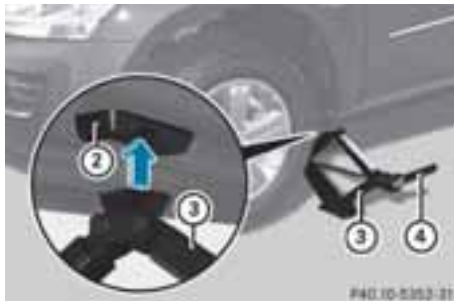
- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

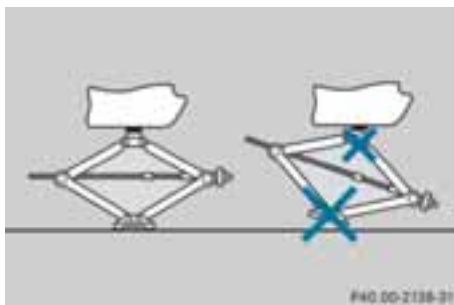
ジャッキサポートは、前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所（矢印の位置）に設けられています。

⚠ **警 告**

ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

! ジャッキサポート部に亀裂や損傷があるときは、作業を行なわないでください。

▶ ジャッキハンドル ④ を、"AUF UP" の文字が手前にくるようにして、ジャッキ ③ のダイヤル部に取り付けます。

▶ ジャッキ ③ の先端を、交換するタイヤに近いジャッキサポート ② に合わせます。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキの底面が、ジャッキサポート ② の真下にあることを確認してください。

▶ ジャッキハンドル ④ を繰り返し操作して、ジャッキ ③ の先端をジャッキサポート ② に合わせ、ジャッキの底面を確実に地面に接地させます。

▶ タイヤが地面から最大 3cm 離れるまで、ジャッキハンドル ④ を繰り返し操作します。

⚠ **警 告**

ジャッキアームがジャッキサポートに正しく取り付けられていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり車を損傷するおそれがあります。

! ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

! 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。

タイヤの取り外し

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴にガイドボルト①をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ **警告**

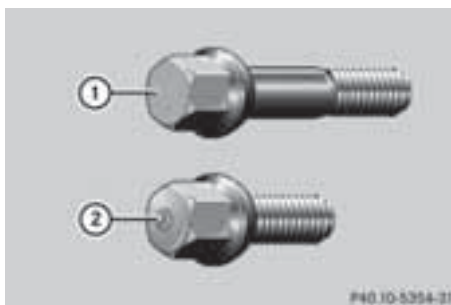
ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

⚠ **警告**

ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ **警告**

ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

▶ 応急用スペアタイヤを取り付けるためのホイールボルトを用意します。

応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②（短いホイールボルト）を使用してください。

! 標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。ホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れたり、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②

i 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、トレイ（▷315 ページ）または応急用スペアタイヤの下に収納されているか、応急用スペアタイヤに添付されています。

応急用スペアタイヤの取り付け

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルトに合わせて応急用スペアタイヤを取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

⚠ **警 告**

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

▶ ジャッキハンドルを繰り返し操作し、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

! ジャッキハンドルは、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキダウンできません。

ホイールボルトの締め付け

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 15kg-m（150Nm）です。

⚠ **警 告**

ホイールを交換した後は、すみやかにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤはラゲッジルーム内に収納し、確実に固定してください。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

タイヤフィットが車載されている車種

応急用スペアタイヤが車載されていない車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－20℃以上のときに使用できます。

応急用スペアタイヤが車載されている場合は、パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換します。詳しくは（▷346ページ）をご覧ください。

⚠ **警告**

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇ タイヤの傷が約4mm以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ ホイールに損傷がある場合
  - ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

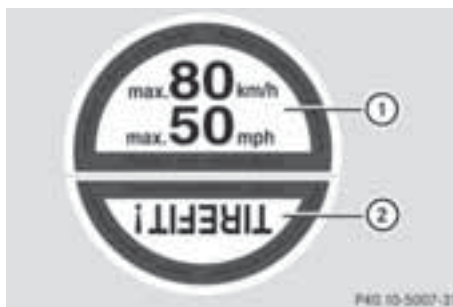
! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤフィットの準備

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ ラゲッジフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属の最高速度表示のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー②を貼ります。

⚠ 警告

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください

ⓘ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

⚠ 警 告

使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

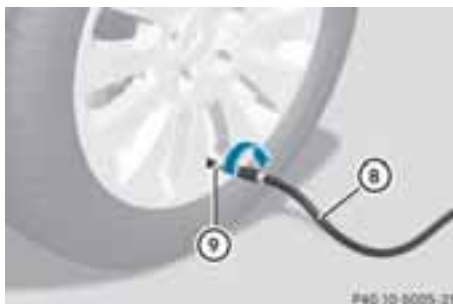
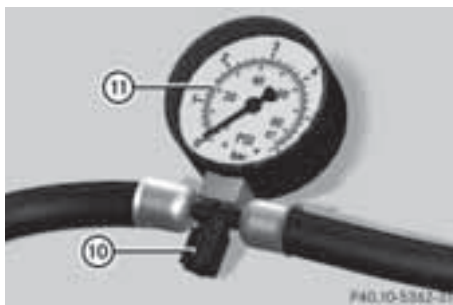
※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ ② を開きます。

▶ 電源プラグ ⑤ とエアホース ⑥ を取り出します。

▶ エアホース ⑥ をタイヤフィット ① のバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑦ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ③ に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑨ からバルブキャップを取り外します。

▶ 空気圧調整バルブ ⑩ が閉じていることを確認します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑨ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷260 ページ）に、電源プラグ ⑤ を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

▶ タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット ① を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース ⑥ を、タイヤのバルブ ⑨ に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **警 告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ④ を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ ⑤ を抜きます。

▶ タイヤのバルブ ⑨ からタイヤフィットのホース ⑧ を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース ⑥ を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ ⑪ でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 警告

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達するまで、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えた場合は、空気圧ゲージ ⑪ の空気圧調整バルブ ⑩ を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 警告

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ ④ とエアホース ⑤ を取り出します。

▶ エアホース ⑤ をタイヤフィット ① のバルブ ⑥ に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット ① のバルブ ⑥ を下にして持ち、電動エアポンプの凹部 ② に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース ⑧ を、パンクしたタイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷260 ページ）に、電源プラグ④を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

i 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

▶ タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット ① を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース ⑤ を、タイヤのバルブ ⑦ に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ 警告

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ ④ を抜きます。

▶ タイヤのバルブ ⑦ からタイヤフィットのホース ⑧ を取り外します。

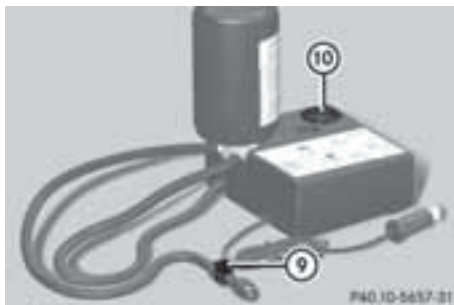
! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース ⑤ を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージ ⑩ でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 警 告

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達するまで、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えた場合は、タイヤフィットのホースの先端にある空気圧調整ボタン ⑨ を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 警 告

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約 80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 火花が出ないように注意してください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ 警告

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

i 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環 境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

バッテリーは助手席シート下部にあります。

! 他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときは、エンジンルーム内の端子にブースターケーブルを接続してください（▷364 ページ）。

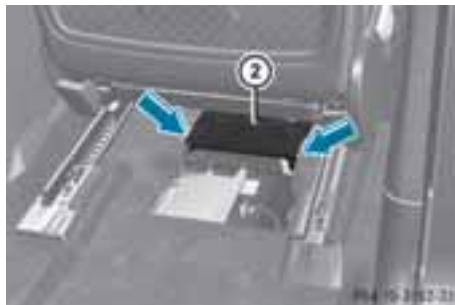
バッテリーの交換

この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ 助手席シートをいっぱいまで前方に動かします。

▶ バッテリーカバー ① を矢印の方向に持ち上げて取り外します。

▶ ミシン目がある位置まで、白い点線に沿ってカーペット ② にカッターなどで切り込みを入れます。

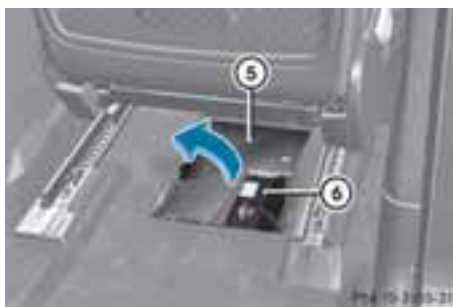
カッターなどでカーペットに切り込みを入れるときは、けがをしないように十分注意してください。

▶ 助手席シートをいっぱいまで上方および後方に動かします。

▶ カーペット ② の後端を矢印の方向にめくります。

▶ 助手席シートをいっぱいまで上方および前方に動かします。

▶ 固定クリップ ④ を取り外します。

▶ エアダクト ③ を矢印の方向に引き抜きます。

▶ バッテリー ⑥ から保護カバー ⑤ を取り外します。

▶ バッテリーから⊖端子 ⑧ を取り外し、後から外す⊕端子 ⑦ と接触しない場所に置きます。

▶ ⊕端子 ⑦ のカバーを取り外します。

▶ バッテリーから⊕端子 ⑦ を取り外します。

バッテリーの取り外し

▶ ブリーザーホース ⑨ を取り外します。

▶ 取り付けボルト ⑩ を取り外します。

▶ ブラケット ⑪ を取り外します。

▶ バッテリー ⑫ を矢印の方向に持ち上げて取り出します。

バッテリーの接続 / 取り付け

⚠ 警告

バッテリーを接続するときは、以下の手順を守って、端子の取り付け方を絶対に間違えないようにしてください。ショートして火傷をするおそれがあります。また、車両の電気装備を損傷するおそれがあります。

▶ 電気装備をすべて停止します。

▶ 取り外したときと逆の手順でバッテリーを取り付けます。

▶ ⊕端子 ⑦ を取り付け、⊕端子カバーを取り付けます。

▶ ⊖端子 ⑧ を取り付けます。

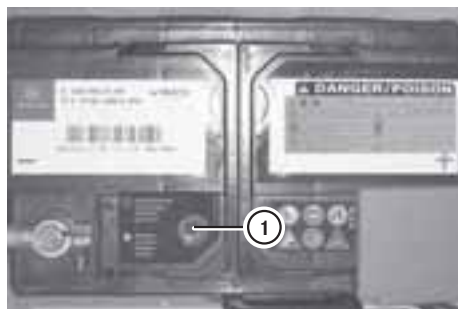
▶ 取り外したときと逆の手順で車両を元の状態に戻します。

ℹ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- ドアウインドウのリセット
- スライディングルーフのリセット
- 施錠時のドアミラー格納のリセット

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面にVRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

他車のバッテリーとブースターケーブルを接続するときは、エンジンルームの向かって左側にある⊕端子と⊖端子にブースターケーブルを接続します。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ 警 告

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

ⓘ 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（約 50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ⓘ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- ドアウインドウのリセット
- スライディングルーフのリセット
- 施錠時のドアミラー格納のリセット

ⓘ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

始動の方法

▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

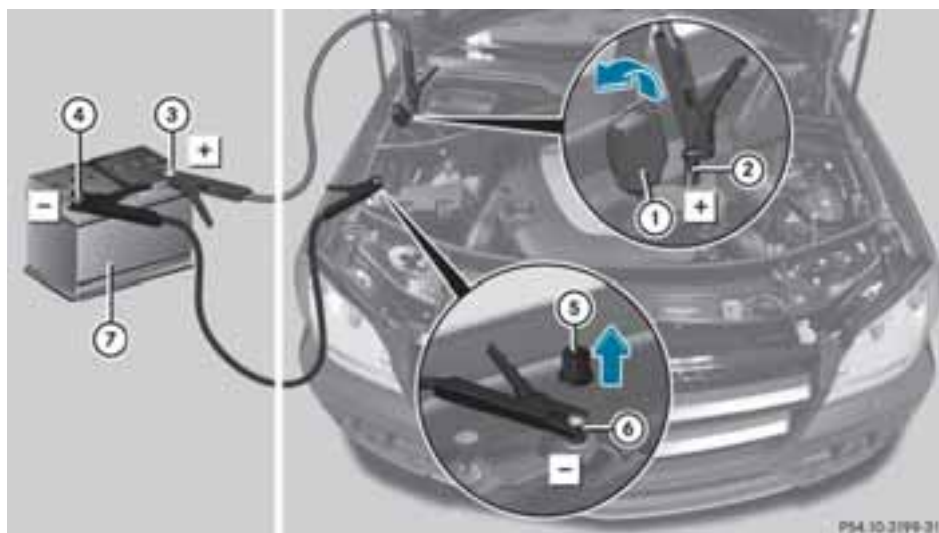
▶ 自車と救援車が接触していないことを確認してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ シフトポジションを P にしてください。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車のイグニッション位置を **0** にして、電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 自車の⊕端子カバー①を矢印の方向に開きます。

▶ 自車の⊕端子 ② に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー ⑦ の⊕端子 ③ に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 車種や仕様により、自車の⊖端子⑥にキャップ⑤が取り付けられているときは、キャップ⑤を取り外します。

▶ 救援車のバッテリー ⑦ の⊖端子 ④ に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車の⊖端子 ⑥ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 黒色ブースターケーブルを両車のバッテリーの⊖端子から外します。

先に自車の⊖端子⑥に接続している黒色ブースターケーブルを外します。

▶ 赤色ブースターケーブルを両車のバッテリーの⊕端子から外します。

先に自車の⊕端子②に接続している赤色ブースターケーブルを外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

⚠ **警告**

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、ステアリングがロックしていないことを確認してください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で搬送してください。

! トランスミッションを損傷しているときは、車両運搬車で搬送してください。

! やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

! けん引されるときは、けん引防止警報機能を解除してください（▷63 ページ）。

! けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷170 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! プロペラシャフトの取り付けナットは再使用できません。プロペラシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! ディファレンシャルロックは AUTO モードにしてください。けん引されるときは、決してディファレンシャルロックを手動操作しないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

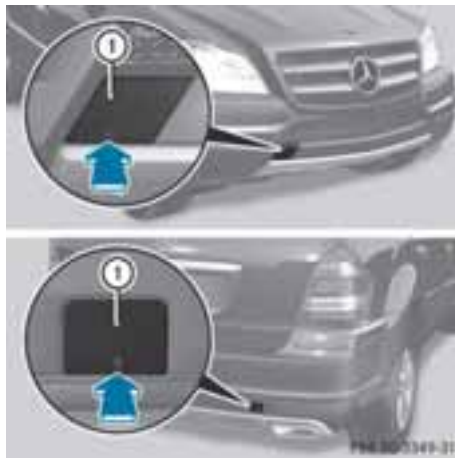
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。

- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

けん引フックの取り付け

⚠ 警告

リアのカバーを取り外すときは、マフラーに注意してください。マフラーは高温になるため、マフラーに触れると火傷をするおそれがあります。

けん引フックの取り付け位置

フロントの取り付け位置

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク部を押して、カバー ① を外します。

リアの取り付け位置

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ マーク部を押して、カバー ① を手前に引いて外します。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷314 ページ）からけん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

けん引フックを取り外す

▶ 車載工具(▷314 ページ)からホイールレンチを取り出します。

▶ ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックとホイールレンチを車載工具に収納します。

けん引する

エンジンが始動できるとき

▶ エンジンを始動し、シフトポジションを N にします。

エンジンが始動できないとき

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、イグニッション位置を **2** にして、シフトポジションを N にします。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチにキーを差し込んだままにします。

! けん引されるときは、エンジンスイッチにキーが差し込んであり、シフトポジションが N になっていることを確認してください。

エンジンスイッチからキーを抜いたり、シフトポジションが D や R のときにフロントドアを開くと、シフトポジションが P になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

車を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、イグニッション位置を **2** にして、シフトポジションを N にします。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

ぬかるみなどからけん引するとき

ぬかるみなどで動けなくなったときは、以下の点に注意してけん引してください。

- 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

  この場合はトレーラーを外し、車両後部のトレーラーカップリングを引くようにし、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ引き出してください。

けん引するときの注意

トランスファーやアクスルが故障しているときは、以下の点に注意してけん引してください。

この作業はできるだけ専門業者に依頼してください。

! トランスファーやアクスルが故障したときは、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。詳しくは（▷326 ページ）をご覧ください。

トランスファーが故障しているとき

▶ 前後のアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

フロントアクスルが損傷しているとき

▶ リアアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

リアアクスルが損傷しているとき

▶ フロントアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ リアアクスルを上げてけん引します。

バッテリーがあがっているときや電気装備が故障しているとき

バッテリーがあがっているときや電気装備が故障しているときは、シフトポジションが [P] にロックされることがあります。シフトポジションを [N] にするには、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーから電力を供給してください（▷364 ページ）。

それでもシフトポジションを [N] にできないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ 警告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

! ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入るおそれがあります。

! エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止して、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

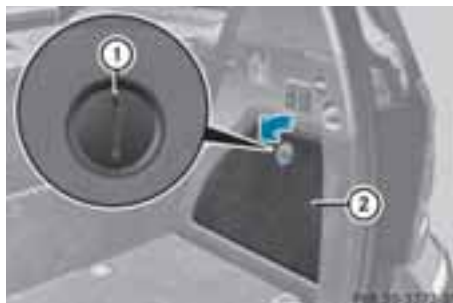
ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- エンジンルーム内運転席側
- ラゲッジルーム右側
- グローブボックス横

エンジンルーム内運転側のヒューズボックス

▶ 2 カ所のフック②を外し、カバー①を取り外します。

ラゲッジルーム右側のヒューズボックス

▶ コインなどを使用して、クリップ①を矢印の方向にまわします。

▶ カバー②を取り外します。

グローブボックス横のヒューズボックス

▶ グローブボックスを開きます。

▶ カバー①の切り欠き部に指をかけて、矢印の方向にカバーを開きます。

カバーを取り付けるときは、最初にカバーの前部を A ピラーの内側に差し込みます。

! ヒューズボックスを開くときに、ドライバーなど先のとがった物を使用しないでください。ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

ヒューズを交換する

▶ 停車します。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

エンジンルーム

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
100	30A	フロントワイパー
101	15A	エンジン制御
102	—	未使用
103	20A	エンジン制御
104	15A	エンジン制御
105	15A	エンジン制御 エンジンスターター
106	—	未使用
107	40A	二次エアポンプ
108	40A	エアサスペンション コンプレッサー
109	25A	ESP®
110	10A	ホーン （盗難防止警報システム）
111	30A	オートマチックトランスミッション
112	7.5A	オプション
113	15A	ホーン
114	5A	オプション
115	5A	ESP®
116	7.5A	オートマチックトランスミッション
117	7.5A	オプション
118	5A	エンジンコントロールユニット
119	—	未使用
120	10A	エンジンコントロールユニット
121	20A	余熱ヒーター
122	25A	エンジンスターター
123	—	未使用
124	—	未使用
125	—	未使用

グローブボックス横

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
10	10A	リアエアコンディショナーブロアモーター
11	5A	インストルメントパネル
12	15A	エアコンディショナーモジュール
13	5A	ステアリング調整 スイッチパネル
14	7.5A	エンジンスイッチ COMAND システム
15	5A	コンパスモジュール
16	—	未使用
17	—	未使用
18	—	未使用

ラゲッジルーム内右側

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
20	5A	アンテナ ボイスコントロール
21	5A	リアエアコンディショナーコントロールパネル
22	5A	パークトロニック
23	10A	携帯電話ユニット
24	40A	シートベルトテンショナー（右側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
25	15A	COMAND システム
26	25A	助手席側ドア コントロールユニット
27	30A	助手席シートメモリー機能
28	30A	運転席シートメモリー機能
29	40A	シートベルトテンショナー（左側）
30	40A	サードシート 燃料給油口
31	10A	オプション
32	15A	エアサスペンション コントロールユニット
33	25A	オプション
34	25A	運転席側ドア コントロールユニット
35	30A	オーディオアンプ
36	10A	VICS システム
37	5A	オプション
38	10A	COMAND システム
39	7.5A	タイヤ空気圧警告システム
40	30A	EASY-PACK 自動開閉 テールゲート
41	25A	スライディングルーフ
42	25A	オプション
43	20A	リアワイパー
44	—	未使用
45	20A	12V 電源ソケット（センターコンソール後端、ラゲッジルーム）
46	15A	ライター
47	10A	オプション
48	5A	リアディファレンシャルロックコントロールユニット
49	30A	リアデフォッガー
50	15A	リアワイパー
51	5A	オプション
52	5A	シートベルトテンショナーコントロールユニット リアディファレンシャルロックコントロールユニット

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
53	5A	AIR マティックサスペンションコントロールユニット センターディファレンシャルロックコントロールユニット
54	5A	ヘッドライト光軸自動調整 コントロールユニット
55	7.5A	インストルメントパネル ライトスイッチ
56	5A	自己診断ソケット
57	20A	燃料ポンプ
58	7.5A	自己診断ソケット
59	7.5A	オプション
60	5A	グローブボックスライト フロントワイパー VICS システム
61	7.5A	エアバッグシステム
62	—	未使用
63	—	未使用
64	—	未使用
65	—	未使用
66	30A	マルチコントロール シートバック
67	25A	リアファン
68	25A	オプション
69	30A	電子制御ディファレンシャルロック
70	—	未使用
71	—	未使用
72	—	未使用

（2010-05-05 A164 006 67 99）

ⓘ ヒューズ配置表（英文）は、車載工具にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 警 告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ℹ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ 警 告

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の使用に対する適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- ドア
- ピラー付近
- サイドシル付近
- シート
- ダッシュボード
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- エアバッグ収納部
- シートベルト

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号などが必要になることがあります。

車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

① ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート ① が貼付されています。

車台番号

車台番号は、ダッシュパネルの図の位置に表示されています。また、右側セカンドシート下部のボディフレームにも車台番号が打刻されています。

② 車台番号

右側セカンドシート下部の車台番号を確認する

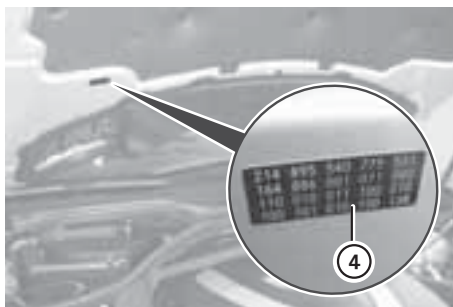
③ カーペット

▶ カーペット ③ を矢印の方向にめくり上げます。

車台番号が確認できます。

! カーペットをめくり上げるときは、指や爪にけがをしないように注意してください。

※ 仕様により、右側セカンドシート下部の車体番号の刻印位置が異なります。

オプションコードプレート

④ オプションコードプレート

ボンネット裏側にオプションコードを記載したオプションコードプレート ④ が貼付されています。

エンジン番号

⑤ エンジン番号

エンジンブロック後部にエンジン番号 ⑤ が打刻されています。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ず Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ **警 告**

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ **警 告**

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **警 告**

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 100 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 13 ℓ

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。少量でも軽油を給油すると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環 境

CO2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO2排出量を最小限に抑えることができます。

エンジンオイル

! エンジンオイルの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

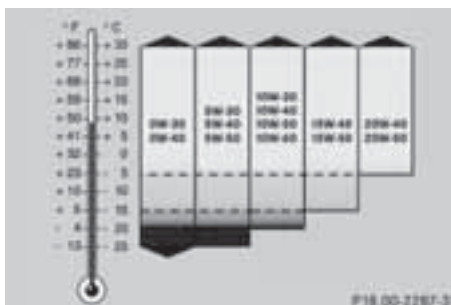
エンジンオイル容量

容量	約 9.0 ℓ

i 容量は、オイルフィルター分を含む、交換時の数値です。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください。

⚠ 警告

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **警 告**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **警 告**

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

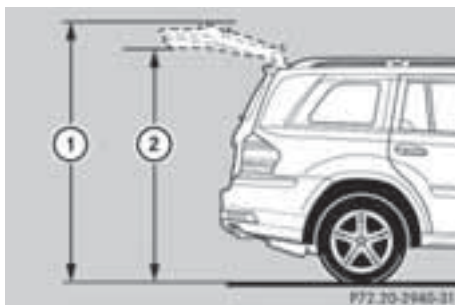
車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	95Ah

積載荷物の制限重量

ルーフレール	90kg

i ルーフレールの制限重量には、クロスバーやアタッチメントの重量も含まれます。

テールゲートを開いたときの高さ

① テールゲートを開いたときの高さ（外側）
② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	2100 ～ 2210mm
②	1906 ～ 2016mm

ℹ タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、車両操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷282 ページ）。

ℹ 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

ℹ タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ / ウィンタータイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
275 / 50R20	8.5J × 20	56mm

! 標準タイヤ / ホイールには、スノーチェーンを装着しないでください。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

オプション装着用タイヤ / ホイール

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
19 インチホイール	265 / 55R19 M+S	8.5J × 19	56mm
	275 / 55R19		
	275 / 55R19 M+S		
21 インチホイール	295 / 40R21	10.0J × 21	37mm

※ 仕様により、選択できるオプション装着用タイヤ / ホイールは異なります。

! タイヤサイズ 265 / 55R19 M+S 以外のオプション装着用タイヤ / ホイールには、スノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	タイヤ空気圧
T165 / 90 -19	4.5B × 19	40mm	4.2bar / 61psi / 420kpa

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

対象モデル

GL 550 4MATIC

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2011 年 9 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目 9 番 9 号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32440-091100400 J
6515 4347 20 ÄJ2011/Va, 09/11